

戸長設置一三〇年
消防組織一二〇年

記念

愛郷かもえない



神恵内村章・村旗

神恵内村の魚



サケ

《選定の理由》

母なる川に回帰して

いのちを燃やしつくすサケ

その広大な行動力と、愛の深さは

村民に、愛郷心と働く力をつけてくれる

[1982年11月3日制定]

神恵内村の木



トド松

《選定の理由》

風雪に耐えぬくトド松

そのたくましい生命力と

心の豊かさは

村民に、勇気と希望を与えてくれる

[1982年11月3日制定]

神 恵 内 村 歌

光のオーケストラ

作詞 原子 修
作曲 川越 守

The image shows a musical score for a song. It consists of seven staves of music. The first six staves are vocal lines with lyrics in Japanese. The seventh staff is a piano accompaniment. The lyrics are:

カサムイナイ ンネナ イ ンネナ イ しん びの さ わ に

フルウのかわ わ で

ひかりの ダイヤモンドが ふりし き

オーケストラが たいさだ

うつくしい さ とと フレッシュマの うみは

すばらしい そに あゆ

お くすみ すいへい せん に ういう い しろ かぜが うまれで

う ひもえ おおな ばらを こがね い ろの あすが とどろい

て わたしたちの ころを かも め り

わたしたちの つどい に みど ウも

オリ ゆつ たき かな い の ちみ で いっぱい いに すー

かなで てくれ

る る 1-2 カ モ エ ナ イ

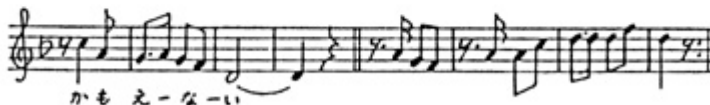
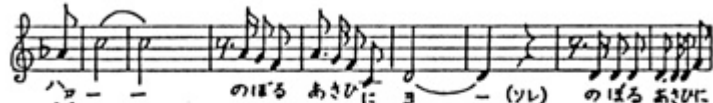
神 恵 内 村

符サンネナイ・・・フルウの川で
光のオーケストラがうたいだす
すばらしい郷
カバラシララの磯に 夕陽もえ
大海原を
黄金いろの明日がとどろいて
わたしたちのつどいに
緑・・・森・・・
つきせぬ恵みをかなでてくれる

父カムイナイ・・・神秘の沢に
光のダイヤモンドが降りしきる
うつくしい郷
フレッシュマの海は 青く澄み
水平線に
ういういしい風がうまれでて
わたしたちの心を
鷗・・・魚・・・
ゆたかな命でいっぱいにする

神 恵 内 音 頭

勝目 有 作詞
山口祐功 作曲



ハアー昇る朝日にヨー(ソレ)
昇る朝日に大漁の旗と

キス熊つれしや、恋を呼ぶ
(ヨイシヨ)

ホンニヨイヨイ 神恵内
(サテ)

ハアー夏の海辺はヨー(ソレ)
夏の海辺は海水浴と

丘ではキャンプファイヤが
(ヨイシヨ)

ホンニヨイヨイ 神恵内
(サテ)

ハアー熱い情けにヨー(ソレ)
熱い情けに心も濡れる

湯の沢温泉ゆのけむり
(ヨイシヨ)

ホンニヨイヨイ 神恵内
(サテ)

ハアー落ちる夕日のヨー(ソレ)
落ちる夕日のキナウスの海

ウエンチクナイ シシヤモナイ
(ヨイシヨ)

ホンニヨイヨイ 神恵内
(サテ)

神恵内

戸長設置一二〇年記念の歌

積丹半島

	作詞	石本美由起
	作曲	岡千秋
編曲		前田俊明
唄		天童よしみ

春が来たから 鯨がくると

騒ぎ始める 半島かもめ

ここは積丹 神恵内

漁を仕掛ける 角網に

男 銀次郎 血が通う

ドッコイ 度胸の 日本海

舟を出したら 一心不乱

海は稼ぎ場 男の世界

ここは積丹 神恵内

獲れた鯨を 始末する

浜じゃ 元気な 女子衆

ドッコイ 繁昌の 花が咲く

漁師冥利は 荒波勝負

舟は鯨の 宝の山だ

ここは積丹 神恵内

今日も稼いだ 喜びに

大漁 目出度い 漁師町

ドッコイ 笑顔の 夫婦酒

戸長設置一三〇年
消防組織一二〇年
記念

愛郷かもえない

・名誉村民
・功勞者名簿
.....
38 37

四、故郷を愛する人々

・札幌神恵内会
..... 会長 本間 一
・札幌珊瑚内会
..... 会長 山谷 文吉
46 43

五、往時を偲ぶ

・産婆になつて
..... 神恵内 柿崎 愛子
・岩内まで歩いて行つた七里の道
..... 神恵内 鹿取 幸次郎
・時化ると波が上がつて歩けなくなつた道
..... 赤石 北村 忠一
・荷物を運ぶため毎日山越えした日々
..... 珊瑚内 田中 忠一
・会議に出るにも命がけ
..... 川白 阿部 一
・一九歳で海軍に...隠居縄でマグロ三〇キロ
..... 川白 梅井 文雄
・道路が出来て墓参り
..... 川白 三澤 みよ
・密漁追いかけ...コンブ焼いてヨード造り
..... 川白 千葉 正二
68 66 64 61 58 54 51 49

六、神恵内村の年表

・戸長設置一三〇年の歴史
..... 71
・消防組織一二〇年の歴史
..... 185
189



愛郷かもえない

神恵内村長 高橋 昌幸

今年、神恵内村が明治五年（一八七二年）に「神恵内戸長」と「古宇病院」が設置されてから一三〇年、明治一五年（一八八二年）に「私設消防組」が設置されてから一二〇年、大正一一年（一九二二年）に茂岩 神恵内間の道路が開通してから八〇年を迎える節目の年であります。

この間、一三〇年の永きにわたり、多くの困難を乗り越えて今日の神恵内村の基礎を築き上げられた先人のたゆまぬご努力に対し深い敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

この機会に、先人の偉業や歴史を後世に伝えることが現在に生きる私たちの責務であると考え、「愛郷 かもえない」を刊行することにいたしました。

私は、平成一四年三月一七日から村政を担当させていただいており、健康で、明るく、生きがいのある神恵内村の実現のために村民の皆さまのご協力をいただき、議会と一体となって努力していますが、

現在の神恵内村は過疎化、少子高齢化、漁業の低迷、財政問題など非常に厳しい情勢であります。

しかし、村民が同じ目的のもとに一致協力し、英知を結集することにより、必ず道は拓かれると確信していますので、今後ともみなで考え、みなで行動して、みなでこの素晴らしい郷土神恵内村を創るために一人でも多くの方のご参加をお願い申し上げます。

本書が多くの方のご愛読のもとに、急激に変貌する現代社会の源を知っていただくとともに、将来の郷土発展のためのよすがとなればこれに勝る発刊の意義はありません。

最後になりましたが、本書を刊行するにあたり、多くの方々の労を惜しまぬご協力・ご支援に心から感謝を申し上げます。

平成一四年一月

戸長設置一三〇年…行政のあゆみ

戸長の設置

戸長は、明治五年（一八七二年）に施行された戸籍法によつて、設置されるようになった。

そこで、各郡毎に戸長の人選が行われたが、神恵内では従来までの名主の職にあつた田付新十郎氏が選ばれ、初代戸長となつた。

戸長詰所は、開拓使古宇出張所内の一室があてられ、戸長事務がとられた。

* 戸長役場

明治五年に戸籍法の制定によつて戸長が設置されたが、北海道の開発が進むにしたがつて、地方制度の充実改革が行われ、戸長制度についても、明治一二年に戸長職務概目が定められ、事務所を役場と改称することとなつた。

神恵内村においては神恵内と珊内に戸長役場が設置された。

神恵内戸長役場の所在地は、神恵内村八一番地で神赤医院（現・神恵内警察官派出所）の付近であつ

「戸長職務概目」（明治二年七月三日第一四号達） 戸長の職務

- 第一 布告布達ヲ町村内ニ示ス事
- 第二 地租及諸税ヲ取纏上納スル事
- 第三 戸籍ノ事
- 第四 徴兵下調ノ事
- 第五 地所建物船舶質入書入並売買ニ奥書加印ノ事
- 第六 地券台帳ノ事
- 第七 迷子、捨子及行旅病人、変死人其他事変アル時
八警察官ニ報知ノ事
- 第八 天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下窮迫者ヲ具状スル
事
- 第九 孝子節婦其他篤行者ヲ具状スル事
- 第一〇 町村ノ幼童就学勧誘ノ事
- 第一一 町村内ノ人民印影簿ヲ整置スル事
- 第一二 諸帳簿保存管守ノ事
- 第一三 河港、道路、堤防、橋梁、其他修繕保存スベキ
物ニ就キ利害ヲ具状スル事

右ノ外本支庁長官又ハ郡区长ヨリ命令スル所ノ事務ハ規則又ハ命令ニ依リテ従事スベキ事其他町村限道路橋梁用悪水ノ修繕掃除等凡協議費ヲ以テ支弁スル事件ヲ管理スルハ此ニ掲ル所ノ限ニ非ス

明治二年十一月 第二二号達

各町村戸長事務所ヲ戸長役場と称すべし。但、戸長役場は其の町村の便宜により私宅に於て事務取扱つても妨なし。

た。戸長役場の外に浦役場、駅通、公立病院が一つの建物の中に入っていたが、この建物は明治六年に建築された開拓使古宇出張所庁舎であり、明治一年開拓使から払下げを受けたものである。

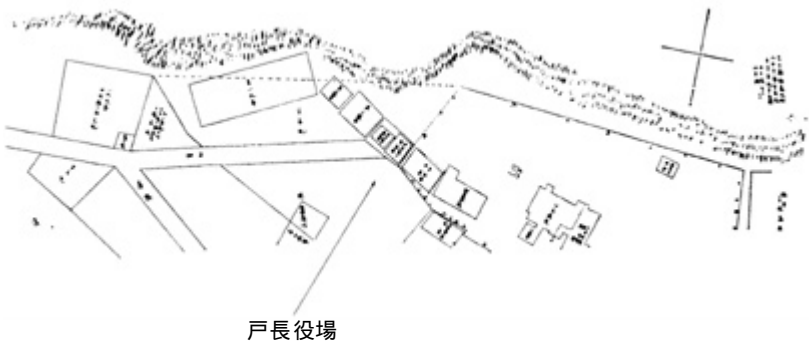
戸長は函館の土族清水祐之が任命され、戸長の下に雇一人、村用係三人が配置されて、神恵内・赤石の戸長事務が処理された。

珊内戸長役場は、珊内村六六番地にある戸長渡辺嘉吉の私宅の一部（五坪）を当てて設置され、珊内・川白の戸長事務が処理された。しかし、明治二年に至り珊内戸長役場を廃止し、神恵内戸長役場が珊内・川白の戸長事務を処理するようになった。

神恵内戸長役場は明治三十九年三月三十一日まで存続し、同年四月一日二級町村制施行にともなうて神恵内村役場に移行した。

二級町村制

明治三十九年四月一日、神恵内村は二級町村として指定を受け、新たな村政の幕が開かれた。



戸長役場敷地

歴代戸長

神 恵 内

代	氏 名	在 任 期 間
初	田付新十郎	明治五年七月～七年八月
二	佐々木平門	七年九月～二年一〇月
三	清水 祐之	二年二月～八年一月
四	道沢 昌安	八年二月～不詳
五	藤井 次郎	不詳～二七年
六	中里 秀彦	二七年～不詳
七	多久和官三郎	不詳
八	中里 秀彦	不詳～三三年
九	坂本 国命	三三年～不詳
一〇	後藤要之助	三三年四月～三三年一月
一一	長谷川岩蔵	三三年二月～三四年三月
一二	難波 信季	三四年四月～三四年八月

代	氏 名	在 任 期 間
一三	高桑 博	明治三四年九月～三五年一月
一四	中島 錫	三五年二月～三六年八月
一五	今井 恭吉	三六年九月～三六年九月
一六	菊地 竹治	三六年一〇月～三九年三月



珊内戸長 渡辺嘉吉

珊 内

代	氏 名	在 任 期 間
初	渡辺 嘉吉	明治一三年～不詳
二	山下祐次郎	不詳～二年

明治三十九年四月一日第一六代戸長から
初代村長への引継書



事 務 引 継 書
 北海道二級町村制（具施行期）に別紙引継書類
 設書芽尾尾号了芽拾八册並町村骨欠
 明細書相添へ事 務 引 継 書
 明治三十九年四月一日
 元 神 志 内 村 長 前 地 所 長
 元 神 志 内 村 長 前 地 所 長
 右引継、依り相承、遂に正引継候也
 明治三十九年四月一日
 神 志 内 村 役 場
 古 印 部
 神 志 内 村 長 前 地 所 長
 神 志 内 村 役 場

歴代村長

代	氏名	在任期間
初	菊地 竹治	明治三十九年四月 - 四〇年二月
二	佐藤 貫一	四〇年二月 - 大正二年五月
三	澤田 善博	大正二年五月 - 五年八月
四	千葉忠次郎	五年九月 - 七年二月
五	伊藤第四郎	七年〇月 - 二年二月
六	尾形 良憲	二年二月 - 五年六月
七	小野寺吉太郎	五年六月 - 昭和四年二月
八	鈴木仁治郎	昭和四年二月 - 七年四月
九	円子喜四郎	七年四月 - 五年四月
一〇	橋村 誠	五年四月 - 九年七月
一一	今井 七司	九年七月 - 二年二月
一二	木村 文忠	二年四月 - 八年二月
一三	北井七太郎	八年二月 - 四年二月
一四	高山 庸一	四年二月 - 平成二四年三月
一五	高橋 昌幸	平成二四年三月 - 現在



北井七太郎



橋村 誠



小野寺吉太郎



千葉忠次郎



高山 庸一



今井 七司



鈴木仁治郎



伊藤第四郎



高橋 昌幸



木村 文忠



円子喜四郎



尾形 良憲

初代、二代、三代村長は写真不明

総 代 人



総代人 大崎 亀吉

総代人は、町村議회가 成立するまでの間、町村民を代表して町村政に参画した。

その沿革は、明治七年に大小区画が定められた

ときに初めて総代が置かれ、一年に「総代人選挙法」「総代人心得」が制定され、町村総代人、小区総代人が選挙され、金款公借、共有物取扱土木起工等町村の重要事項に参画するようになった。

総代人は名誉職で、定員は一小区二、四人とし、任期は二年、毎年半数を改選することとした。

総代人の資格は、二〇歳以上の男子で北海道に一〇〇円以上の地券を持ち、かつ、その町村に本籍を持つ者とした。

一二年に郡区町村が編成されてからは中小区の総代人は廃止され、郡区総代人が置かれた。

神恵内における総代人については、記録に欠けて

いるので明らかでないが、判明している総代人として大崎亀吉氏がいる。

同氏に交付された辞令には

明治一一年一月三日に古宇区務所から「本使乙第一〇号御布達により、神恵内総代人申渡候事」

明治一三年八月二五日に古宇郡長築瀬真精から「本年七月本使乙第七号御布達により総代人投票選挙人目前に於て開札候処、高点に付、以来古宇郡総代人と可相心得事」

明治一五年八月、総代満期に付退職す。

明治一六年三月二日に神恵内村戸長役場から「投票多数を以て当神恵内村総代人当選の処、郡長に於て認可相候条此段及御達候也」

明治一八年八月、総代満期に付退職す。

明治一八年一〇月一五日に神恵内村戸長役場から「投票多数を以て当神恵内村総代人当選の処、郡長に於て認可相成条此段及御達候也」

明治一九年八月、神恵内村総代人満期に付退職す。

この他に、明治一七年の記録によると

神恵内村総代人	大崎 亀吉	高橋 勇助
赤石村 総代人	佐野川弘治	福原 留吉
珊内村 総代人	山下祐治郎	池田市右衛門

村議会の誕生

二級町村となったことにより、これまでの総代人に代わって、村政の議決機関として議会が設置されることになり、第一回選挙は明治三十九年六月一日執行され一〇名の議員が選出された。

選挙制度は現在のように満二〇歳以上の男女全員でなく、公権を持つ男子で、一年以上町村内に居住し、地租年額一〇錢以上を納め、又は、直接国税、北海道水産税及び両者の合計が年額五〇錢以上納め、又は耕地一町歩、若しくは宅地百坪以上を所有するなど、一定条件を具備したのだけによる制限選挙で、選挙運動についても比較的自由に行われていた。有権者数について大正一三年の記録では、村会議員三二九人となっている。

議長は議員の互選によることなく、村長が議長となつて議事を運営していた。

議員の任期は、明治三十九年六月から昭和三年五月までは二年、その後四年となつたが、昭和一五年六月に組織された議会は戦時下であつたため二二年ま

で延長された。

歴代議員で長期間村政に尽くした方を挙げてみると

高橋 信 茂	一四年	本間 甚右衛門	二四年
米田 豊 作	二〇年	若林 岩 藏	二七年
干場 栄 吉	一五年	北井 長 作	二六年
井上 茂 助	二四年	橋村 定 助	一六年
鈴木 信太郎	一五年	池田 富五郎	一五年

神恵内村議会

第一期 明治三十九年六月一日～明治四一年五月三一日

秋山文治	澤口忠次郎	兵藤富藏	高橋信茂	北井長作
小倉源次郎	福原清藏	佐々木未治	大淵豊吉	三橋謙藏
(註) 佐藤長之助(川白)	と三橋謙藏(珊内)	が当選したが、失格となり、明治四一年一月二二日補欠選挙の結果、大淵豊吉と三橋謙藏が当選		

第二期 明治四一年六月一日～明治四三年五月三一日

高橋信茂	北井長作	澤口忠次郎	本間甚右衛門	木下寅吉	宇佐美成藏	出町初太郎	小倉源次郎	本間忠次郎
大淵豊吉	越前長次郎							

(註) 秋山文治(神恵内)と三橋謙藏(珊内)が当選したが失格となり、澤口忠次郎(神恵内)は死亡のため、補欠選挙の結果、木下寅吉、宇佐美成藏、越前長次郎が当選

第三期 明治四三年六月一日～明治四五年五月三一日

本間甚右衛門 高橋信茂 北井長作 井上茂助 木下寅吉 小倉源次郎 出町初太郎 大淵豊吉 本間忠次郎 佐藤末吉

第四期 明治四五年六月一日〜大正三年五月三十一日

小倉平助 井上茂助 高橋信茂 澤口庄助 新谷光太郎 本間甚右衛門 北井長作 佐藤惣吉 出町初太郎 田付甚吉 中田桑次郎 本間忠次郎

第五期 大正三年六月一日〜大正五年五月三十一日

新谷光太郎 澤口庄助 池田長吉 北井長作 本間甚右衛門 高橋信茂 福原清藏 斎藤清次郎 米田豊作 三橋謙藏 本間忠次郎 佐藤末吉

第六期 大正五年六月一日〜大正七年五月三十一日

井上茂助 橋村定助 高橋信茂 本間甚右衛門 澤口庄助 北井長作 松浦仙太郎 米田豊作 三橋謙藏 中田桑次郎 熊野栄次郎 佐藤末吉 (註)北田仁太郎(神恵内)、小倉源次郎(赤石)、吉江留太郎(赤石)が辞任したため、澤口庄助、北井長作、米田豊作が当選

第七期 大正七年六月一日〜大正九年五月三十一日

澤口庄助 井上茂助 本間甚右衛門 高橋信茂 北井長作 橋村定助 福原清藏 松浦仙太郎 米田豊作 熊野栄次郎 中田桑次郎 若林岩藏

第八期 大正九年六月一日〜大正一一年五月三十一日

井上茂助 佐野川久吉 本間甚右衛門 北井長作 橋村定助 出町初太郎 吉江留太郎 緑谷富藏 松浦仙太郎 中川慶次郎 若林岩藏 佐藤栄吉

(註)高橋信茂(神恵内)は病氣退職のため、橋村定助が補欠当選

第九期 大正一一年六月一日〜大正一三年五月三十一日

井上茂助 佐野川久吉 本間甚右衛門 北井長作 橋村定助 出町初太郎 米田豊作 中田桑次郎 熊野栄次郎 若林岩藏

第一〇期 大正一三年六月一日〜大正一五年五月三十一日

福島岩藏 佐野川久吉 北井長作 橋村定助 本間甚右衛門 井上茂助 米田豊作 出町初太郎 熊野栄次郎 若林岩藏

(註)井上茂助(神恵内)、米田豊作(赤石)、越前長次郎(珊内)が当選したが、失格となり、補欠選挙の結果、本間甚右衛門 井上茂助 米田豊作が当選

第一期 大正一五年六月一日〜昭和三年五月三十一日

北井長作 澤口庄助 本間甚右衛門 橋村定助 井上茂助 出町初太郎 米田豊作 山内長造 中川慶次郎 金子訓平

(註)福島岩藏(神恵内)が当選したが、大正一五年七月二〇日辞職のため井上茂助が当選

第二期 昭和三年六月一日〜昭和七年五月三十一日

井上茂助 橋村定助 本間甚右衛門 本間忠治 高橋信
茂 北井長作 秋山政治 米田豊作 鈴木信太郎 山内長
造 三橋謙藏 若林岩藏

(註) 澤口庄助(神恵内)が当選したが、昭和四年三月一
日転住失格のため、秋山政治が補欠当選

第一三期 昭和七年六月一日〜昭和十一年五月三十一日

本谷清太郎 万寿祐治 稲葉光次良 小倉卯之助 北井
彦次 井上茂助 秋山政治 三上丑松 米田豊作 干場栄
吉 若林岩藏 池田富太郎

(註) 橋村定助(神恵内)が当選したが、昭和七年八月三
一日辞職のため三上丑松が補欠当選

第一四期 昭和十一年六月一日〜昭和十五年五月三十一日

小倉卯之助 稲葉光次良 佐野川久吉 万寿祐治 川島
四五六 北井長作 本谷 清太郎 三上丑松 鈴木信太郎
干場栄吉 池田富太郎 若林岩藏

第一五期 昭和十五年六月一日〜昭和二十二年四月二十九日

佐々木吉藏 北井長作 山本山五郎 高田久岩 村木亀
太郎 岩澤 朔 山内豊吉 鈴木信太郎 干場栄吉 田中
明 池田富太郎 若林岩藏

昭和二十二年地方自治法の制定により、地方自治体
の議決機関として議会が設置され、第一回の統一地
方選挙は同年四月三〇日に執行された。

議員定数は人口規模によつて決められているが、
神恵内村では一六名が定数と決まり、住民代表とし
て村政に参画するようになった。

議長及び副議長は、議員の選挙で決められ、初代
議長には川白の若林岩藏氏が選ばれた。

歴代議長及び副議長

昭和二年五月〜二六年四月

議長 若林 岩藏 副議長 山本山五郎

副議長 高橋庚子郎

(二五年二月から)

昭和二六年五月〜三〇年四月

議長 若林 岩藏 副議長 松館勇次郎

昭和三〇年五月〜三二年四月

議長 若林 岩藏 副議長 松館勇次郎

昭和三二年五月〜三四年四月

議長 高田 久岩 副議長 山田 数一

(三四年三月から議長欠員)

昭和三四年五月〜三八年四月

議長 松館勇次郎 副議長 高澤 明雄

昭和三八年五月〜四二年四月

議長 松館勇次郎 副議長 高澤 明雄

昭和四二年五月～四六年四月

議長 松館勇次郎 副議長 米田 清作

昭和四六年五月～五〇年四月

議長 米田 清作 副議長 川島四五六

昭和五〇年五月～五四年四月

議長 松館勇次郎 副議長 小林 元行

昭和五四年五月～五八年四月

議長 米田 清作 副議長 滝本長次郎

昭和五八年五月～六二年四月

議長 小林 元行 副議長 金田一清作

昭和六二年五月～平成三年四月

議長 斎藤 敬作 副議長 佐藤久次郎

平成三年五月～平成七年四月

議長 斎藤 敬作 副議長 岡村作次郎

(平成四年五月)

副議長 羽山 守也

(平成四年六月二〇～平成七年四月)

平成七年五月～平成一一年四月

議長 佐藤久次郎 副議長 岡村作次郎

平成一一年五月～平成一三年五月

議長 羽山 守也 副議長 菅原勲太郎

平成一三年五月一〇日～一四年九月

議長 滝本長次郎 副議長 若林 彰

平成一四年九月三〇日～現在

議長 若林 彰 副議長 岩澤 克明



議長 若林 岩藏



議長 高田 久岩



議長 松館勇次郎



議長 米田 清作



議長 小林 元行



議長 斎藤 敬作



議長 佐藤久次郎



議長 羽山 守也



議長 滝本長次郎



議長 若林 彰

歴代議員

第六期 昭和二年四月三〇日～二六年四月二九日

佐々木吉藏 村木龜太郎 川島四五六 高澤明雄 土

橋松次郎 高田久岩 小浜忠次郎 山本山五郎 本間甚

右衛門 高橋庚子郎 鈴木信太郎 小林元行 干場兼吉

若林岩藏 山内勝美

第七期 昭和二六年四月三〇日～三〇年四月三〇日

綿谷 栄 川島四五六 高田久岩 高澤明雄 松館勇

次郎 米田清作 村木龜太郎 岩澤 朔 菅原正雄 土

橋松次郎 鈴木信太郎 小林元行 干場兼吉 坂本勝栄

若林岩藏 山田数一

【註】本間甚右衛門（神恵内）小浜忠次郎（神恵内）

佐野川 哲（神恵内）が当選したが、本間、小浜は死

亡、佐野川は辞職により、岩澤 朔、菅原正雄、土橋松

次郎が補欠当選。

第八期 昭和三〇年五月一日～三四年四月三〇日

川島四五六 高田久岩 高澤明雄 松館勇次郎 米田

清作 岩澤 朔 菅原正雄 土橋松次郎 金田一清作

黒崎英夫 山内 一 小林元行 干場兼吉 若林岩藏

山田数一 松田直藏

第九期 昭和三四年五月一日～三八年四月三〇日

松館勇次郎 高澤明雄 川島四五六 高田久岩 米田

清作 岩澤朔 土橋松次郎 黒崎英夫 村木龜太郎 斎
藤敬作 小林元行 山内 一 坂本勝栄 島谷清一 山

田数一 若林久晃

第二〇期 昭和三八年五月一日～四二年四月三〇日

松館勇次郎 高澤明雄 川島四五六 高田久岩 米田

清作 岩澤 朔 斎藤敬作 金田一清作 松屋淳一 小

林元行 山内 一 島谷清一 滝本長次郎 若林久晃

高田梅吉 長濱賢藏

第二一期 昭和四二年五月一日～四六年四月三〇日

松館勇次郎 米田清作 金田一清作 佐藤久次郎 高

澤明雄 高田久岩 岩田久好 岩澤 朔 川島四五六

稲葉光雄 小林元行 山内 一 島谷清一 滝本長次郎

高田梅吉 長濱賢藏

第二二期 昭和四六年五月一日～五〇年四月三〇日

(定員一四名)

松館勇次郎 川島四五六 米田清作 金田一清作 村

田敏一 佐藤公彦 黒崎英夫 小林元行 山内 一 渡

辺市雄 滝本長次郎 羽山守也 高田梅吉 長濱賢藏

第二三期 昭和五〇年五月一日～五四年四月三〇日

村田敏一 米田清作 松館勇次郎 羽山守也 佐藤久

次郎 金田一清作 岡村作次郎 斎藤敬作 黒崎英夫

稲葉光雄 川島四五六 滝本長次郎 小林元行 土橋義

雄

第二四期 昭和五四年五月一日～五八年四月三〇日

齋藤敬作 金田一清作 松館勇次郎 米田清作 渡辺

市雄 稲葉光雄 土橋義雄 村田敏一 岡村作次郎 長

濱賢藏 滝本長次郎 黒崎英夫 小林元行 佐藤久次郎

第二五期 昭和五八年五月一日～六二年四月三〇日

齋藤敬作 齊藤幸市 佐藤久次郎 村田敏一 米田清

作 金田一清作 滝本長次郎 羽山守也 小林元行 菅

原勘太郎 岡村作次郎 長浜賢藏 稲葉光雄 土橋義雄

第二六期 昭和六二年五月一日～平成三年四月三〇日

(定員一二名)

齋藤敬作 村田敏一 佐藤久次郎 若林 彰 米田清

作 菅原勘太郎 澤口成吉 金田一清作 齊藤幸市

阿部 一 羽山守也 岡村作次郎

第二七期 平成三年五月一日～平成七年四月三〇日

岡村作次郎 齊藤幸市 大井隆三 齋藤敬作 佐藤久

次郎 澤口成吉 滝本長次郎 若林 彰 阿部 一

菅原勘太郎 羽山守也 菅原茂敏

第二八期 平成七年五月一日～平成一一年四月三〇日

阿部 一 上田道博 羽山守也 岩澤克明 大井隆三

澤口成吉 菅原茂敏 滝本長次郎 菅原勘太郎 若林

第二九期 平成一一年五月一日～現在(定員一〇名)

大井隆三 稲葉寛久 若林 彰 林 栄之助 岡村作

次郎 滝本長次郎 澤口成吉 岩澤克明 菅原勘太郎
羽山守也



議會開催風景

本陣跡地記念碑

開村一〇〇年を記念して
未来の発展を祈り建立す

昭和四七年一月三日

神恵内村長 北井七太郎



記念碑寄贈者 伊藤吉弥・田川賢藏
題字揮毫 本間啓三

役場庁舎の沿革

明治十一年（一八七八年）開拓使古宇出張所庁舎の払下げを受け、神恵内戸長役場にあてる。建坪六六坪二合五勺、病院と併設した。

明治三十三年（一九〇〇）四月二一日の大火で焼失、同年秋に復旧した。建坪三三坪

大正二年（一九一三）一月七日に会議室二〇坪新築、建築費六三一円七銭、木造平家建。

昭和八年（一九三三）四月に会議室は二八坪となる。

一〇月に書庫二坪五合新築、木造二階建、建築費二五〇円。

昭和一六年（一九四一）八月に明治三十三年建築した三三坪を解体し、事務室、宿直室、小使室等、四三坪五合を建築。建築費四、三五〇円。

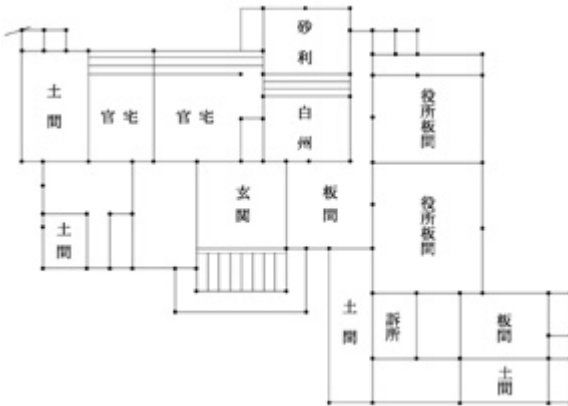
昭和四三年（一九六八）七月に役場庁舎解体、同時に村長住宅も解体し、同敷地内に新庁舎の建設着手。

昭和四四年（一九六九）六月五日工事竣工、建坪二三三坪七三、建築費三、一八六万円、鉄筋造二階建、八月一四日庁舎落成式を挙行。

平成元年（一九八九）役場庁舎の増改築工事着手。六月二九日完成。鉄筋コンクリート造、面積一五四㎡、（一階七四㎡・二階八〇㎡）事業費六三、四三四千円

明治11年開拓使から払下げをうけた当時の戸長役場

（ 部屋部分は開拓使古宇出張所のもの ）
 病院及び病室として使用 | 戸長役場として使用



神恵内・赤石・珊内三ヶ村戸長役場（明治25年8月落成～明治33年）



明治33年から昭和16年までの役場庁舎



役場庁舎落成（昭和16年～昭和43年まで）



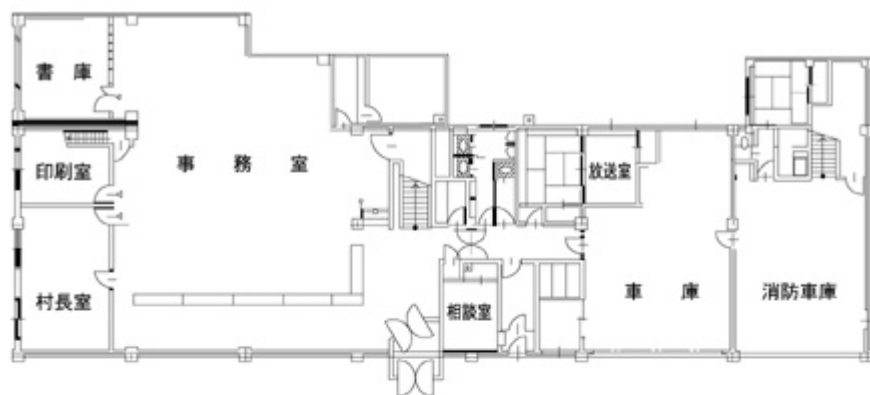
昭和44年に完成した役場庁舎



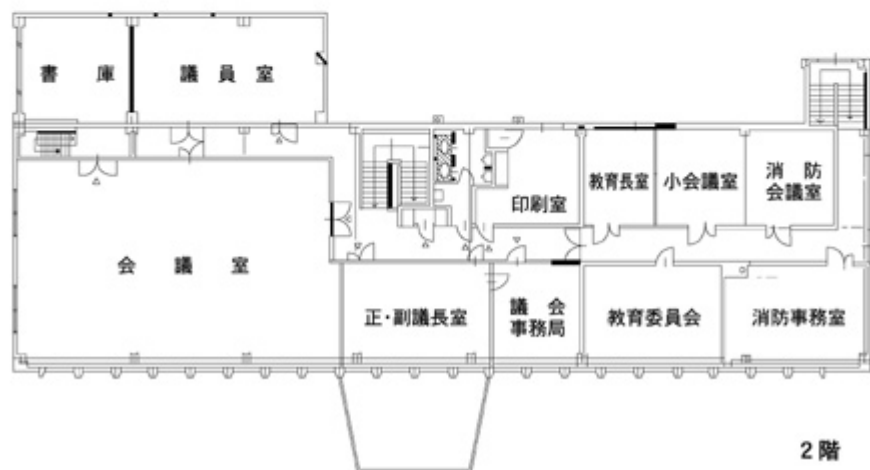
平成元年に増改築した現庁舎



平成元年に増改築した現庁舎平面図



1階



2階

医療一三〇年

病院の経営

(古宇病院が設置されて)

神恵内に病院が設置されたのは明治五年。医療機関がこのように早く開設された背景は、開拓使古宇出長所が医師の必要を認め、近藤道慶医師を配置したことによる。

その後、一〇年までは開拓使によって病院の経営が行われたが、一一年以降は古宇郡五ヶ村(神恵内、盃、興志内、赤石、珊内)の共同経営に変わった。

各村総代人は、毎年病院の維持予算と村毎の負担金を決めて病院経営に当たった。明治二六年になって医師は村医として発令されるようになり、珊内にも村医がおかれるようになった。

このため、病院の経費は神恵内外二ヶ村戸長役場の負担となったが、年々維持費は増大し、加えるにニシン漁が不漁で村の財政が不安定となり、明治三九年には道庁に対して医師の給与を補助してほしい

と申請するなど、多難な時代もあった。

しかし、生命を守る医師を常置してほしいという村民の願いは強く、その後も困難な条件の中で医師確保がはかられてきた。

戸長時代(明治三九年まで)の歴代医師

神恵内

近藤道慶

本郷友信

菊地

諏訪幾馬

池田

山崎

福井

戸田貞二

珊内

鈴木兵太郎

* 菊地、池田、山崎、福井の四医師の名は不詳



古宇病院～神赤病院
(明治33年～昭和55年まで)

珊内診療所
(昭和10年～昭和32年まで)



歯科診療所

村立診療所



神恵内村医療のあゆみ

明治 五年 古宇病院設置される

大正一〇年 珊内診療所設置される

古宇病院を神赤医院に改称する

昭和三年 国立札幌病院附属珊内診療所設置される

昭和五年 神恵内村国民健康保険発足する

昭和五年 齒科診療所開設される

昭和五年 神赤医院閉鎖される

村立神恵内村診療所（ベット数一九床）開設される

（昭和五年六月）

歴代（医師）診療所長

田 中 速 夫

昭和五年六月一日～昭和五年十二月三十一日

改 井 進

昭和五年一月一日～昭和五年四月三〇日

高 橋 庚子郎

昭和五年五月一日～昭和五年五月三十一日

小 野 萩 代

昭和五年六月一日～昭和五七年一月二十九日

高 橋 庚子郎

昭和五七年一月三〇日～昭和五八年三月六日

野 田 勝 美

昭和五八年三月七日～平成四年三月三〇日

趙 重 文

平成四年四月一日～平成六年八月三十一日

菊 地 哲

平成六年九月一日～平成七年九月三〇日

（入院施設を休止する 平成七年五月～）

藤 原 勝 城

平成七年一〇月一日～平成九年二月二十八日

名 兎 耶 満 徳

平成九年四月一日～平成九年六月九日

小 野 寺 一 史

平成九年七月一四日～平成一一年三月三十一日

村立診療所の業務が委託開始される

（平成一一年四月）

小 野 寺 一 史

平成一一年四月一日～平成一四年九月三〇日

安 友 弘

平成一四年一〇月一日～現在

道路開通八〇年

(茂岩―神恵内間)

【一般国道二二九号(積丹半島一周道路)全線開通】
平成八年二月一日午後一時三〇分大正時代から
村民の悲願であった積丹半島一周道路(積丹町沼前
―神恵内村ノット間約六・七km)が完成し全線開
通となった。

開通した国道二二九号の沿線は、断崖絶壁が続
き、着工から約二五年余の歳月を費やしての大工事
であった。資料によると大正一四年(一九二五)に
国の官僚が来村した
折「道路開墾ノ義ニ
付陳情」という陳情
をしたとされ、隣町
でありながら近くて
遠い積丹町への道路
整備への村民の思い
が伝わってくる。ま
た、当時の村長の引



道路完成記念碑建立
(大正11年9月)



昭和2年頃の赤石村中の滝付近



大正11年頃の弁財橋

継書の中にも道路整備について記載されている。

国道二二九号の半島先端部の整備は大正一一年（一九二二）の泊村茂岩、神恵内間が開通を皮切りに進められ、昭和二八年（一九五三）に新道路法制定され開発局管理の開発道路の指定を受け、整備が本格的に行われてきた。

一般国道二二九号は、小樽市から江差町に至る延長約二八〇kmの国道で、日本海沿岸地域の産業活動や住民生活を支える重要な幹線道路で、海岸沿いの急崖地形の連続した難所の多い路線であり、長年にわたる整備によって不通区間が一つ一つ解消されてきた。

開通となった積丹町沼前、神恵内村ノット間は昭和六一年より工事が着工され、区間延長の四八%を占める三つのトンネルにより厳しい地形条件を克服し、一般国道二二九号の最後の不通区間が解消された。



一般国道二二九号開通記念碑

道路の開通を記念し最後の西の河原トンネル工事を担当した共同企業体から村に寄贈された



茂岩トンネル・
神泊大橋



一般国道二二九号茂岩・神恵内間二次改修（祈石防災工区）により、平成一二年三月茂岩トンネル及び神泊大橋平成一二年六月完成する。
平成一三年六月二一日午後三時供用開始される。

泉源開発の歩み

(地熱開発ボーリング)

神恵内村における温泉開発は、明治三五年に小川温泉免許おりの(炭酸鉱泉)と記載されているが、昭和三四年一〇月に神恵内湯の沢温泉開発組合が、神恵内村字小川一二四九番地に自然湧出しているものを当時の北海道立衛生研究所に調査依頼し、含炭酸含重碳酸土類食塩泉(緩酸性低張冷鉱泉)湧出量は毎分三リットル、泉温二二度として分析されたのが湯の沢温泉(小川温泉)として当村第一号の温泉である。当時は小川のせせらぎを聞きながら温泉水をポンプで押して浴槽に、薪を燃やすのにウチワで仰ぐ、煙が目に入り涙を流しながらの後で熱い温泉に入るのがまた格別で、タオルは赤く染まるほど、夜はランプをつけての入浴であったと聞いている。

浴用としての適応症は、慢性筋肉リウマチ、慢性関節リウマチ、神経痛、創傷、通風、慢性皮膚病他等。また飲用としては、慢性胃力タル、胃腸アトニー、貧血症他と書かれている。

「湯の沢温泉」は、現在壊され昔の跡地がかすかに在るぐらい、自然湧出していた温泉も今は確認できない。

その後、村民の保養の場としての泉源開発が強く望まれ、昭和四六年に神恵内漁港船揚場背後地に深度五七〇mのテストボーリングを実施し、孔底温度が五八度に達し、地温上昇率が大きいことが確認されたが、湧出量は自噴で、毎分一、五リットル、また、揚湯試験では、泉温三三度、揚湯量は六〇リットルとなり、深度の高温部からの温泉の供給が少なく利用価値としてはやや劣るものであった。

その後、昭和四七年に青少年旅行村が開村し、夏季に訪れる旅行者が増大したため村民の保養と憩いの場及び観光目的を兼ねた泉源開発が望まれ一号井の西側約三〇mの地点に深度八〇五、七mの二号井が昭和五四年に掘削された。これが現在の「温泉竜神荘」で浴用として利用され村民に喜ばれている。

昭和五七年六月から翌年一月までアワビ中間育成施設の熱源開発と地下地質状況の把握のため三号井のボーリングが進められたが顕著な湧出が認められ

ず廃井となつてゐる。

また、平成元年に入り再度地熱開発が計画され、その年一二月から翌年二月にかけて温泉ボーリングのための事前調査として、泉源探査が進められ、神恵内トンネルを基点として古宇川上流の3kmを比抵抗映像法電気探査により実施した。この結果、基点から一、六〇〇m付近をボーリングすることとして、平成二年八月から翌年三月までの工期の中で掘削が開始された。当初の掘削計画では一、〇〇〇mであつたが、温泉の兆候の出現が深度九九八mで予想よりも深かつたため、一〇〇m増掘することとした。一、一〇〇mの掘削終了後各種の孔内検層が行われ、ケーシングパイプを挿入し孔内の洗浄実施中の平成三年二月一八日に待望の大量のガスを伴つた温泉水が自噴した。

その吹き上げる高さは三〇m～四〇mにも見えた。温泉水の分析の結果、日本でもまれなる高濃度の塩化物泉で蒸発残留物k当たり四八、三g 泉温五九、四度、湧出量毎分二三〇リットルのナトリウム―塩化物強温泉（中性高張性高温泉）である。

平成三年九月にはリフレツシユプラザ温泉九九八の建設に着手、平成四年三月に完成し、四月一七日オープンし、しょっぱさ国際級として賑わいを続けている。

五号井は、平成四年に珊内川の上流にかけて比抵抗映像法電気探査により調査を実施し、イワナ橋付近を平成五年から平成六年一月にかけて掘削、深度一、〇〇〇mまで実施した。その結果、特に多くの湧出量がなかつたが動力楊湯で毎分一〇〇リットル、泉温三四、四度のナトリウム・鉄（ ）硫酸塩・塩化物・炭酸水素塩泉として珊内ぬくもり温泉が利用している。

六号井は、温泉九九八の補助井として使用することを目的に温泉九九八の上流八〇〇mを深度一、五〇〇mまで掘削したが顕著な湧出量がなく、平成八年一〇月孔口密閉し、廃井とした。

▲泉源開発の歴史▽

一号井 昭和四六年（一九七一）▲神恵内漁港船揚場背後地▽

掘削深度五七〇m 泉温低く揚湯量微量につき未利用

二号井 昭和五二年（一九七七）△神恵内漁港船揚場背後地▽

掘削深度八〇五、七m 揚湯量毎分九五リットル

泉温三八、五度 泉質・弱食塩泉

観光センター【温泉 龍神荘】利用 昭和四四年五月一日オープン

三号井 昭和五八年一月（一九八三）△アワビセンター横▽

掘削深度一、二〇四m 顕著な湧出見られず廃井

四号井 平成三年一月（一九九一）△大川地区▽ 掘削深度

一、一〇〇m（一〇〇m増堀）湧出量

毎分二三〇リットル（間欠泡沸泉・炭酸ガスリフト）

泉温五九、四度 泉質・ナトリウム塩化物強塩泉

（強食塩泉）海水の約一、三倍のしよっぱい温泉

神恵内村リフレッシュプラザ【温泉九九八】利用

五号井 平成六年一月（一九九四）△珊内地区▽ 掘削深度

一、〇〇〇m（二〇〇m増堀）瞬間揚湯量毎分一〇

〇リットル 泉温三四、四度 泉質・ナトリウム・

鉄 硫酸塩・塩化物・炭酸水素塩泉

六号井 珊内ぬくもり温泉利用 平成八年四月一日オープン

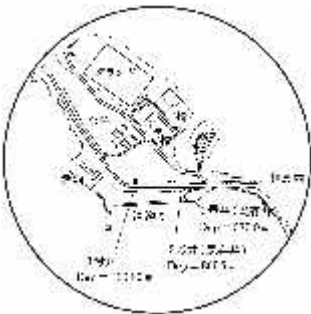
平成七年三月（一九九五）△温泉九九八上流約八〇

〇m▽ 掘削深度一、〇〇〇m（二〇〇m増堀）

顕著な湧出見られず

平成八年二月（一九九六）六号井の増堀五〇〇m

するも湧出量微量につき平成八年孔口密閉廃井



一号井～三号井の位置図面



大正2年頃の小川温泉



温泉 龍神荘



珊内ぬくもり温泉



温泉九九八

消防組織一一〇年…消防のあゆみ

消防のあゆみ

△消防力の充実▽

消防の沿革を見ると

- 明治一五年五月 施設の消防組が創立した。
- 明治二八年八月 公設の消防組として認可された。
- 明治三八年九月 消防器械置場を新築。四坪五合。
- 大正元年一〇月 消防器械置場を四坪増築。八坪五合となる。
- 大正五年一二月 明治三八年九月建設の消防器械置場四坪五合を取り壊し、八坪新築。
- 昭和四年八月 手引きガソリンポンプ一台購入。価格一、七〇〇円（消防組員寄附一、〇〇五円、一般寄附六九五円）
- 昭和六年五月 消防器械置場を役場庁舎横に移築。平家建。
- 昭和八年五月 北井長作氏がエスエム式二五馬力ガソリンポンプ（二、三〇〇円）を寄附した。
- 昭和一四年 消防組が警防団となる。
- 昭和二三年 消防組織法施行により、消防団となる。
- 昭和二八年 初代団長に松館勇次郎氏が就任。
- 消防ポンプ自動車一台購入（価格一〇〇〇

歴代消防団長

△組頭▽

- 初代組頭 浅田 明
- 二代目組頭 柳田 吉藏
- 三代目組頭 初代 北井 長作
- 四代目組頭 澤口 啓藏
- 五代目組頭 田中 永吉
- 六代目組頭 福島 岩藏
- 七代目組頭 井上 茂助
- 八代目組頭 二代目 北井 長作



井上茂助



初代 北井長作



二代目 北井長作



田中永吉

初代、二代目、四代目、六代目組頭は写真不明

昭和四〇年

万円)
消防ポンプ自動車一台購入(価格二四〇万円)

昭和二八年購入の消防ポンプ自動車廃棄となる。

昭和四三年

消防車庫を解体。同敷地内に役場庁舎と消防庁舎を建設。

昭和四四年

消防庁舎竣工。

昭和四五年

第二分団に防火貯水槽二基設置(各四〇達)

昭和四九年

岩内・寿都地方七ヶ町村により消防一部事務組合設立される。

岩内・寿都地方消防組合神恵内消防団と改称される。

岩内・寿都地方消防組合消防署神恵内分遣所となり常備化が図られる。

昭和五〇年

小型動力ポンプ付積載車一台購入(価格二七〇万円)

昭和五三年

第一分団防火貯水槽一基設置(四〇達)

昭和五四年

神恵内分遣所普通ポンプ自動車一台購入(価格一、四八〇万円)

昭和五八年

岩内・寿都地方消防組合消防署神恵内支署に改称される。

△警防団長▽

初代警防団長 高田久岩

二代目警防団長 松館勇次郎

(昭和二十二年九月二十五日～二十三年三月三十一日)



高田久岩



松館勇次郎

△消防団長▽

神恵内村 初代消防団長 松館勇次郎

(昭和三年四月一日～昭和四九年三月三日)

岩内・寿都地方消防組合 神恵内消防団長 松館勇次郎

(昭和四九年四月一日～昭和六二年一月三日)

岩内・寿都地方消防組合 二代目神恵内消防団長 佐藤市太郎

(昭和六年一月一日～平成元年七月三十一日)

岩内・寿都地方消防組合 三代目神恵内消防団長 三浦信男

(平成元年八月一日～現在)



佐藤市太郎



三浦信男

昭和六一年	神恵内支署に水槽付消防ポンプ自動車一台購入（価格二、一〇六万円） 昭和四〇年購入の普通消防ポンプ自動車廃棄となる。
昭和六二年	第二分団（珊内）に小型動力ポンプ付積載車購入（価格三七〇万円） 小型動力ポンプ付積載車一台廃棄となる。
平成元年	第一分団に小型動力ポンプ付積載車一台購入（価格五四五・九万円） 神恵内支署に消防用無線二台増設される。
平成四年	神恵内支署に救助器具一式購入される。 （エンジン・カッター他）
平成九年	右同（スプレッター・クイックチェーン・ホースリール他）
平成一〇年	消防専用超短波無線基地局（第一装置） 第三装置）各一台更新
平成一一年	消防用基地局高利得コーリニア空中線更新（支署）
平成一二年	消防用モーターサイレン更新（支署・第二分団珊内）
平成一三年	消防用モーターサイレン更新（支署・第二分団珊内）

一二〇年に至る消防の歴史の中には、明治三三年の大火や、神恵内小学校の火災を初め多くの火災に出勤して最小限度の被害にとどめる努力が続けられてきた。

火災だけでなく、あらゆる災害に対処しての活動も消防団に負うところが大きく、その充実が期待されている。

消防後援会は、村民の消防力充実に対する願いが組織化されたものであり、火災予防に対する理解と協力は大きいものがあつたが、昭和四九年その目的を果たして解散した。

同年四月からは、岩宇、南後志の七町村（岩内町・共和町・泊村・神恵内村・寿都町・島牧村・黒松内町）によつて岩内・寿都地方消防組合が設立され、広域消防体制の強化、充実が図られてきた。



昭和6年当時の消防組器具置場



昭和28年 消防車購入 (フォードポンプ)



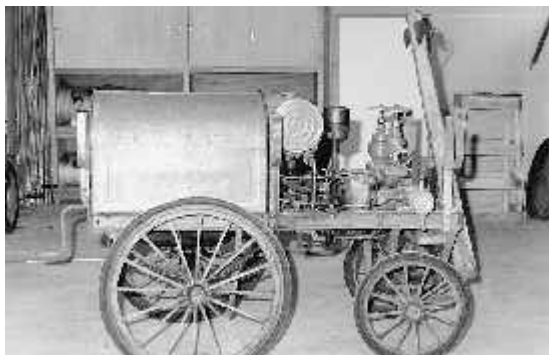
昭和36年災害 <ヤエダウス橋>



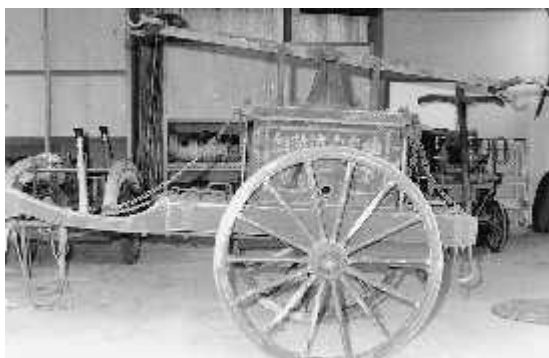
昭和36年災害 <堤防決壊>



<消 防 演 習>



<手引ガソリンポンプ (昭和8年、北井号)>



<腕用ポンプ (明治33年)>



<昭和30年代の出初め式>

消防110年記念訓練 (平成4年11月3日)



<観 閲 式>





<小型ポンプ操法訓練>



<一斉放水>



村づくりの功労者

名譽村民

第一号

故・高橋庚子郎氏

昭和六〇年三月四日逝去

昭和九年に珊内診療所に村医として赴任。その後、神恵内で神赤医院を経営し、四三年もの永い間、ひたすら「医療に恵まれないへき地にこそ、医師の使命がある」という信念で、村民の生命を守り続けて下さいました。



第二号

故・本間 誠一氏

昭和六三年四月二日逝去

裸一貫で興業界に飛び込み、我が国興業界の雄として活躍され、四〇年近くも映画や演芸の公演をはじめ、村内小中学校や公共施設への備品寄贈、招待旅行などを続けて下さいました。



第三号

故・北井七太郎氏

昭和五九年九月二八日逝去

昭和五年に神恵内村の職員となって以来、四三年もの歳月を地域住民の身になって奉仕。なかでも昭和二八年から五期、二〇年もの間村長を勤め、村づくりの先頭に立ち、戦後の村の発展に大きく尽力されました。



第四号

高山 庸一氏

昭和二〇年に神恵内村に奉職以来、教育長として一九年一〇ヶ月間戦後の混乱する教育の充実発展のために、村長として二九年間に亘り村づくりの先頭となり、神恵内村発展のために多大のご尽力をされました。また、全国漁港審議会委員、北海道にあつては治山協会々長、漁港協会副会長、町村会副会長、後志にあつては町村会々長、総合開発期成会々長、教育振興会・公立文教整備促進期成会々長他数多くの要職を務められました。



功 勞 者 名 簿

昭和三九年度

【自治功勞】

岩澤 朔
川島 四五六
小林 元行
鈴木 信太郎
高田 久岩
高澤 明雄
土橋 松次郎
村木 龜太郎
安達 重太郎
龜山 博
齊藤 幸市
三上 正巳
小倉 辰吉
佐藤 喜代作
玉川 重二郎
井上 茂助
(故) 高橋 信茂

【文化功勞】

(故) 田中 明
(故) 松屋 清一
(故) 吉田 專之助
(故) 若浜 徳次郎
(故) 若林 岩藏

【産業功勞】

米田 藤吉
本間 誠一
北井 八重
高橋 庚子郎
大崎 孝太郎
(故) 戸田 貞二
池田 岩治
川松 龍太郎
鹿取 山次郎
佐藤 浅藏
佐々木 吉藏
相馬 辰治

昭和四〇年度

【自治功勞】

山下 吉四郎
佐藤 文治
小倉 源市
木下 喜代司

【産業功勞】

(故) 山内 弟次郎
(故) 本間 甚右衛門
(故) 米内山 丑之助

【公益功勞】

松館 勇太郎
(故) 北井 長作
(故) 渋谷 久太郎
(故) 澤田 千代藏
昭和四一年度

【自治功勞】

種田 美一郎
(故) 福原 清藏

橋本 平次郎
松館 石太郎
村田 豊治
吉田 勇太郎
渡辺 藤松
森本 豊
大井 徳太郎
(故) 出町 初太郎
(故) 米田 豊作
(故) 木下 寅吉
(故) 澤口 庄助
山内 豊吉
滝本 長作
三澤 正
輪島 市雄
(故) 小倉 源次郎
(故) 加藤 政治郎
(故) 北井 長作

(故)房 幸太郎

【文化功勞】

(故)石澤 満治

(故)滝澤 長助

(故)鯨岡 角弥

(故)斉藤 黙禅

(故)岩田 入三

【産業功勞】

羽山 市郎

(故)橋村 定助

昭和四二年度

【自治功勞】

岡田 順平

(故)干場 栄吉

【産業功勞】

(故)高橋 助治

(故)佐藤 八十松

昭和四三年度

【自治功勞】

(故)松田 直藏

(故)干場 兼吉

(故)稲葉 光次郎

【産業功勞】

斉藤 亀五郎

市川 松男

(故)三上 丑松

(故)林 三太

【公益功勞】

稲船 竹次郎

福澤 三シ

(故)阿部 為太郎

(故)菅原 定治郎

(故)渡辺 清八

(故)青塚 富太郎

(故)斉藤 春藏

昭和四四年度

【自治功勞】

(故)菅原 専之助

(故)三橋 謙藏

(故)山本 山五郎

(故)綿谷 佐一郎

【産業功勞】

青塚 末太郎

(故)田中 永吉

【公益功勞】

(故)広田 佐太郎

昭和四五年度

【自治功勞】

小笠原 信吉

(故)山田 数一

(故)木村 文忠

【産業功勞】

(故)福島 岩藏

(故)畠山 三三郎

(故)北田 仁太郎

(故)澤口 啓藏

【公益功勞】

木村 吉太郎

昭和四六年度

【産業功勞】

伊藤 今藏

佐藤 石松

畠中 勇三

(故)中川 慶次郎

(故)佐々木 九助

【公益功勞】

菅原 松藏

岩澤 アイ

(故)柳田 吉藏

昭和四七年度

(開村一〇〇年特別表彰)

【自治功勞】

北井 七太郎

(故)若林 岩藏

(故)井上 茂助

【公益文化功勞】

高橋 庚子郎

本間 誠一

(故)田中 明

(故)戸田 貞二

(故)干場 栄吉

(故)北井 長作

(故)小倉 源次郎

(故)大崎 亀吉
【産業功労】

(故)澤口 庄助

(故)高橋 信茂

(故)米田 豊作

(故)出町 初太郎

昭和四八年度

【自治公益功労】

北井 七太郎

【自治功労】

(故)大淵 豊吉

(故)池田 富太郎

(故)三澤 常次郎

(故)猪川 吉松

【産業功労】

斉藤 秀吉

澤口 助一

昭和四九年度

【自治功労】

米田 清作

山内 一

佐藤 竹三郎

(故)澤田 鍋太郎

【文化功労】

田中 忠

(故)若林 久晃

【産業功労】

(故)新谷 小三郎

【公益功労】

阿部 祐二

野崎 八儿子

昭和五〇年度

【自治功労】

高田 梅吉

長濱 賢藏

坂本 勝栄

【産業功労】

三澤 島太郎

綿谷 一

(故)金田一 命治

(故)佐藤 岩次郎

【公益功労】

菅原 亦次郎

輪島 十三

(故)本谷 清太郎

昭和五一年度

【自治功労】

長濱 賢之助

(故)小倉 卯之助

【文化功労】

播磨 レイ

【産業功労】

渡辺 市雄

佐藤 久太郎

阿部 勝造

(故)羽山 伊太郎

(故)熊野 栄次郎

【公益功労】

小林 ヒサ

昭和五二年度

【自治功労】

金田一 清作

黒崎 秀夫

【産業功労】

村田 敏一

(故)滝口 清七

【公益功労】

三上 晋作

山内 忠治

千葉 正巳

柿崎 愛子

高橋 リ工

(故)佐藤 重次郎

(故)佐藤 作雄

昭和五三年度

【自治功労】

山内 寛一

【文化功労】

北村 忠一

【産業功労】

石山 豊

米田 才太郎

【公益功労】

高橋 フジ

橋畑 徳次郎
相馬 正一
高松 浦里
昭和五十四年度
【産業功勞】
酒谷 康春
【公益功勞】
齊藤 松雄
本間 イト
（故）佐藤 勇
（故）綿谷 栄
（故）松屋 永作
昭和五十六年度
【自治功勞】
平野 由雄
【産業功勞】
畠山 耕二
【公益功勞】
干場 賢太郎
昭和五十八年度
【自治功勞】

滝本 長次郎
阿部 一
（故）齊藤 久吉
（故）齊藤 喬市
【公益功勞】
川村 敏子
滝本 鶴松
松屋 淳一
武井 康彦
能登 武登
昭和五十九年度
【自治功勞】
伊藤 由美
鹿取 幸次郎
【公益功勞】
池田 時四郎
野村 正巳
（株）北興生コン
昭和六〇年度
【自治功勞】
村木 源八

【公益功勞】
青塚 武藏
小藏 敏雄
遠藤 セン
北井 八重
昭和六一年度
【自治功勞】
齊藤 敬作
【公益功勞】
輪島 良巳
佐藤 市太郎
高田 リノ
山森 繁
昭和六二年度
【自治功勞】
稲葉 光雄
【産業功勞】
一条 春男
【公益功勞】
稲船 初二
若宮 清五郎

川村 敏子
岡村 ハツイ
昭和六三年度
【自治功勞】
佐藤 久次郎
池田 光男
（故）松館 勇次郎
（故）岡田 常利
【公益功勞】
鈴木 正治郎
奈良 徳藏
本間 戸枝子
岡田 タマ
平成元年度
【自治功勞】
松原 政美
【産業功勞】
佐藤 公彦
武田 忠治
【公益功勞】
井家 清孝

小笠原 幸一
平成二年度

【自治功労】
岡村 作次郎

羽山 守也
酒井 好比古

【産業功労】
（故）黒田 弥十郎

【公益功労】
平井 うめ

平成三年度
【自治功労】
土橋 義雄
山田 仁次郎

玉川 明治郎

【公益功労】
佐々木 輝明

川村 正夫

平成五年度
【自治功労】

菅原 勸太郎

井上 旭
三上 菊
牧野 秀夫

【公益功労】
安吉 保治

森 芳勝
（株）草別組

平成六年度
【産業功労】
齋藤 弥三雄

蛭澤 猛
梅井 文雄

【公益功労】
大井 正太郎

平成七年度
【産業功労】
澤口 成吉

滝口 清藏

小倉 信一

平成八年度
【産業功労】

中山 昭一
【公益功労】
畠中 孝三

山森 繁

（株）北興生コン
銭亀 良吉

平成九年度
【自治功労】
若林 彰

猪川 博英

【公益功労】
三浦 信男

米田 信
斉藤 敬作

平成一〇年度
【自治功労】
練合 傳

【公益功労】
若濱 誠一

板谷 崇

玉川 貞子

（株）北興生コン
平成一一年度
【産業功労】
喜多喜 市

【公益功労】
米田 實

伊藤 啓吉

平成一二年度
【公益功労】
福原 邦造

川島 百合子

（株）栄設 備

平成一三年度
【自治功労】
大井 隆三

【公益功労】
三浦 正勝

森 岩勝

小野寺 一史

故郷を愛する人々



開村一三〇年によせて

札幌神恵内会会長 本間 一

澄みきったコバルト色の海、古宇川の清流そして、西ヶ丘から望む夕陽に映えた竜神岬の雄姿……
神恵内村を離れて幾久しくなりますが、いつも脳裏に浮かぶ風光明媚な郷里の風景です。

この郷土神恵内村が、このたび明治五年に戸長制度を設置してから一三〇年の節目の年を迎えるにあたり、ここに盛大に開村一三〇年の式典を挙行し、併せて先人の労苦に感謝し、村発展の今日までの足跡を記した記念誌を発刊されますことは意義深いことであり、神恵内村出身者として誠に喜ばしく心からお祝い申し上げます。

郷土神恵内村も、歴代の村長さんを始め村関係者の郷土発展に寄せる情熱とご努力によつて、漁業を中核とした地場産業の育成と温泉開発や旅行村等の整備による観光面での充実や道路の整備等々、一時期を過ぎた当時とは隔世の感がする素晴らしい郷土発展の姿に、嬉しさと関係者への感謝の念でいっぱいです。

さて、私どもの札幌神恵内会は、札幌市やその近郊に在住する村出身者の有志によつて、郷土を懐かしみ郷土を語り合い情報を交換し親睦と交誼を主として、故大崎孝太郎氏を中心に故本間誠一氏・故松本市郎氏等同郷者が相集い昭和二五年に旗揚げされました。

それぞれの思いはあるにせよ、住み慣れた郷土を離れ親族と別れての生活の中で、飾り気のない神恵内ことばの浜弁そのままでの語らひは、同郷者としての絆を強め心の支えとなったことと推察されます。

現在も年一回開催される懇親会では、在村していた当時の郷土でのありし日の思い出や発展した村の現状等を語り合い時間の経つのも忘れてしまつて程です。

春は、にしん漁の最盛期に、満載のにしんをハシケ船からモッコを背負つて陸揚げした苦労。戦後米がなくな

て主食をジャガ芋やカボチャにたより、その時き付けの手伝いのために学校を休みにした農繁休業。夏、真夏の陽を体いっぱい浴びての古宇川での川泳ぎや、澤口の澗での海水浴。秋、イカ漁の最盛期に荒縄の干し場にイカを天日干にするため猫の手も借りたい程の忙しさのために学校を臨時休業にしたこと。冬、厳しい吹雪の中にも港が活気づいていたスケソウやタラ漁……と。

一つひとつの話題の中にも、今では見ることの出来ない様子が凝縮され、神恵内に在住していた当時にタイムスリップさせています。

昭和二五年に発足し、先達が残してくださったこの札幌神恵内会も、年一回懇親を主とした会合をもつてから今年で五二回を終えました。

一昨年は半世紀に亘る、発足五〇年という記念すべき節目の年の会でした。札幌の地を離れて郷土訪問を兼ねて雷電温泉で開催されました。札幌からは特別バスで移動し、岩内在住者、そして郷土神恵内からは、村長さんを始め、村議会議員の方々等多数のご参加をいただき懇親会を行い夜遅くまで交流を深めることが出来ました。

また、翌日は郷土訪問ということで、村役場のお取り計らいで、国内各地の珍しい玩具を収集した珊内の日本玩具館の見学、温泉九九八での入浴休憩等、村の発展した様子に触れることができました。珊内までの紺碧の海に突き出た奇岩・整備された道路網、参加者一同感謝と敬意の気持ちいっぱいでした。

この会も時の流れと共に、創設当時の諸氏は殆ど他界され、会に参加される方々も高齢化して一時期は今後の運営に一抹の心細さを感じた時期もありましたが、郷土への深い愛着と同郷の強い絆によって近年は若い方々の参加も幾分増えつつあり嬉しい限りです。

新聞等で各地の郷土の会が報道されることがありますが、本会のように半世紀を越えて脈々と続いている会は数少なく、その歴史と伝統の重さを痛感致します。

私も札幌神恵内会の会員も郷土で培われた実績や経験を心の支えとして、それぞれの立場で頑張っていきたいと思っております。

また、先人が残してくれたこの会も札幌に居住している方々の結集を図り神恵内村との連携を密にして、郷

士神恵内村発展のために役員一丸となつて頑張る所存であります。

毎月、月初めに送つていただいている広報神恵内では、往時に比べ人口や世帯数も激減し北海道でも数少ない三三村となり寂しさを感じますが、神恵内村で育つた者には素晴らしい故郷として誰にでも誇れる魅力のある神恵内村です。

現在の不透明な世相の中で、地方自治体においても厳しい時代を迎えますが、開村一三〇年の節目を契機として郷土神恵内村の更なる発展を願つて止みません。

札幌神恵内会歴代会長

- 初代会長 大崎孝太郎（昭和二五年～二九年）
 - 二代會長 綱 由之助（昭和三〇年～三九年）
 - 三代會長 高橋 勇治（昭和四〇年～四七年）
 - 四代会長 澤口 忠吉（昭和四八年～五七年）
 - 五代会長 北井 昭彦（昭和五八年～平成二年）
 - 六代会長 佐々木信博（平成三年～平成十二年）
 - 七代会長 本間 一（平成一三年～現在）
- 現 役員（平成一四年一月一日現在）

- 顧問 北井 昭彦 佐々木信博
- 會長 本間 一
- 副會長 高橋 弘美 前田 英子 福田恵美子
- 會計 北田莊之輔
- 幹事長 本間 重広
- 幹事 横岡八重子 小笠原敬一 松屋 芳昭
- 納谷 喜則 長谷川惟子 斎藤天輝子



第52回札幌神恵内会 於ホテル札幌会館 平成14年3月9日



おめでとう開村一三〇年

札幌珊内会会長 山谷文吉

郷土神恵内村の開村一三〇年記念にあたり、札幌珊内会を代表致しまして心からお祝い申し上げます。

明治五年（一八七二年）の神恵内戸長が設置されて以来、神恵内村発展のためにご尽力を頂きました多くの先人の方々、そして歴代の村長さんをはじめ、村議会並びに郷土の皆様方の深い情熱と不断のご努力に対しまして、ここに深甚なる敬意と感謝を申しあげる次第であります。

私どもの札幌珊内会は、ふるさとを共とする札幌市及びその近郊に在住する方々や、ふるさと珊内にゆかりのある方々が会員となり、会員相互の親睦を図る目的から昭和四四年に発足されております。会の運営は、総会兼懇親会を行う程度であります。少ない開催行事の際には、公務ご多忙のなか、村長さんをはじめ、村議会の方々のご臨席を賜り、錦上華を添えていただいておりますことにつきましても、ここに厚くお礼申し上げます。次第であります。特に高山庸一前村長さんにおかれましては、二九年間の長きにわたる村政執行のご功績に對しまして感謝と敬意を表しますと共に私ども札幌珊内会が何かとお世話になりましたことにつきましても改めて厚くお礼申し上げます。

かえりみますと、会員の多くは、ふるさと珊内といえ、いわゆる「陸の孤島」という厳しい環境や「岩宇定期船」での旅立ちなどが懐かしい想いとしてあります。しかし、それらも開発の進展とともに海路の交通手段から陸路へと移り、とりわけ、先人の方々や私どもを含め神恵内村関係者の悲願でありました国道二二九

号線の道路整備は、最後の難所ノット沼前間の完成をもって平成八年一月、積丹半島の周回道路が開通されましたことは、開発に携わった多くの関係者は基より、郷土神恵内村の地域振興に情熱をかけた多くの先人の方々、そして関係各位の粘り強いご努力に対しましても深い敬意と感謝を申し上げます。

一方、紺碧に輝く日本海、佇みながら見る前浜には、ニシン千石場所としての往時を偲ばせる袋澗など、かすかな痕跡を残すのみとなり、変わって近代技術の発展・防災等の観点からか消波ブロックが目立つなど様変わりを致しておりますが、日本海を紅に染め沈む夕日は今も昔と変わらない素晴らしいロケーションであります。また、景勝のマツカ・ノーラン岬や自然豊かな冊内川・マサカリ山もまた四季それぞれに私どもをやさしく迎えてくれます。

ふるさとの今は、ランプの灯火から道内初の原子力発電所が近隣する地域として豊かなエネルギー資源を要しておりますが、最も重要なこととして安全の確保、環境の保全が求められております。

また、基幹産業である漁業は「つくり育てる漁業」の創造漁業へと転換、私どもの母校冊内小中学校は少子化なども相まって廃校となりましたが、文化施設「日本郷土玩具館」として活用され、温泉九九八・温泉竜神荘・冊内ぬくもり温泉などの施設を活用しての「湯ートピア神恵内」構想を基とする健康づくりの推進、青少年旅行村やダイビングパーク大森などの施設を利用した観光開発など、広範な開発振興対策などが積極的に進められております。しかし、行政運営では、国・地方を通じて大きな変革が求められている時代、特に中央から地方への権限移譲、加えて、平成の統合・再編という大きな問題を抱えておりますが、新たな視点と発想をもって豊かで住み良い、そして愛情ある神恵内村を今後とも構築して頂きたいと念願しております。

私ども札幌冊内会は現在、会員の高齢化や若年層の会員が少ないという問題を抱えながらも郷土神恵内村の発展のため、今後とも心をあわせて寄与・応援して参る所存であります。

最後に、ご慶事の開村一三〇年記念にあたりまして、郷土神恵内村の益々のご発展と郷土の皆様方のご健勝を心よりご祈念申し上げます、お祝いの言葉と致します。

札幌市内会創立年月日 昭和四四年一月二五日

歴代会長

初代会長 坂本 勝栄(故)

二代会長 鈴木 玉成

三代会長 田中 吾朗

四代会長 古川 忠宏

五代会長 山谷 文吉

現役員(平成一四年一月一日現在)

顧問 鈴木 玉成 田中 五朗 古川 忠宏

池田 留吉

会長 山谷 文吉

副会長 小林 露子

幹事長 坂本 達明

幹事 木下 元春 池田 滋



札幌市内会 新春のつどい 平成10年 1月開催

往
時
を
偲
ぶ

往時を偲ぶ

産婆になつて



神 恵 内

柿 崎 愛 子

(八五歳)

私は大正六年神恵内村で生を受け、産婆になろうと思ったのは神恵内尋常高等小学校卒業後の昭和七年に神恵内の神石医院の戸田先生から産婆の本二冊を戴いたことがきっかけでありました。

昭和一〇年に札幌市立病院産婆教習所に通い産婆の試験を受けて合格したのは昭和一一年一二月であります。

その後、和裁女学校で学び和裁専科正教員試験に合格し、その年の冬から篠路の福移青年学校に勤めていました。

昭和一四年五月から札幌産婆会の副会長を務められておりました小原ツ子工宅に実地見習いとして住

み込みで修行していましたが、神恵内に帰ってきたのは昭和一五年に先輩の産婆さんが結婚するからと言うことでした。

産婆として開業したのは、昭和一五年七月一六日でしたが、神恵内村での仕事はその年の秋が最初でありました。

今の夫とは昭和一七年四月に結婚して現在に至っています。

産婆になつてから何年の年か思い出せませんが、珊内村に呼ばれたときでありました。発動機船に乗って行ったとき船は弱いのに不思議なことに船酔いしなく、珊内沖でハシケに乗り換えてブリキのたらいを持って陸に上がりました。その家に行くまでは波に削られた道路を登り石ころの道を歩く、仕事が終わってまた船に乗って帰るときは磯舟で送ってもらうことに、船は上下に揺れ人家が見えたり見えなかつたりして、船外機が止まったときは自分が泳げないのを忘れて泳いで陸に行くつもりで長靴を脱いだりしたものでした。

また、ある出産の時は命取りとも言われる赤ちゃ

んが横位になっていて、母子共に助からないような状態であったことから神石医院の高橋先生に来ていただき、また妊婦さんの親に連絡を取って来てもらったところ先生にすべてをお任せするとのことでしたので、麻酔をかけ数を数える声が耳に残っています。

出産したとき赤ちゃんは死亡したため涙が出て沐浴することが出来なかつたのを覚えています。高橋先生には仕事上いろんなことで随分助けて戴きました。

終戦後に引揚者の一人の妊婦が神恵内に知り合いが会ったのでしようか、何のお話もなく突然夜中に呼び出されて出産に立ち会いました。布団は敷いてありましたが粗末な感じの部屋でした。出産が終わってとても疲れている様子なので明日事情を聞くことにして帰ることに。次の日訪問したら旅に出たといってお話を聞くことができませんでした。あのお母さんの体が大丈夫か、お乳が出ただろうか、赤ちゃんの臍の傷はどうなったか、赤ちゃん元気でいるだろうかなど気にかかり忘れることが出来ない毎

日でした。

それから五、六年たったのこと、警察から印鑑と控帳を持って出頭してほしいとの連絡がありました。伺いましたところ、そのときの赤ちゃんが小学校に入学することになり出生届けが出ていないため証明してほしいとのことでした。元気で入学できると思い本当に良かったとほっとしました。

あれから思い出すことなく過ぎていきましたが、今回昔を思い出しながらきつと良いお父さんになつていふことと思つと、永い八五歳の人生にたくさんの方々に引き立てて戴いたこと、ただただ感謝しております。

今は、新しい道路が出来て珊内、川白に車で簡単にいけるようになりましたが、その当時は大変な苦勞を重ねたことを思い出しています。

岩内まで歩いて行った七里の道



神 恵 内

鹿 取 幸次郎

(八二歳)

子どものころ神恵内はにぎやかな町だった

父は滋賀県彦根町生まれで、明治三九年に先に來ていた姉を頼って神恵内にやって來ました。父は和菓子職人で、お菓子の製造販売をしていました。

「神恵内のカトリの羊羹」と言えば有名だったんですよ。今は後を継いでいる人もなく幻の羊羹のようになりましたが、昔は誰でもお土産に持って行くほどよく利用していただいたものです。ラッキョウアメもおいしくて人気がありました。店は町の中心から海のほうに少し下って行った所がありました。

小学校を卒業してから昭和一〇年一月に東京に行き、東京第一高等無線電信学校に入学しました。普通科を卒業して高等科に進みましたが、一年生のときに都合で中退し、昭和一六年に召集され対馬・

樺太に行きました。それから帯広に行き終戦になってから神恵内に帰ってきました。神恵内役場には昭和二二年に入り、建設課に長くいて定年まで勤めました。

子どものころの記憶では、神恵内でもニシンが獲れていて、お茶屋さんや芸者屋さんがあつてにぎやかな町でした。今は漁業をしている人は少ししかないけど、その当時は町の少し北の方にニシンの網元があつて、漁師も多かつたんですよ。

そのころの家並みは今とそう変わらないけど、住宅は木造でポロポロの家が並んでいました。道路は国道が幅三mもあつたかどうかくらいで、他の道は国道よりもっと幅の狭いガタガタ道でした。岩内までの道路も恐ろしいほど狭かつたし七曲りで、バスも何にもなかつたんですよ。

病気の妻を担架に乗せ歩いて岩内まで

あれは四五年くらい前だから昭和三〇年ころのことになりますが、妻が病気になって担架に乗せて、岩内まで歩いて運んだことがあります。冬だったの

で布団をかけて、担架を前後から支えて、何人かの人がついてね。また赤ん坊だった子どもを知り合いの人におぶってもらって。岩内まで七里あるのですが、旧道よりもまだ古い本場に細い雪の道で、波待ちしないと渡って行けないところがあってね。波待ちというのは、崖の下の波打ち際を、それも石や岩の上を、波が引けるちよつとの間を待つて走りぬけるんです。現在、車が走っている道路より下に旧道があるのですが、その道よりさらに下の、一番海に近い崖つぶちを通っていたんですよ。それでも時化て船に乗れなくてみんなが歩くから、道とは言えない道が自然についていました。

そのころは神恵内と岩内を結ぶ船があったのですが、時化ると乗れなかつたし、冬は時化ることの方が多かつたんです。手遅れになるかもしれないという緊急事態だったので、船が出るのを待つているより担架で運んだ方が早かつたんでしょね。

選挙のたびに投票箱を持つて山越え

役場にいた時は選挙のたびに四〇cm×三〇cmくら

いの木の投票箱を背負つて、地下足袋をはいて、こより北の方にある珊内や川白まで、道のない道を山越えして行ったものです。凧なら船に乗るんだけど、選挙つていうと必ず時化するんだよね。そのころ、ここから少し北の大森までは道があつたけど、大森より先は道がなくて、珊内や川白、ノット、オブカル石というところは、ずっと陸の孤島といわれていたんです。だから大森から珊内に行くには山越えをしなければならなかつた。

ここに道路を作ろうと工事が始まつたのが昭和二四年、開通したのは昭和四三年ですから、二〇年近くかかつて、やつと車がなんとか通れる道路ができました。でも、山の道だから狭くてカーブが多く砂利道で、トンネルも狭くて、除雪も出来なかつた。工事の期間は少しずつ延長されていく工事中の道を歩きましたが、工事用の車が通るので危なかつた。それにその道が開通しても、珊内から先の川白、ノット、オブカル石への道は、相変わらずの狭い道でした。選挙の時は前日に行つてオブカル石に泊まつて、選挙の次の日に帰つてきました。どんなに

天気が悪くても二泊三日で山越えをして帰ってきました。

海岸線の崖ふちは落石も心配

岩内に出張の時は泊村まで馬ソリで行ったこともありませんが、ほとんどいつも海岸線を歩いて行きました。海岸線の崖ふちを歩く時は落石も心配でしたね。泊村のすぐ近くに当時、茅沼炭坑という炭坑があつて、その炭坑の貨物列車が掘株（ほりかつぶ）という所から岩内まで走っていたのです。今原子力発電所のあるすぐ近くに、ほりかつぶトンネルという長いトンネルがありますが、そのトンネルを越えたくすのところが掘株です。掘株からは炭坑の貨物列車に乗って行きました。倶知安方面に出張となると、まず岩内で一泊、次の日に倶知安で一泊、帰りに岩内で一泊、合計三泊四日になりました。

昔は毎年災害があつて橋が流されました。昭和二九年の洞爺丸が遭難した台風の時はずく近くの茶屋町橋が流されて住民を役場に非難させたのを覚えていますが、昔は木橋だったからすぐに流されたんです

よ。昭和三六年にも大きな台風があつて、やはり大変でした。当時は建設課にいて、村の人達の声を聞きに回ったりしましたが、ニシンが獲れなくなつて以降、村の財政もひつ迫してきた時期だったので、村道の整備もなかなか出来なくて、ほとんど砂利道の狭い未整備の道路でした。

小学校は神恵内尋常小学校に通っていました。生徒は一クラス四〇人、全校で五〇〇人くらいもいたんですよ。家から三〇分くらいかかりました。冬は吹雪くし、道路はないようなもので、学校が坂の上にあつたので、滑ってね。帰りは滑り降りれば良かったけど、行きは大変でした。

現在のこの家に引越してきたのは五〇年前ですが、そのころは家の前の道に車も入って来なかつたから、子ども達は道路でよく遊びました。石けりをしたり、鬼ごっこをしたり、カンけり、ピー玉、くぎさし、いろんな遊びがありました。子ども達ももう大きくなつてしまいましたが、今でも昔の道路が懐かしいとよく言います。

昔はずいぶん歩きましたがそれも苦にならなかつ

たし、貧しかったけれど、今とは違う、いろんな楽しみもあつたんだなあーと思います。

時化ると波が上がって 歩けなくなつた道



赤石

北村 忠一

(七九歳)

神恵内までの道は人が歩くだけの狭い道

父親の跡をついで漁業に就いた昭和二〇年ころ、家の前の道(国道二二九号線)は幅九尺(約二、七m)もないような道路でした。この道は大正二、三年ころに作つたそうで、人が歩くだけの狭い道が、今よりももっと手前の家に近いところにあつて、神恵内までずっと続いていました。

その道は海岸線よりちよつと高くなつていて、海岸とその道の間には玉石が敷いてありコンブやワカメを干していました。雪が降れば足跡しかなくなる

ので、「これが道だ!」って言わないと分からなくなります。だから吹雪いて真っ白になると先が見えなくなつて、道路から玉石の敷いてある下に落ちる人もいました。

この道が今の五、八mの道路になつたのは昭和四〇年ころだと思ひます。神恵内のはずれから順に道を広げてきて、二〇年くらいかつたのではないでしょう。そのころはまだ舗装はしていなくて砂利道でしたが、昭和四七、八年ころから一部舗装になり、一年に何メートルという調子で少しずつ舗装距離が増えていつて全部舗装になつたんです。

神恵内までは九尺足らずの道が昔からついていたので、歩くのは不自由しませんでした。冬になつて時化たときや 夏でも波の高い時は通ることができませんでした。

反対の北の方へ行くには道もなんもありませんでした。当時、私の家は通信局から依頼を受けて郵便の集配人休憩所をしていました。看板をかけてね。ちよつと、私の家の裏山を登つて山を越えて珊内まで行つたのですが、雪が降るたびに道路が通れなく

なりました。本当にとつともなく厳しい山で、その山を三つも越えないと珊内に着けないんです。それで、当時の国会議員だった自民党の寿原正一議員と社会党の横路節雄議員が、自分の足で歩いて山越えし、実際に自分で実感して、建設省に道路を作るよう掛け合ってくれ、建設省からも視察に来て道路が建設されることになったのです。

買物は歩いて神恵内まで行って、米なんかは背負ってきました。リヤカーを持っていている人はいなかったし、ガタガタの道路だから自転車には乗れませんでした。道路を直すなんてことはなかったから固いところはガチガチ、石が出たら出たままです。雨が降ったら水のはけるところがないから水溜りがあちこちに出来て、グシャグシャの道になります。

その当時、魚やコンブが大量に獲れると船に積んで神恵内まで運びました。組合で漁運丸と共和丸という船を二艘持っていて、少しの量なら組合指定の仲買業者に売って、業者は出面取りを頼んでほとんどがリヤカーが背中に背負って運んでいました。たまに車で持って行っても二トン車も走れないような

道だったから、一トンか一、五トンのオート三輪でした。これが終戦後から今の幅の道路になる昭和四〇年ころまでずっと続いていました。

時化のため冬は休校の多かった小学校

小学校は赤石小学校に入学しましたが、四年生の時に閉鎖されて分教室になり、五年生からは神恵内の小学校に通いました。遊びながら行くので、歩いて片道一時間くらいかかりました。海岸沿いの道で今よりもつと低いところについていたから、時化ると波が上がって道路は水浸しになるし強風も吹くし、積丹岬の先の方から北西の風が吹くようになる。秋から冬にかけては、時化ばかりで、学校は休みになることが多かったですね。そのころは、靴もなく、夏はワラゾウリ、冬はそれでもゴム長靴がありました。波がかかってもぬれるままです。夏はゾウリで歩くからガタガタの道で石や岩に足をぶつけては傷つけてね。だけど、ゲタの高いのをはいて歩くと危ないくらいの道路だったのでしかたなかったんですよ。

小学校の高等科を卒業したころ、まだ一五歳くらいですが、岩内までスルメを二〇キロぐらい背負って売りに行ったこともありす。なんぼ急いでも五時間か六時間かかりましたね。そのころ岩内と神恵内の間は、やはり幅の狭い人が歩くだけの道でしたが、その工事のために何人も人が亡くなったそう、道の途中に石碑が建っていました。終戦後は岩内と神恵内の間を中央バスが通るようになりましたが、一、二、一、三人乗りの小さいマイクロバスのようなものでした。というのも、トンネルも人が通るために作ったものですから幅が狭く高さもないため、大型バスは屋根がつかえて通ることができなかつたのです。

校庭を広くするために道路の変更を陳情

小学校の同級生は六〇人近くいて教室に入れないくらいだったけど、四〇人近しい男の人たちはほとんど戦死して十何人しか残りませんでした。私が一緒に兵隊に行ったのは一三人でしたが、帰ったのは私だけでした。千何百人と一緒に入隊して、その

うち四〇〇人が旭川に残り、後はみんな満州に配属になり、その後沖繩に行つて戦死しました。私は旭川に残された四〇〇人に入つていたので助かつたのです。友達がみんな死んでしまつて、私は戦争から帰つてきてから、戦死した人の分も役に立とうと思ひ、村の事でも何でもしました。

当時の道会議員に頼んで赤石小学校を分校から再び独立させて、二六歳の時に妻も子どももいなかったのにPTA会長になりました。その当時小学校は今の生活改善センターのところにあつたのですが、建物の前の校庭で運動会をするために、まっすぐにつける予定だった道路を変更して海側にカーブするように出してもらひ、校庭を広くしてもらいました。ちよつどその工事にかかる時で昭和三〇年代だったと思いますが、その時は村会議員と二人で、横路（節男）さんを頼つて建設省まで直接陳情に行きました。

家がつぶれるくらいの時化の高波

時化で家が壊れることは何度もありました。とに

かく時化ると高波で、向こうの家が見えなくなるくらいですから。ぶつかつた波がさらに勢いをつけて高く上がり、屋根の上から波がすごい重さで落ちてきて家がつぶされるんですよ。つぶされた後を見たら家の材料がそのまま残っていました。七、八年前にも波が二階の屋根を破つてしまつて、空から水が落ちてきたという家がありました。でも、この辺の漁師は気圧がどのくらい下がれば、どのくらいの波がくるといふのが分かるから、そんな時は波が来る前にみんな裏山に逃げて無事なんです。冬は時化ても北西の風なので波は来ません。波が来るのは南西の風の時、台風や低気圧の時に七mとか八mの波が来るんです。

この辺の道路は水面から路面まで七、五mですが、もつと北の川白地区は九mあります。この辺がしょっちゅう波にやられるから向こうは後から作つたので九mにしたんです。建設局の人は日本海は七m以上の波は来ないから七、五で良いと言つんですが、七mの波が来てその波が出て行く前に次にまたすぐ波が来たら、波の上に波が重なつて七m以上に

なるでしょう。だから、この辺は七mの波が来たらやられてしまふ。特に湾になつて引つ込んでいるところは、波が押し寄せるので全滅ですよ。

国道が整備されて自転車でスイスイ走れるようになった時はうれしかったですね。でも、今の道路は車優先で、人のための道路か車のための道路か分からなくなつていふと思います。柵内に行く旧道は新道が出来るまで一五年以上車が走つていましたが、狭くてカーブが続ぎ、下を見れば崖の険しい山道だったのに、事故があつたのは一件だけ。それも京都からきた大学生ががけ下に落ちた事故だけでした。幸い木に引つかかつて助かりましたが、危険な道では事故が起きにくいというのも皮肉な話ですよ。道路が出来た、車が通れる、自転車にも乗れるといふのはうれしいことですが、あまりにも車優先になりすぎた今の状況は、考え直す必要があると思ひます。

郵便物を運ぶため 毎日山越えした日々



珊内 田中 忠
(八二歳)

長い間「陸の孤島」だった珊内地区

明治三十五年三月二〇日に珊内郵便局が開局し、父は初代郵便局長を勤めました。私は珊内で生まれ、学校を卒業してから札幌で仕事についていました。終戦後も札幌の雇来にあつた陸軍の糧秣所にいましたが、父が亡くなつたため珊内に戻り、昭和二〇年二月六日付けで郵政省から二代目の珊内郵便局長に任命されました。

神恵内村の市街地から約一四キロ北にあるここ珊内地区は、長い間、まさに「陸の孤島」でした。神恵内から四キロほど北の大森地区までは海岸線を歩くことが出来ましたが、大森地区と珊内地区の間の約一〇キロは切り立った険しい崖の続く海岸線に阻

まれ、海沿いを歩くことが出来なかつたのです。そのため、珊内地区より北の部落の人たちは、神恵内まで行くのに、風の日は一週一回運行する定期船を利用してか、天気の悪い時化した日は山越えをしなければなりませんでした。昭和六〇年一月に念願の大森〜キナウシ間のトンネルと大橋が完成して大森地区と珊内地区が結ばれ、国道二二九号線の新道が開通するまで、私たちはずっとそういう生活を送っていたのです。

三時間半歩いて山を越え神恵内に到着

郵便物を毎日山を越えて神恵内まで持つて行き、帰りに届いた郵便と新聞を受け取つて帰つて来るのは、配達といって、集配や配達とは別に担当が決まっていました。送送の担当者は、郵便物を大きなリュックに詰めて背負えるだけ背負い、稲荷寿しやおにぎりを持って、毎日のように山越えをしなければなりませんでした。

裏の山を四五分くらい歩くと二見峠というところに着き、それから山を一つ越え、次に四八曲がりも

ある「いろは峠」呼ばれていた高い山を越え、ようやく大森に着くのです。そこには集配人休憩所があり、お茶を飲んだり温まつたりして一息つくことができました。そこからは神恵内まで海岸線を歩いて行くのですが、時化の時は波にさらわれる危険があるため歩けません。そうすると、さらに山を三つ越えて、はじめて神恵内に着くことができました。だいたいいつも三時間半から四時間はかかりました。

夏は道路に両側から草がかぶさるのでカマを持って草を刈りながら歩いたり、体を小さくしてもぐって歩きました。雪の降り始めは木の枝や笹に雪が積もるので、枝や笹をたたきながら歩きました。冬になると必ず杖を一本持つていき、下り坂では杖を支えにして滑りおりました。昔は雪が多くてこの辺でも窓が隠れるくらい降りましたが、山はその三倍くらいになります。だから雪が降るといって前日のうちに雪ふみの応援を頼んでおき、前を歩いてもらって道をつけてもらい後からついていきます。大雪が降った時には三人頼んだこともありませぬ。普段は三時間半から四時間くらいかかる道を、大雪の日に四

人で行って六時間もかかったことがあります。道幅が二尺（約六〇cm）か三尺（約九〇cm）くらいしかなく、歩く方向を間違って別の所へ入ってしまったり、雪の深さが股まであって足が上がらないのでまっすぐに歩けなくて、ジグザグに歩いたり、風のないときは一面木の枝に雪が降り、どこが歩く道かまったく方向を見失ったこともありませぬ。遞送の小蔵さんは、春先に山の中で二頭の熊と出つくわし二mの距離まで近づいたときは生きた心地がしなかつたといひます。

だから、冬期間は特に、遞送の担当者が行って帰って来るまでは安心できませんでした。帰りが遅くて途中まで迎えに行ったり、雪が降り出したら村の人に呼びかけて道路をつけに行ったりしたものです。

届いた郵便を配達するのも大変でした。一番離れているところで珊内よりさらに八キロほど北の、西の河原近くにあるオブカル石というところまで配達しなければならぬのですが、海岸沿いを歩いて行くので、時化た日はやはり行けませんでした。

冬は時化で欠航の多かった定期船

定期船は珊内より四キロほど北の川白を拠点に、珊内、神恵内、盃、泊を通り、岩内までの間を一日一往復運行して生活物資を運んでいました。朝六時半ごろの船に乗って岩内に昼ころ着き、午後二時に岩内を出て、夕方五時か六時に帰ってきます。でも、積丹半島は海の難所と言われるところで、一年のうち半分が時化で、特に冬は時化の日がほとんどで、船の運行ができませんでした。危険が伴い事故も多かったのです。

食料品は冬期間、凧のうちに多めに確保しておきました。時化ると入って来なくなるからです。魚や野菜は塩漬けにして蓄えたものがありました。調味料などは足りなくなるとお互いに貸し借りしたり、それで間に合わなければ山を越えて神恵内に行かなければなりません。岩内で会議のあるときは行きと帰りに一日ずつかかるので二泊三日の日程でした。

昭和四三年に初めて車の通れる道路が開通

昭和四三年に神恵内～珊内間に初めて車の通れる

道路が開通しました。これが旧道です。この時は「これで陸の孤島といわれない」と喜んだものです。ところが大森地区から珊内地区までは海岸沿いの断崖を縫うように切り開いて作った山道のため、急カーブと急勾配がどこまでも続き、道幅も狭く車がすれ違うのがやつとの危険な道で、バスは通ることが出来ませんでした。

それで、バスの通れる道路がほしいと、新しい道路整備の要望を続けました。この地域に道路を！という願いは、住民みんなの永年にわたる切なるものでしたが、近隣の人達にとっても他人事ではなかつたのでしよう。道議会や国会の議員さんたちも動いてくれ、それから数年で大森地区と珊内地区の間を結ぶ工事が始まり、大森トンネル、大森大橋、キナウシトンネル、ウエンチクナイトンネル、とようみトンネルが次々に完成して、昭和六〇年に念願の新道が開通したのです。同時にそれまで赤石までだった中央バスが珊内・川白まで路線延長になりました。また、それに伴って、永年親しみお世話になった定期航路が廃止になりました。

車の通れる道路が開通して生活物資や必要物資の心配はなくなりりましたが、車の往来が激しくなり観光客も来るようになって、浜にゴミを捨てて行くのは困ってしまいます。二トントラックがいつぱいになるくらいゴミですからね。そして、観光客が増えるのと反比例するように人口は減る一方です。珊内小中学校は平成一〇年三月閉校に、珊内郵便局も人口が減少し取り扱い量が減ったため、平成一一年六月に廃局になりました。岩内川白間を走る中央バスは一日往復八便ですが、岩内に通っていた高校生もいなくなり、先日乗った朝の便には三人しか乗っていませんでした。一日三〇人乗らなければ採算が取れないそうですが、それさえも難しい状態です。その代わり、村が運行している福祉バスを利用する人が増えています。朝出て、役場や診療所に行つて昼過ぎに帰ってくるため、午前中に用事を済ますことができます。

「道路が欲しい」というみんなの願いはようやく実現しましたが、住んでいた人たちは都会へ出て行き、逆に都会から観光客が来る。観光客のために道

路を作ったのではないのに、肝心の住民が、ようやくできた道を活用していないようで、なんだか複雑な思いもします。でも不便だった時代に比べると、午前中のうちに神恵内を往復出来る今の生活は、昔は考えられなかった夢のような生活だということは確かなことです。

会議に出るにも命がけ



川 白

阿 部 一

(七八歳)

時化に奪われた命

私は、神恵内村の中心部からずっと北の方にあるオブカル石(神恵内村中心部から、国道二二九号を通り積丹方面へ約一五キロ)で、大正一二年に生まれました。当時、約二〇戸が住んでおり、商店も四軒ほどあって、わりとにぎわっていた記憶があります。私の家から小学校までは歩いて五分程度でした

が、波打ち際の道を三〇分ぐらいかけて来る生徒もいて、時化ると休校になりました。

その頃は、波打ち際の道を通るか、山道を行かなければ、陸路では隣町へ行けませんでした。特にオブカル石とノットの海岸道は、命の危険さえありました。小学校二年の時の大晦日だったと思います。オブカル石の商店に、正月用の買い出しに来た主婦が帰り道に波にさらわれて亡くなりました。それからはみんな用心して、時化たときは、必ず山道を歩いたものです。もっともそこも獣道で、大変な思いをしたものですが、私が小学校を卒業して二年後ぐらいに、営林署が林道をつけて広くしてくれました。

学校の炭をみんなで運ぶ

一五歳の時、漁師になるため、川白にひとりで移ってきました。それから現在までずっと川白で暮らしています。当時、海産物の運搬はすべて船でしたし、食料品や日用品も七、八トンのポンポン船で、岩内から泊を経由して運ばれてきました。川白

が終点でしたので、私の生まれたオブカル石の商店は、ここまで仕入れに来て、背負っていつたり、凧の時は磯舟で運んでいました。海運がストップすれば、暮らしてゆけなくなりますから、厳冬期前の一月から二月中旬の間に、川白の三軒ぐらいの店では何十俵もの米や、みそ、しょうゆなど春先までの食料品を備蓄していたものです。他の町村との行き来に、海を使う時代は長く、昭和五〇年代まで回送船が通っていたというくらいです。

季節や目的によつて海、波打ち際の道、山道を使い分けていたのですが、ノットと川白を結ぶ海岸につけられた道は崖が切り立っていて、秋になると波は立つし、風は強くなるし、おまけに雨が降ると上から石が落ちてくるという難所でした。それでもノットの向こうにある小学校に生徒が通っているので、冬になると、毎日地域のみんなで通学路をつけたのを覚えています。各戸からひとりずつ出てね、カンジキを履いて雪を踏み固めたものです。

また浜に積んである小学校の暖房用の石炭を、学校まで運ぶのも、青年団や婦人部そして児童と、み

んなで力をあわせて運びました。ひと冬に一〇トンも二〇トンも地域のみんなで協力して運びました。

近くて遠い隣町が身近に

四〇歳の時、教育委員を務めました。冬に神恵内で会議があるときは、ここを大体朝の四時半に出発しました。そして山道をひたすら歩く。会議がちよつと長引けば一泊です。歩いていると時々、山の方から雪が崩れてきて、せつかく踏み固めたところにドーンと落ちてくる。そうすると別の道をつけないければならない。迷わないように木に目印を付けていくんですから、会議に出るにも命がけです。会議は冬の間、二、三回ありましたね。連れがいれば、まだ心強いものですから、春の先生方の人事異動の打ち合わせがあるときは、二月頃から一緒に神恵内まで行く人を捜して回った記憶があります。病気やケガをしたときは、岩内まで行きました。時化で船が使えないときは、海岸道を少し歩いてから、山道に入り、高さ一〇メートルほどの峠を三つ越えて行かなければなりません。昭和三〇年代に

神恵内と岩内の間をバスが通るようになりました。山道を通って一日三往復ぐらいいまいましたが、これがギリギリの道路幅を走るものだから怖くて、下なんか見られなかった。車が落ちたということも二、三回ありました。車同士がぶつかるほど交通量はなく、道を踏み外して落ちてしまう事故がほとんど。いまでも国道二二九号を走ると、山間にその道の名残が見えます。

昭和五〇年代に、今の国道二二九号がだんだんとできてきたのですが、トンネルを掘らなければならぬ箇所が多かったものだから、この地域の人には、このあたりに国道が完備されるとは夢にも思いませんでした。昔は隣町の積丹までは、海を行っても、山を行っても遠かった。近くて遠い隣町でした。ところが今ではここから積丹まで車で一〇分足らずです。とにかく道がほしい、と昔から私たちは願っていました。ここまで快適になるとは誰も想像しませんでしたね。

一九歳で海軍に…… 隠居縄でマグロ三〇キロ



川 白
梅 井 文 雄
(七七歳)

川白オネナイで生まれたが、ここへ来たのが昭和
一五年だった。

その頃まだ店はやっていなかったが、親父漁師だ
からこの買い付けをやっていたもんだ。だからま
ず、終戦前の話だけど。

兵隊に行くときは、道路なくって神恵内まで山越
えして行ったもんだ。船が神恵内で油なくてこつち
までこれなかった。神恵内の岸壁に海軍に行く人が
整列して村長挨拶だもの。神恵内始まって以来海軍
に行くもんだもの。その時の村長今井村長だか？

兵隊に行ったのは、神恵内から亡くなった平野由
雄さんの弟さんよ、それに長屋沢の山本さん、札幌
で亡くなったべせ。それから、能登さんだべー。そ

れと阿部一さんか。

その頃にも、この辺から海軍志願した人もいたな
あ。珊内の斉藤さん、神恵内の黒田さんの弟さんも
いたか。

俺の一九の時よ。俺達線上げだからな。徴兵つて
言うのは二〇歳、かぞえの二一からよ。

岸壁で見送りの人ずらつと並んでいた。戦時中だ
もんだから軍に皆持つていかれて油なくて川白まで
船来れなかつたんだ。

いたる所で玉砕してしまつて、兵隊いなくなつた
もんだから一九で……昔、漁師から海軍で言うのは
志願兵以外とらなかつたもんだ。結局、海のことだ
から綱結ぶことみんな解つてるから……だけど終戦
でそつちこつち玉砕して、兵隊いなくなつたもんだ
から教育しなくてもいいように漁師をとつたのよ。

俺達は昭和一九年九月に横須賀にいったんだけど
も、そつちやこつちや分散させられて、通信学校に
行く奴、船に乗る奴、俺は船に乗つたもんよ駆逐艦
神風に。そしてシンガポールで終戦だから兵隊の経
験は一年しかない。二〇年の八月一五日終戦だから

：そのときイギリスの捕虜になって二年間いた。

その後、昭和二三年八月に復員し、それからずっと浅海漁業やってきた。

その頃、ニシンも少しは取れたけど昭和三〇年頃だからもう終わりの頃だな。船はまだ無動力の磯船で手こぎだもの。その頃マスでも何でも大したとれたしな。マスの延縄で、要するに「ずんで棒」つてやつだ。俺達昔は、隠居縄つて言ったもんだ。

沖に仕掛してるもんだから、とつてくるわけでもないし、隠居縄つて言ったもんだ。昭和五〇年頃から船外機になつたんでないか。

浅海漁業ではアワビ、ウニのほか何でもとつていた。その頃つていつたらアワビはいっぱいいいたもんだね。

四時間もとるつてば、アワビであれば一回に五〇キロ、六〇キロとつたんだね。

値段はその頃一貫目、二貫目だから、けつこう値段してたんでねえが。値段ちよつとわがねえけどもな。

昔、漁師もけつこう景気がつたし、船も当時無

動力から動力にして、船入瀬もだんだん大きくなっていった。一番最初の動力船は、昭和三五、六年頃かな。高田さんがチャッカ船のほんとの小さい船を川白の瀬にもつて来たの。

その前には、チャチャボートつていうのがノットにもあつたんだよ。山内さんとか今の千葉さんの父さん達な。その船を川白さ置いて、川白からイカをリヤカーで運んだもんだ。

その頃、イカつけを磯舟でやつていた人もいだから、神恵内で遭難して三人死んだことがあつたな。

当時は、前浜の下に全然船入瀬ながつたから自分で「澤田の瀬」とか「やまかの瀬」とか、その他いっぱい造つたもんだ。

今ある船入瀬だつて昭和三〇年頃からボツボツとやつたんでねえかな。

そのころは珊内まで道路来ていたけど。川白まで道路が出来るのに五年や六年かかつたんで、昭和四〇年近くでないかな。

昭和四八年頃から組合でマグロの巻網漁やつていたが、五四年頃までマグロの漁はあんまりかんばし

くなかった。あれは七月か盆近くだったかな。マグロがどんどん跳ねて俺達も小さいマグロをけっこうとった。その時、しゃぐりで俺は三〇キロのマグロをとって、納谷さんも二六キロのマグロとったもんだから、マグロ船の人達もこれ見て明日大漁になるんでないかと言っていたら本当に大漁よ。

積丹までの道路は平成八年の十一月に開通したんだけどさ、感無量だったな。開通した日は車を数えていたが、あまり多くて一五〇何台でやめた。

昔の山越えをして歩いた頃を思い出すと懐かしさがしみじみ湧いてくるもの。

道路が出来て墓参り



川 白

三 澤 みよ

(八二歳)

昭和二六年九月に積丹町幌武意からバスと船に乗って川白にお嫁に来た。岩内までバス、岩内から

船に乗って、一晚泊まって次の日来たの。

ここの店はじいちゃんが二六歳の時開いたんだって。

その頃、磯舟の小さいやつで、艫で漕いで岩内まで品物仕入れに、自分でとったものや品物売りに行って、自分の店のものを買って来たりいろいろやってたらしい。

家の父さんは私が来る前、古宇漁業組合の職員としてしばらく勤めてたらしい。漁業会の時だから、それを辞めてから後を引き継いで店やるようになったんだ。

その頃は時化が続くと品物が無くなり仕入れするのが大変だったので、珊内まで道路出来たときは大変喜んだものです。

川白に嫁に来てから、積丹に墓参りとかずつつと行っていなくなつたけど、親が死んだとか、何とかの法事だとか、そうした時でないといけなかつたから何回もいってないわ。

けれども平成八年十一月にこの一周道路が開通したときは嬉しかったね。

道路開通してからはじめて墓参りに行ってきた。

私の兄弟は幌武意に弟と妹がいて余市町に姉がいる。それから二、三年してから行ったかな。けれど今は行かなくなつたわ。父さん亡くなつてから出れなくなつたからね。

道路出来る前、山を歩いた時はおっかなかつたよ。はじめて行ったのは私の父親が死んだ後だったから二月五日の寒中で、大森まで行くのにおっかなかつた。山を登つて歩く時キナウシの坂、車通るとこまでまつすぐ登るんだもんね。みんなで登つても、登つても先が見えないんだもの。そしたら下りは滑つて降りるんだから体中濡れてしまつて。そんなとき「えびすや」さんに寄つてき、濡れた身体乾してバスで岩内まで行く人いるから乗つていきなつて。

岩内からバスでぐるっと回つて、そして美国からずつと野塚回つて大回りして行かないとないの。今では懐かしい想い出……

道路が出来た平成八年一月一日のとき、開通式の場所まで行きたかつたけど家の父さん行つたから

行かないで店番していた。

道路が出来たけど景気は悪くなつたわ。車が素通りだもんね。あの頃は川白も住宅の数けつこうあつたからね。まあ、ノットだつて何件もあつたしね。

オブカル石も最近まで猪川さんの屋根見えてたけど、なくなつた？川上さんも二、三件あつたつてしよう。それから檜森さんも二、三件、長内さんもいたしね。学校もあつたし一〇件位はあつたよ。

その頃道路だつてあまり良くないし、早く道路つけばいいつてやつぱり思つたもんだよね。だつて、学校の生徒もかわいそうでしょう。通わなきゃいけないからね。

早く道路ついでくれればいいと思つてたけど、家の父さん民生委員でも消防でも会議に行けば珊内の斉藤さんに寄るわけ。そしたら、一杯飲むんだらうけど、「父さん行つたどー母さん迎えに来いって」電話くるの。海岸の道路だけについてあつたけど、デコボコして上に登るところもあつたしね。昔だもの迎えに来いと言われて途中で迎えに行けば、「オー迎えにきたのかって」こともなくて先にサツ

サときてしまおう。

道路がついたおかげで大した楽したよ。民生委員とかの会議でも消防の会議でも迎えに来てくれるしね。そういう面では父さんは楽したわ。父さん亡くなったのは昭和六三年だから早いものでもう一四年になる。毎日晚酌飲んでいた父さんを思い出す。

密漁追いかけて…… コンブ焼いてヨード造り



川 白

千葉 正二

(七九歳)

俺はノットで生まれたけど母さんはオネナイから昭和二十七年に来たんだ。

その頃からアワビとかウニもとっていたけどニシンもとれていたな。

アワビだけでも一回であればあのあたりなら五〇キロ六〇キロとったもんだもの。キロ当たりの値段

はちよつと思い出せねえけど。

あいだせー、今みたいに時化多くながつたせ。今年みたいないこういう年しらねーもの。一回ウニとればその後それこそ一〇何日も時化するような年。

俺が母さんと結婚する前、二四歳か五のときマス縄つてやらずもやつたもんだ。その頃だらけつこう漁あつたもんだもの。そのあたりだら風多かつた。縄あぐつてしまえば磯舟の若い者集まつてホラ語りだもの。したつて、その頃だら船つなぐつてたつて細い縄でつないで船つないでしまつたら船に集まつてホラ語りだ。昔から見たら今そういう風だなんてねえもの。

その頃ノットだつて何件もあつたべ。母さん来た二七年頃つていつたら結構あつたべー。一一件位あつたんでないか。

その頃道路ねがつたから岩内まで船ででたもの。客船に乗つてなあ。

道路開通してからは、漁の中心はウニだけだもんな。元だつたらコンブでもワカメでもけつこうとつたもんだ。コンブは竹むしろに六〇キロ詰めで売つ

たもんだもの。その頃だつたら三しろも四しろもあるところからとつたもんだもの。深いところからコンブ、ワカメが生えていんだ。

このあたりだらコンブだつて二〇キロのやつ三〇段、四〇段もとつたもんだもの。今のコンブだらそのあたりで言えば悪いコンブで、みんな焼いてヨードとつたからな。自分で焼いてヨード造るわけよ。買う人が来たもんだもの。

その前のいいものはみんな反昆布にしてな。一反で反昆布、元神恵内の池田さんが等級決める検査員やっていた。

その頃アワビもウニも沢山いだけど、アワビの密漁は道路ができる前の旧道あつた頃から来ていた。一〇何年も前から小樽の奴らだとか岩内のやつら。ノットの下で潜っていたやつらなんか袋いっぱいアワビを入れてたもの。五人も来て、ボンベしよつて四人が海に入るんだもの。そのあたりだら俺監視員やってたから顔おぼえているんだ。

ゴムボートでくるんだけどボートは遅いから磯舟で何ぼでも先回つてあるぐにいいんだ。

そのゴムボートで積丹の神岬から来るんだ。神岬から四〜五人で来るもんだからついていけば窓岩のところへ潜っているんだ。俺行けばボートに一人番兵おいて、「まだ来てらなこの野郎だ」と言つて俺潜つてるところを船外機でグルグル回つて歩くのよ。したら自分達の船だと思つて顔出すのよ。顔覚えてるもんだから、「まだこの野郎だ来て」つて怒鳴つて、「入っている者皆上がれ」つて言えば上がるのよ。そいつらヤクザ系でもなんでもねえのよ。

何も文句も言わないんだけども酸素残つてればまだ潜るのよ。どうもなんねえやつらだ。

そのあたりはアワビもあつた。俺達一回に五〇キロ、六〇キロとつたもんだ。アワビとアワビ重なつてあつたもんだもの。だから密漁来て追つかけて行けばどつと麻袋に入れて投げてしまふんだ。だから、俺達も麻袋に入れてくる奴わかつてるんだ。だけどなんばヤクザでなくても側で調べることできないものな。保安庁の奴らでもつかめなかつた。今も密漁は来るけどどうにもならないもんだな……

この道路出来てから積丹方面に息子の車で何回も

行つて来たけど、ノットに上がる道路もロードヒーティングしてもらつて雪投げなくても良くて今おかげさんで雪かいだことない。それまでなら五人で毎日雪かきだも。三件しかないのに良くやつてくれてありがたいもんだ。



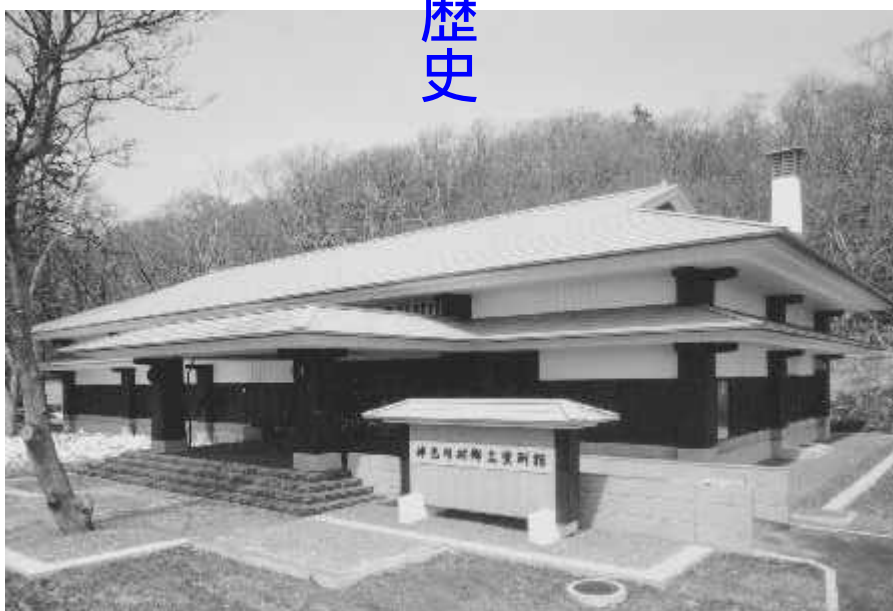
大正末の神恵内



明治33年 大火前の神恵内

神恵内村の年表

戸長設置一三〇年の歴史



西暦	北海道時代区分	年代	おもなことから	資料
一八七二	開拓史時代	明治五	<ul style="list-style-type: none"> 田付新十郎、神恵内村戸長となる 神恵内に古宇病院設置 	田付新十郎自伝 開拓史事業報告
一八七三		六	<ul style="list-style-type: none"> 古宇川に板橋架設、神恵橋、長さ一六間、巾一間 古宇郡 札幌本庁管轄となる 	北海道史
一八七四		七	<ul style="list-style-type: none"> 開拓使古宇出張所庁舎落成（六六坪二合五勺） 佐々木平門、神恵内戸長となる 	道庁古宇往復文書
一八七五		八	<ul style="list-style-type: none"> 開拓使古宇出張所廃止、岩内出張所、古宇出張所を合併 松本大判官 神恵内村視察 暴風雨で大被害つく 	開拓史公文録 築瀬真精日記 開拓史公文録
一八七六		九	<ul style="list-style-type: none"> 神恵内村教育の父 高橋常四郎移住（四五歳） 珊内、赤石稻荷神社村社に列す 神恵内教育所を開校 	高橋常四郎小伝 植民公報 学 校 簿 神恵内村誌
一八七七		一〇	<ul style="list-style-type: none"> 天竜寺創立（寺號公称は明治四三年） 古宇川堤防新設（費用五四一円〇四八） 神恵内村内溝梁新設 	開拓史事業報告
一八七八		一一	<ul style="list-style-type: none"> 高橋常四郎神恵内教育所に着任 神恵内教育所の設備充実のため、教育有志会社を設立、頭取田付新十郎、世話人大崎亀吉、須田善兵衛 開拓使古宇出張所庁舎払い下げをうけ、神恵内戸長役場にあてる 建坪六六坪二合五勺、病院を併設 	高橋常四郎小伝 田付新十郎自伝 福島文書 開拓史公文録

一八七九		・開拓使分署を岩内古宇郡役所とする 一月一日現在 神恵内 一〇〇戸 六一四人	岩内町史
一八八〇	三	・神恵内村の戸長役場は神恵内赤石の二カ村を管轄する ・珊内村に珊内村戸長役場を置き、珊内村（川白を含む）を管轄する 計 一八六戸 一、一七三人	神恵内村誌
一八八一	四	・珊内教育所開校	学 校 簿
一八八二	五	・大洪水あり堤防決壊、河水市街にはらんする ・開拓使を廃止し、三県制を施行、古宇郡は札幌県管轄となる	北海道史
一八八四	七	・私設消防組が創立 ・浄国寺創立（寺号公称は明治三二年） ・曹洞宗説教所赤石に設置（後に地藏堂） ・公立神恵内学校焼失	神恵内村消防記録 郷 土 地 誌
一八八五	八	・神恵内郵便局設置（初代局長須田善兵衛） ・神恵内村、赤石、珊内三カ村漁業組合設立	学 校 簿 局 務 原 簿 大 崎 亀 吉 伝
一八八六	九	・神恵内に巡査派出所をおく ・三県一局制廃止、北海道庁設置 ・神恵内登記所設置	岩内郡長から札幌 県令への提出文書
一八八七	〇	・大洪水あり	神 恵 内 村 誌
一八八八	一	・赤石分校設置 ・市町村制交付	学 校 簿

日	清	戦	争	大日本帝国憲法制定	
一八九九			二二	<ul style="list-style-type: none"> ・ニシン漁獲高、古宇郡 三五、九〇六石 ・珊内村戸長役場を廃し、神恵内村戸長役場の管轄となる ・川白簡易小学校開校 ・神恵内川堤防六〇間修繕、地方費で二〇〇円支出 	道水統計表 郷土地誌 学地誌 北海統計書
一八九〇			二三	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防改築（工費一、〇〇〇円） 	神恵内村誌
一八九一			二四	<ul style="list-style-type: none"> ・北井長作氏タラ肝油製造開始 ・大暴風雨あり漁獲ニシンことごとく流失、喜宝、順風の二船難破する ・神恵内郵便局で為替、貯金業務取扱いはじめる ・古今稀な大時化（祈石、弁財潤の碇船舶九隻破線） ・高崎和二郎が廻漕店を開く 	植民公報 大崎亀吉伝 局務原簿 澤口メモ 北海立志伝
一八九二			二五	<ul style="list-style-type: none"> ・公立珊内小学校校舎を珊内村四五番地に新築移転する ・神恵内、赤石、珊内三ヶ村戸長役場庁舎新築落成 ・岩内警察署珊内巡查駐在所設置 ・ノット金山、珊内銀山、シシャモナイ銀山、開業 ・神恵内郵便局舎新築（大崎亀吉が自費で建設） ・神恵内村人口、戸数六六五戸、三、三〇〇人 ・古宇郡水産物額 三八、五三四石（二四八、九八九円） ・浄土宗帰命寺創立 ・オブカル石簡易教育所設置 	珊内校沿革誌 大崎氏所有写真 岩内古宇二郡誌 局務原簿 大崎亀吉伝
一八九三			二六		神恵内村誌
一八九四			二七		郷土地誌 学地誌

一八九五	二八	<ul style="list-style-type: none"> ・「岩内古宇一郡誌」発刊 ・珊内小学校公立珊内尋常小学校となる ・公設の消防組として許可 ・岩宇定期航路、古宇丸就航 	学 校 簿
一八九六	二九	<ul style="list-style-type: none"> ・神恵内郵便局で小包郵便事務取扱いはじめる 	局 務 簿
一八九七	三〇	<ul style="list-style-type: none"> ・岩内古宇郡役所を廃止し岩内支庁をおく ・日蓮宗説教所（法華寺の前身）創立 ・珊内尋常小学校川白分教所開設 ・赤石分校 赤石尋常小学校と改称 ・菅林署駐在員をおく ・岩内警察署神恵内分署落成 	郷 土 誌 道 水 試 統 計 表 大 崎 氏 所 有 写 真 説 明
一八九八	三一	<ul style="list-style-type: none"> ・明治三〇年から四〇年頃までニシンの全盛期 ・大洪水あり ・家屋流失 一〇余戸、学校及び弁天社へ移る ・同年より三年にわたり堤防改築 工費四、六〇〇円 ・水災金額 一八、九〇二円九〇銭 ・神恵内郵便局破損のため局長宅へ移転 	神 恵 内 村 誌 澤 口 漁 場 ヶ 毛 北 海 道 第 一 回 統 計 書
一八九九	三二	<ul style="list-style-type: none"> ・岩内区裁判所神恵内出張所設置（神恵内村登記所廃止） ・浄国寺創立 ・気象観測所設置 	局 務 原 簿
一九〇〇	三三	<ul style="list-style-type: none"> ・古宇川築堤 四〇間、工費五〇八円七五銭 ・神恵内市街大火（一四〇軒焼失） ・珊内に沃度製造所つくられる（土谷倉藏氏所有） 	神 恵 内 村 誌 北 海 道 第 一 二 回 統 計 書 植 民 公 報

一九〇一	三三	<ul style="list-style-type: none"> 澤口忠次郎が清酒醸造所をつくる 神恵内村医住宅四六坪新築 	岩内支庁管内概況 村長事務引継書類
一九〇二	三五	<ul style="list-style-type: none"> 神恵内村立第一小学校（珊内校）校舎新築 五九・五坪 珊内郵便局できる 	学 校 簿 郷 土 地 誌
一九〇三	三六	<ul style="list-style-type: none"> 小川温泉免許おりの（炭酸鉱泉） 明治三三年大火で焼失した神恵内小学校の復旧なる 	後志支庁管内概況 村長事務引継書類
一九〇四	三七	<ul style="list-style-type: none"> この年までに神恵内市街新区画完成 神恵内外二カ村戸長に菊地竹治就任 大洪水、流失三〇戸余り 	” ”
日 露 戦 争	三八	<ul style="list-style-type: none"> 神恵内婦人会議結成（会員一八〇人） 神恵内軍人会結成（創立者、菊地竹治氏） 古宇川堤防全面的改修（現在のもの）以後洪水少なくなる 赤石婦人会結成 消防器械置場四・五坪新築 九月 神恵内橋竣工 	神恵内村誌 郷 土 地 誌
一九〇六	三九	<ul style="list-style-type: none"> 神恵内村二級町村制施行 初代村長 菊地竹治 第一期村会議員選挙 神恵内村衛生組合組織 赤石村救護会結成 人口 三、九一七人 	北海タイムス 村長事務引継書類 村議会議員名簿 神恵内村誌 郷 土 地 誌
一九〇七	四〇	<ul style="list-style-type: none"> 神恵内村漁業組合設立 神恵内村予算 八、七五〇円九九九 隔離病舎設置 	組合重要事件日誌 村長事務引継書類 郷 土 地 誌

一九〇八	四一	・ 仮定県道、西海岸線の経過地に珊内、神恵内が入る ・ 二代村長 佐藤貫一 この頃カドザメ漁盛んとなる	植民公報 村長事務引継書
一九〇九	四二	・ 神恵内座創設	郷土地誌
一九一〇	四三	・ 神恵内小学校火災により全焼 ・ 岩内支庁を廃し、後志支庁を俱知安におく ・ 第三期村会議員選挙 明治三三年焼失の厳島神社再建	学 校 簿 郷 土 地 誌 村 議 会 議 員 名 簿
一九一一	四四	・ この年神恵内ではじめて活動写真をみせる ・ 珊内に曹洞宗教所設立 ・ 大雨で洪水となる ・ 大本山永平寺管長来寺 ・ 天龍寺の寺号公称（住職、斉藤黙禅）	木 下 丈 毛 木 下 丈 毛 郷 土 地 誌
一九二二	四五	・ ニシン大漁 ・ 近年にない大時化、古宇丸沈没 死者四名 その他 弁財船傷む	岩 内 町 史
	大正 元	・ 本道開拓以来未曾有の暴力を呈し、凄惨を極めし大風雪 ・ ニシン未曾有の大々漁 古宇場所 六二、〇〇〇石 全道第一位 ・ イカ大々漁 ・ 村医住宅建設	北海道タイムス 木 下 丈 毛 道 水 試 統 計 表 木 下 丈 毛
		・ 川白尋常小学校教室増築（建坪二二坪） ・ カクウロコより出火、出町、井上、的場など六軒焼失	学 校 簿 木 下 丈 毛

- ・赤石稻荷神社を古宇郡郷社、厳島神社に合祀
- ・瀧沢植民地の開拓始まる（藤井広市、今村儀三郎）
- ・赤石中の滝トンネルを小倉源次郎が私費で施工した
- ・神恵内村長に澤田喜博氏就任（佐藤貢一氏退職による）
- ・役場会議室二〇坪新築

午後五時頃より大時化、難破船延々あり

仮定県道筋山道休泊所設置、看守人 阿部勸次郎

岩内警察署神恵内巡査部長派出所をおく

消防器機置場増築

神恵内村郷土地誌発行

赤石小学校同窓会創立

神恵内村人口、八〇八戸 五、一七一人

神恵内村水産組合設立（組合員五六二人）

七月より一〇月に至るまで、イカ大漁

青森々小樽間の定期航海船の寄港開始

森本愛吉、トーマル植民地の開拓を始める

岩宇定期航路

渋谷久太郎、神恵丸（七トン 二〇馬力）運漕

未曾有の時化

七月に大洪水あり

第五期村会議員選挙

タコ空釣漁業はじまる

・実に人間一生のうち見ることなき程のイワシなり

第一次世界大戦

郷土地誌

神恵内村誌

北海タイムス

村長事務引継書

基本財産原簿

木下メモ

村長事務引継書

岩内町史

基本財産原簿

郷土地誌

村長事務引継書

植民公報

木下メモ

郷土地誌

神恵内村誌

高田梅吉口述

岩内町史

澤口メモ

木下メモ

村議会議員名簿

木下メモ

開 道 五 〇 年	一九一八	七	一九一七	六	一九一六	五	一九一五	四	
		<ul style="list-style-type: none"> ・この頃から川崎船によるスケソ漁が盛んになる ・ニシン大々漁 ・ニシン刺網は泥のため不漁 ・村長伊藤第四郎氏就任 ・第七期村会議員選挙 ・神恵内村に初めて電灯がつく 	<ul style="list-style-type: none"> ・川白に曹洞宗説教所を開く ・珊内教育所（オブカル石）を安内尋常小学校と改称 ・戸数 八五四戸、男 二、九〇八人、女 二、六三六人 計 五、五四四人 児童 八七九人 	<ul style="list-style-type: none"> ・神恵内村川向基地整理完了 ・神恵内におけるニシン袋漕築設の最盛期となる ・第六期村会議員選挙 ・千葉忠次郎氏村長に就任 ・一月八日大雨で洪水となり、小川橋流失する ・一月五日まで全く雪がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤石青年団結成（初代団長 中山兼太郎） ・一月五日まで全く雪がない ・一月八日大雨で洪水となり、小川橋流失する ・千葉忠次郎氏村長に就任 ・第六期村会議員選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ・岩宇定期船「太古丸」が珊内、川白まで路線延長 ・村を六部にわけ、部長をおく （大正一一年から一〇部、昭和六年から部を区に改めた） ・赤石青年団結成（初代団長 中山兼太郎） ・一月五日まで全く雪がない ・一月八日大雨で洪水となり、小川橋流失する ・千葉忠次郎氏村長に就任 ・第六期村会議員選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ・堀株、泊間道路開削する ・カプト岬トンネル 大正二年に着手、本年完成 ・小川鉞山休鉞 		
		村長事務引継書	後志支庁管内概況	神恵内村誌	村長事務引継書	村長事務引継書	村長事務引継書	泊村史	高田久岩
		村議会議員名簿	学 校 簿	積丹半島練袋漕 調査報告	村議会議員名簿	村議会議員名簿	村議会議員名簿	組合重要事件日誌	高田久岩
		佐々木吉藏	神恵内村誌	村議会議員名簿	村議会議員名簿	村議会議員名簿	辞 令 簿	高田久岩	
		木下メモ	神恵内村誌	村議会議員名簿	村議会議員名簿	村議会議員名簿	辞 令 簿	高田久岩	
		木下メモ	神恵内村誌	村議会議員名簿	村議会議員名簿	村議会議員名簿	辞 令 簿	高田久岩	

一九二四	一三	<ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災の余波で、神恵内に軽石が寄せてきた ・安内尋常小学校改築落成 ・天理教神恵内宣教所創立 ・出町初太郎氏道議会議員に当選（第八期道議選） ・第一〇期村会議員選挙 ・珊内郵便局に電話設置される ・愛国婦人会 一団体 八〇人 ・處女会 一団体 会員 五〇人 ・青年会 五団体 会員 二二三人 ・ニシン漁獲高 二八、六四〇石 ・村予算 三六、〇〇一円 ・第二回国勢調査 	学 校 簿
一九二五	一四	<ul style="list-style-type: none"> ・九月大時化、一二年春に匹敵する ・寿都以北、古宇郡までニシン漁皆無なり、川白、オネナイ、赤石において一〇〇本内外の収穫を最大とす、実に悲惨の極なり ・ニシン漁獲高 五〇六石（岩内、泊、磯谷、寿都〇石） ・戸数 七四四戸、人口四、二一〇人 就学児童 八七九人 ・生産高 一、七六〇、九九〇円 ・神恵内村勢一班を発行した ・村長尾形良憲氏 島牧郡東島牧村長に転出のため、後任として小野寺吉太郎氏就任 ・神恵内港築港（第一期） 工費 四八、〇〇〇円 	澤口漁場メモ
一九二六	昭和 一五	<ul style="list-style-type: none"> ・道水試統計表 ・後志支庁管内要覧 ・村長事務引継書 ・村勢要覧 	道水試統計表

一九二九		四	消 防 記 録
	<ul style="list-style-type: none"> ・赤石小学校に付設の赤石実業補習学校を廃し、青年訓練所を設置 ・戸数 七二九戸 人口 四、二五〇人 ・神恵内小学校で尋常小学校准教員講習所開講し、四〇名の教員を養成した ・ニシン漁獲高 二〇、〇六六石 ・公立珊内尋常小学校校舍改築落成 ・学級数 二学級となる ・神恵内村勢一班発行 ・戸数 七三八戸、人口 四、二六四人 ・ニシン大々漁、かつてない大群来 ・神恵内港第二期拡張工事完成 工費 八五、〇〇〇円 ・第九期道議会選挙で出町初太郎氏二、五七六票で当選（二期） ・神恵内村勢一班発行 ・道庁 安芸技師外一名、積丹半島袋澗調査の結果、神恵内村四二、泊村三九、余別村一一、入舸村二、美国町三、古平町一、余市町一 ・ニシン漁獲高 一六、〇三〇石 ・ニシン刺網は皆無の漁 ・四月になっても寒気きびしく、積雪もかつてない量（三米） ・消防用ガソリンポンプ一台購入、消防機械化始まる （一般寄付六九五円・消防組員拠出一、〇〇五円） 	三	昭 四 村 勢 一 班 北 海 道 議 会 史
一九二八		二	木 下 メ モ
一九二七		郷 土 地 誌	道 水 試 統 計 表 学 校 簿

満 州 事 変	一九三二	六	<ul style="list-style-type: none"> 川白尋常小学校増改築落成 (坪数七五・五坪、工費三、七〇〇円) 村長小野寺吉太郎氏岩内郡島野村長に転出、後任鈴木仁治郎氏就任 珊内、赤石道路測量が行われた 神恵内漁業組合で明太、鱈子の共同販売開始 ニシン漁獲高 一、〇〇〇石 神恵内村勢一班発行 川白船入潤築港工事着工(今野千代藏の潤) ニシン合同漁業会社創立され、本道練漁業権は同会社に吸収合同となる 戸数 七一六戸、人口 四、〇一三人 神恵内交進会創立 神恵内クラブ焼失 大洪水となる ニシン漁獲高 一石 ニシン全然なし 川白港築港完成 川白、珊内間道路開発工事陳情 消防器機置場を役場横に移築 平屋建 戸数 七〇九戸、人口 四、二四四人 大洪水となり神恵内橋流失 神恵内出稼組合が結成され、千島・樺太への出稼ぎが盛ん 	五	<ul style="list-style-type: none"> 後志視察案内 村長事務引継書 神恵内村勢一班 交進会記録簿 木下メモ 道水試統計表 澤口漁場メモ 村長事務引継 村勢要覧 木下メモ
	一九三〇	五			

一九三二	七	<ul style="list-style-type: none"> ・ニシン漁獲高 二二一、一九五石 四月一七日岩内五千石、古宇二万石（ニシン漁の最後） ・神恵内村勢要覧発行 ・神恵内村長鈴木仁治郎氏真狩別村長に転任のため後任として円子喜四郎氏就任 ・第一〇期道会総選挙で出町初太郎四、二二七票で当選（三期） ・珊内港築港（村直営） ・旧土人 女子一人 ・ニシン漁獲高なし 	道水統計表
一九三三	八	<ul style="list-style-type: none"> ・赤石尋常小学校を廃し、神恵内小学校赤石分校とする ・役場会議室八坪増築 工費二五〇円 ・北井長作氏消防用ガソリンポンプ寄付、北井号と名づく 価格二、三〇〇円 ・消防用ホース一〇本、捲車一台を五三五四円で購入 ・川白尋常小学校三〇周年記念式挙行 ・北海道長官佐上信一視察のため来村 ・神恵内漁業組合で鮮魚の集荷と共同出荷開始 ・古宇川氾濫（家屋一六戸浸水、堤防欠壊） ・ニシン漁獲高 一六、五八〇石 ・この頃イワシ流し網漁の全盛期 ・赤石港築港（本谷清太郎請負） 	北海道統計創刊号 道水統計表 消防庁舎記録
一九三四	九	<ul style="list-style-type: none"> ・神恵内村、高橋勇治郎宅を神恵内村長宅として買収 	北井七太郎口述 記念写真 後志視察案内 古宇川左岸護岸 復旧工事関係書類 道水統計表 基本財産原簿

一九三六	一	<ul style="list-style-type: none"> ・戸数 七〇六戸、人口 四、〇三七人 ・古宇川左岸護岸復旧工事、六七五円で施行 ・北海道水産物検査所神恵内派出所設置（所長福澤彦次） ・一月二日暴風雨で建網の被害多大 ・神恵内村産業組合が設立された ・ニシン漁獲高四、二八五石 ・九年版村勢要覧発行 ・第四回国勢調査 ・岩宇郷土研究発行される（フルウ場所請負人の記録） ・神恵内村勢要覧発行（一〇年版） ・尾根内橋竣工 ・ニシン漁皆無 ・珊内診療所新築落成 ・暴風で神恵内港東防波堤二〇米決壊、底建網一カ統流失 ・神恵内、美国間横断道路開発の気運高まる ・第一期道会総選挙で、出町初太郎氏当選（四期目） ・朝来南東暴風雨、午後六時頃より益々波高く、翌四日午前七時頃最高、波のため場所一面決壊破損、市街地方面は崖番屋及び製造場にして一つとして倒壊破損せざるなき ・無限責任神恵内村漁業協同組合に組織変更 ・ノット川で大雪崩あり、民家六戸全壊、死者一名この事故以来、ノット川に住む人なし ・乗合バス神恵内・岩内間を運行（フォード一〇人乗） 	<p>後志支庁管内要覧 古宇川左岸護岸災害復旧工事書類 岩澤朔口述 木下メモ 道水試統計表</p>
一九三五	一〇	<ul style="list-style-type: none"> ・尾根内橋竣工 ・ニシン漁皆無 ・珊内診療所新築落成 ・暴風で神恵内港東防波堤二〇米決壊、底建網一カ統流失 ・神恵内、美国間横断道路開発の気運高まる ・第一期道会総選挙で、出町初太郎氏当選（四期目） ・朝来南東暴風雨、午後六時頃より益々波高く、翌四日午前七時頃最高、波のため場所一面決壊破損、市街地方面は崖番屋及び製造場にして一つとして倒壊破損せざるなき ・無限責任神恵内村漁業協同組合に組織変更 ・ノット川で大雪崩あり、民家六戸全壊、死者一名この事故以来、ノット川に住む人なし ・乗合バス神恵内・岩内間を運行（フォード一〇人乗） 	<p>尾根内橋記録 珊内小沿革誌 高橋庚子郎所有写真 神恵内船入潤災害復旧工事関係書類 木下メモ 北海道議史 澤口漁場メモ</p>
一九三五	一〇	<ul style="list-style-type: none"> ・尾根内橋竣工 ・ニシン漁皆無 ・珊内診療所新築落成 ・暴風で神恵内港東防波堤二〇米決壊、底建網一カ統流失 ・神恵内、美国間横断道路開発の気運高まる ・第一期道会総選挙で、出町初太郎氏当選（四期目） ・朝来南東暴風雨、午後六時頃より益々波高く、翌四日午前七時頃最高、波のため場所一面決壊破損、市街地方面は崖番屋及び製造場にして一つとして倒壊破損せざるなき ・無限責任神恵内村漁業協同組合に組織変更 ・ノット川で大雪崩あり、民家六戸全壊、死者一名この事故以来、ノット川に住む人なし ・乗合バス神恵内・岩内間を運行（フォード一〇人乗） 	<p>尾根内橋記録 珊内小沿革誌 高橋庚子郎所有写真 神恵内船入潤災害復旧工事関係書類 木下メモ 北海道議史 澤口漁場メモ</p>

一九四二	太平洋戦争	一七	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役場庁舎改築 建坪四三坪五〇、建築費四、三五〇円 ・ 神恵内防空監視哨設置される（初代哨長 佐野川久吉） 	基本財産原簿
一九四一		一六	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尋常小学校を国民学校と改称 ・ 秋イカ大々漁 ・ 二日、津波あり、船一〇隻以上流失する 	木下メモ
一九四〇		一五	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第五回国勢調査 ・ 村長に橋村誠氏就任 ・ 公立珊内尋常小学校に高等科設置して珊内尋常高等小学校と改称すると同時に一学級増設して三学級編成となる ・ 春ヤリイカ、夏イカともに大々漁 	木下メモ
一九三九		一四	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防組が警防団となる 	
一九三八	支那事変	一三	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豪雨のため古宇川洪水となり、ヤエダウス橋流失、家屋被害一〇戸 	
一九三七		一二	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神恵内港防波堤復旧工事 三、六六五円で施行 ・ イワシ流網が振わなくなり、業者が北進組を組織して、北見、樺太、久春別へ出漁する ・ 小川鉾山が再び操業する ・ 七月、神恵内村勢要覧発行 	神恵内船入潤災害復旧工事関係書類

一九四七	日 本 敗 戦	二二	<ul style="list-style-type: none"> ・ 珊内防空監視哨設置される（初代哨長 田中 吉春） ・ この頃、ホツケ巻網漁業盛ん ・ 昭和一三年災害のヤエダウス橋復旧工事竣工 ・ 一、二級町村制を廃止、市町村制実施 ・ 村長に今井七司氏就任 	基本財産原簿 水道統計表
一九四三		一八	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神恵内国民学校 木造平屋建四一四坪全焼 ・ ニシン漁獲高 二四六石 ・ 米機（グラマン）数機が神恵内湾内の上陸用舟艇を襲撃 ・ 神恵内村自治会設立 ・ 赤石青年会結成される ・ 神恵内青年会結成される 	
一九四六		二二	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニシン漁獲高 一、三三三石 ・ 村長今井七司、戦犯追放となり、助役菅原庄治郎氏が村長代理する ・ 農地調整法、自作農創設特別措置法の施行により、農地解放が行われた ・ 神恵内村農地委員会設置 ・ 公職選挙法により、神恵内村選挙管理委員会設置 ・ 神恵内青年親睦会結成（初代団長 斉藤幸市） ・ 夏、秋イカ好漁 ・ ポロシマ沖で九州の漁船遭難、七名のうち二名死亡 ・ ニシン漁獲高 一三三三石 	
一九四七		二二	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公選第一回村長に木村文忠氏当選 	

一九四九	
二四	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 神恵内港築港事務所新築（四五・五坪） ・ 神恵内港修築工事着工 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村会議員選挙 ・ 神恵内村立冊内中学校川白分校設置校舎は川白小学校に併置（一学級） ・ 神恵内村立神恵内中学校設置校舎は神恵内小学校を借用併置（三学級） ・ 神恵内村立冊内中学校設置。校舎は冊内小学校を借用併置（一学級） ・ 国民学校を小学校と改称する ・ 臨時国勢調査 <ul style="list-style-type: none"> 男一、八一四人、女一、八二九人 計三、六四三人 ・ 町内会廃止 ・ 白鳥録太郎氏を団長とする樺太引揚者一七戸、トーマル地区に入植。この年協同耕作で一五町歩開墾 ・ 神恵内村字トーマルに神恵内小学校清川分校設置 ・ 消防法施行により従来の警防団は消防団となる <ul style="list-style-type: none"> 団長 松館勇次郎 ・ 神恵内村川向に引揚無縁故者住宅一棟建築 ・ 神恵内小学校赤石分校を赤石小学校に改称（七月赤石小学校父母と先生の会結成） ・ 大森ノ冊内間道路開削着工（小樽土木現業所直営） ・ 開発道路トーマル植民地着工

一九五〇

一九五一

二五

二六

- ・神恵内村漁業協同組合設立（組合長 出町初太郎、正組合員四〇〇名）
- ・川白漁業協同組合設立（組合長 若林岩藏、正組合員二二名）
- ・㊦神恵内漁業協同組合設立（組合長 土橋松次郎、組合員一五二名）
- ・赤石漁業協同組合設立（組合長 鈴木信太郎、組合員八二名）
- ・珊内漁業協同組合設立（組合長 羽山伊太郎、組合員八二名）
- ・トーマル地区、この年三〇町歩開墾
- ・茶屋町橋架橋（巾員三米五〇、延長四二米五〇）
- ・神恵内小学校清川分校校舍建築落成（建坪六四坪、九三九千円）
- ・珊内発電所完成（水力、一五キロワット、工費二、六六九、三三三円五〇銭、代表干場栄吉）
- ・新漁業法により海区漁業調整委員選挙実施
- ・国勢調査（男二、〇四二人、女二、〇二一人）
- ・神恵内村一一の七番地（通称西ヶ丘）に神恵内中学校独立校舎新築工事落成（建坪一七六坪）
- ・札幌法務局神恵内出張所庁舎新築
- ・札幌在住郷土出身者によって札幌神恵内会結成
初代会長 大崎孝太郎氏
- ・村長木村文忠氏再選
- ・清川開拓村でフローリング工場、搾油、製穀設備設置ラジ
才協同聴取実施

一九五二

一九五三

二七

二八

- ・ 厳島神社二百年祭挙行
- ・ 農業委員会法により農地委員会を農業委員会とする
- ・ 神恵内村消防委員会設置
- ・ 神恵内村公平委員会設置
- ・ 神恵内村固定資産評価委員会設置
- ・ ニシン漁獲高 二三〇石
- ・ 赤石小学校校舎増築工事落成（建坪一六坪）
- ・ 神恵内中学校増築工事落成
- ・ 西の河原後志十景の一つに指定
- ・ 準地方費道、入舸、岩内線は、道路法の改正により道々に認定
- ・ 清川開拓村でバター工場完成、乳牛二〇頭飼育
- ・ 小川原農林政務次官視察
- ・ 戦没者慰霊平和祭実施、この年より毎年行われる
- ・ 神恵内村教育委員会設置
- ・ ニシン漁獲高 四一〇石
- ・ 村長木村文忠氏病氣退職のため村長選挙の結果、助役、北井七太郎氏無投票当選
- ・ 神恵内小学校清川分校を清川小学校に改称
- ・ 消防自動車購入（車体はフォード、ポンプは東京森田式、価格一〇〇万円）
- ・ 開発道路トーマル植民地線（神恵内、古平）二級国道に昇格
- ・ 道々入舸、岩内線は建設省告示により開発道路に指定

一九五四

一九五五

二九

三〇

- ・清川小学校教員住宅一棟一戸完成（四五五千円）
- ・神恵内海岸堤防災害復旧工事（川島四五六宅裏から古沢久藏宅裏まで延長三二〇米、工費二二、二八八千円）完成
- ・日本海マス流し網始まる
- ・大森地区水力発電施設完成
- ・一五号台風により大被害
- ・清川小学校増築工花落成（建坪三三坪、七三五千円）
- ・神恵内中学校清川分校設置（単級）清川小学校併置
- ・清川開拓村に製パン工場完成
- ・村営グラウンド建設に着手 初年度四〇〇千円
- ・神恵内海岸浸蝕防犯工事（古沢久藏宅裏から蛭子安太郎宅裏まで）完成
- ・珊内地区に有線放送設置
- ・神恵内中学校屋内体操場新築工花落成（建坪七四坪、工費二、二八〇千円）
- ・役場で機構改革一六係制を二課一一係とする
- ・村議会議員選挙。改選後第一回村議会で、議長若林岩藏氏、副議長松館勇次郎氏を決定
- ・村で「神恵内広報」発行
- ・珊内中学校川白分校を川白中学校に独立
- ・初代校長 滝口 徹
- ・神恵内、川向に公営住宅建設（二棟五戸）
- ・水害で茶屋町橋、ヤエダウス橋、トーマル一号橋、二号

- 橋、巻淵橋流失、珊内川護岸堤防決壊、八月一八日再度の大豪雨
- ・村民運動会開催
- ・神恵内村農地改革一〇周年記念大会開催
- ・国勢調査
 - 男一、九三三人、女一、九四一人 計三、八七六人
- ・清川開拓村で澱粉工場完成
- ・川白母の会結成される（会長 滝口 吉子）
- ・赤石小学校母の会結成される（会長 遠藤 セン）
- ・日本海マヌ延縄漁始まる
- ・再整備団体の指定を受け、七ヶ年計画で赤字解消
- ・昭和三〇年度災害により流失した神恵内小学校屋外グラウンドの復旧竣工
- ・神恵内村立川白小学校へき地集会所新築落成（建坪三〇坪、九四五千円）
- ・神恵内村立珊内小学校（珊内中学校も併置）老朽危険校舎改築工事着手（建坪一二二・二五坪、三、〇六〇千円）
- ・神恵内村端本平次郎氏、大川地区に造田着手
- ・昭和三〇年度災害で流失した、村道小川温泉場線の紅葉橋復旧工事竣工（延長三六米、七三四千円）
- ・神恵内小学校開校八〇周年記念式挙行
- ・神恵内村養豚協同組合設立

一九五九	三四	<ul style="list-style-type: none"> ・ (組合長 高田 久岩氏、組合員三七名) ・ 自由党幹事長 広川弘禪氏来村 ・ 赤石青年会創立一〇周年記念式挙行 ・ 神恵内消防団後援会設置 ・ 珊内母の会結成される(会長 海岸 やえ) ・ 中央バス赤石まで路線延長 ・ 第五回村民運動会開催 ・ 神恵内村長選挙の結果、北井七太郎氏無投票当選 ・ 珊内に国立札幌病院珊内診療所設置 ・ 神恵内小学校集会所完成(工費 三、三〇〇千円) ・ 神恵内農務協同組合設立(組合長理事 高橋 助治 組合員八六名) ・ 村議会議長若林岩藏氏死亡、村葬を執行 ・ 清川小、珊内小に風力発電完成(三七二千円) ・ 神恵内村機船々主協会結成される(会長 澤口 助一) ・ 神恵内、茂岩間、道路拡巾工事開始 ・ 神恵内商工会結成される ・ 森本 豊氏、小川地区で造田着手 ・ 同志社大学酒詰教授一行が観音洞窟発掘先史時代の遺跡出土 ・ 湯の沢振興組合が工費九〇万円で湯治宿泊施設建設 ・ 神恵内小学校増築(工費 三、〇五〇千円) ・ 暴風雪でマス釣漁船遭難、七名死亡 ・ 移動図書館「あけぼの」来村開始 ・ 神恵内港西防波堤に灯台設置、高さ一二米
一九五八	三三	
一九五七	三二	

一九六〇

一九六一

三五

三六

- ・ 神恵内く茂岩間冬季除雪により通年バス運行
- ・ 一四号台風襲来、罹災戸数二六〇戸、損害一億二千万円
災害救助法適用される

・ 古宇川右岸堤防建設

・ 神恵内村農業協同組合が大川地区に造田着手

・ 川白漁港修築工事着工

・ 木下喜代司他二五名で神恵内タワー設置、神恵内でテレビ視聴が開始された

・ 神恵内中学校校舎増築（工費 三、二五〇千円）

・ 大川地区造田事業実施（一〇町歩）

・ 出町初太郎氏死亡

・ 神恵内青年会結成される（会長 中川 恵）

・ 神恵内村漁業協同組合と、神恵内漁業協同組合が合併

・ 北海道知事、町村金五視察来村

・ 国民健康保険事業実施

・ 国勢調査

男一、八五九人、女一、七七七人、計三、六三六人

・ 神恵内港内に協同作業所及び魚菜市场建設

・ 神恵内村漁業研究会結成される（会長 佐藤久次郎）

・ 神恵内漁港完成（昭和二四年着工）

・ 大川地区造田事業完成（二〇町歩）

・ 川白小中学校老朽危険校舎改築（工費七、二五〇千円）

・ 集中豪雨で神恵内橋以外全部流失（損害一億円）

一九六四	三九	<ul style="list-style-type: none"> ・ 珊内中学校教室増築工事竣工 (三千円) ・ 珊内小学校へき地集会所新築工事竣工(六一坪、四、七二 三千円) ・ 大森、珊内、川白、ノット地区に北電導入 ・ 赤石港局部改良工事着工 ・ 珊内地区テレビ共聴開始 ・ 西ヶ丘に低家賃住宅八戸建設 ・ 村議会において交通安全都市宣言 ・ 内中、川白中でミルク給食実施
一九六三	三八	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村議会議員選挙 ・ 二セコ、積丹、小樽海岸国定公園指定(一市七町三村) ・ ヤエダウス橋永久橋完成(延長七一米、巾六米、二三、七 ○四千円) ・ 茶屋町橋永久橋完成(延長六八米、巾六米、一七、○三六千円) ・ 神恵内小、赤石小、清川小、珊内小、川白小、安内小、珊 内中、川白中でミルク給食実施 ・ 村議会において交通安全都市宣言 ・ 西ヶ丘に低家賃住宅八戸建設 ・ 珊内地区テレビ共聴開始 ・ 赤石港局部改良工事着工 ・ 大森、珊内、川白、ノット地区に北電導入 ・ 珊内小学校へき地集会所新築工事竣工(六一坪、四、七二 三千円) ・ 珊内中学校教室増築工事竣工
一九六二	三七	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神恵内港域内に魚菜卸売市場新築 ・ 秋イカ豊漁 ・ 集中豪雨、珊内川、古宇川氾濫 ・ 神恵内火葬場新築 ・ 赤石小学校教員住宅一戸新築 ・ 魚菜市场貯水庫新築(一、八〇〇千円) ・ 珊内、川白漁組合併、古宇漁業協同組合となる ・ 村営神恵内村魚菜卸売市場認可さる ・ 村議会議員選挙 ・ 二セコ、積丹、小樽海岸国定公園指定(一市七町三村) ・ ヤエダウス橋永久橋完成(延長七一米、巾六米、二三、七 ○四千円) ・ 茶屋町橋永久橋完成(延長六八米、巾六米、一七、○三六千円) ・ 神恵内小、赤石小、清川小、珊内小、川白小、安内小、珊 内中、川白中でミルク給食実施 ・ 村議会において交通安全都市宣言 ・ 西ヶ丘に低家賃住宅八戸建設 ・ 珊内地区テレビ共聴開始 ・ 赤石港局部改良工事着工 ・ 大森、珊内、川白、ノット地区に北電導入 ・ 珊内小学校へき地集会所新築工事竣工(六一坪、四、七二 三千円) ・ 珊内中学校教室増築工事竣工

東京オリンピック大会

一九六五

四〇

- ・ 神恵内小学校、神恵内中学校、教員住宅竣工
 - ・ 西ヶ丘に公営住宅一四戸建設（工費九、一二九千円）
 - ・ 東京オリンピック聖火リレーに参加
 - ・ 神恵内功績者第一回表彰式、受賞者四六名
 - ・ 岩内法務局神恵内出張所廃止
 - ・ 沿岸漁業構造改善対策事業計画策定
 - ・ 村長北井七太郎氏無投票当選（四選目）
 - ・ 村の機構改革三課制とする
 - ・ 神恵内地区水産業改良普及員駐在所設置（所長 吉田雄司）
 - ・ 国勢調査
 - 男一、六八八人、女一、五八五人、計三、二七三人
 - ・ 清川小学校及び神恵内中学校清川分校廃校
 - ・ 神恵内小中学校寄宿舎竣工（一五〇坪、ブロック二階建、一四、二八〇千円）
 - ・ 川白小中学校教員住宅二戸竣工
 - ・ 二級国道二二九号線の一号橋永久橋として完成（延長三三米、巾六米）
 - ・ 新消防車購入（車体は日産、ポンプは大坂森田式）
 - ・ 高潮により災害をうける（波高七米）
 - ・ ツボ石団地の造成開始
 - ・ 低家賃住宅八戸新築（ツボ石四戸、川白オネナイ四戸）
 - ・ 珊内水産物荷捌所新築
-

一九六六

四二

・岩宇定期航路「かむい丸」竣工記念式挙行（竣工四〇年十二月二三日、工費二四、五〇〇千円）

・町村金五知事来村、かむい丸にて珊内、川白視察

・神恵内総合グラウンド竣工

・神恵内市街地（神恵内橋）綿谷純一問、茶屋町橋、岡田商店舗装工事完成（延長一、〇三二米、工費九、七四一十千円）

・神恵内村青少年生活補導委員会結成（委員長 菅原亦次郎）
・衆議院議員選挙

・安内小学校廃校

・村議会議員選挙

・赤石小学校開校八〇周年記念式

・後志管内社会福祉大会開催（於 神小 参加者二八〇名）

・国道二二九号のうち古平～神恵内間道路開通式

・神恵内漁港改修工事起工式

・神恵内灯台建替のため撤去

・神恵内中学校特別教室増築工事竣工（理科室、技術室）

・トーマル地区公有林造成工事（三ヘクタール）

・神恵内小学校完全給食実施

・全村に一三の子ども会が結成される

・第一回産業まつり開催

・珊内中学校開校二〇周年記念式挙行

・神恵内中学校開校二〇周年記念式挙行

・小規模土地改良事業完了

一九六七

四二

一九六八	開道百年	<ul style="list-style-type: none"> ・ツボ石団地に低家賃住宅二棟八戸建設 ・神恵内村青年団体協議会結成（会長 松谷 堅志） ・神恵内漁業会解散結了調印 ・神恵内商工会創立一〇周年記念式挙行 ・神恵内中学校完全給食実施 ・村章決定（滝本 幸一氏作） ・珊内にユースホテル誕生（かむいユースホテル） ・神恵内村役場庁舎の新築決定し、旧庁舎、消防車庫、村長公宅を解体。七月三日新庁舎入札、請負人札幌杉山建設KK ・神恵内ツボ石にホテルできる（神恵内観光ホテル） ・神恵内浜で海水浴場開き行われる ・小樽博物館により観音洞窟発掘調査 ・神恵内村学校給食共同調理場完成（二、八〇〇千円） ・神恵内灯台再建点灯 ・川白教員住宅二戸建設 ・珊内へき地福祉館落成（四、四二二千円） ・大森〓珊内間道路開通式 ・一〇月に初雪あるもその後温暖が続き二月二六日まで雪なしイカ大漁 ・赤石漁港完成（昭和三八年からの継続事業） ・村旗入魂す ・神恵内村長選挙の結果、北井七太郎当選（五選） ・赤石小学校完全給食実施、珊内小中、川白小中学校パン、
一九六九	四四	<ul style="list-style-type: none"> ・赤石小学校完全給食実施、珊内小中、川白小中学校パン、

四五

- 牛乳給食実施
- 川白に旅館が開業（かわしら荘、旅館みやした、聴涛荘）
- 神恵内村役場庁舎落成式挙行
- 北海道知事町村金五行政視察のため来村
- 神恵内中学校へき地集会室増築工事实施（面積二八二㎡
七、〇〇〇千円）
- 神恵内小学校教員住宅二戸完成
- 札幌テレビ（S・T・V）視聴可能となる
- 運輸省「青少年旅行村」の候補地となり、調査員が来村
- 秋イカ漁皆無
- この冬から神恵内と珊内間にブルドーザを村で借上げ除雪し、珊内までの交通を確保する
- 札幌在住郷土出身者によって札幌珊内会結成
- 初代会長 坂本 勝栄氏
- 大雪で交通まひ状態となる
- 「青少年旅行村」候補地として第二次調査行われる
- 珊内小学校完全給食実施
- 神恵内、赤石地区のゴミ処理を開始
- 古宇川保護河川指定をうけ、サクラマス二〇万匹放流
- 茂岩へ弁財瀧舗装工事完成
- 神恵内、赤石地区簡易水道工事に着手
- 過疎地域に指定され、過疎対策計画を決定
- 国勢調査の結果、人口三、〇〇〇人を下廻る

- 男一、二七九人、女一、三二七人、計二、六〇六人
- ・ 公営住宅八戸建設（ツボ石四戸、珊内四戸）
- ・ 川白中学校特別教室二教室完成
- ・ 珊内、川白、ノット地区の電気を北電に移管
- ・ トーマル峠の名称決定
- ・ ブルドーザ購入（六、八〇〇千円）
- ・ 一月一日から静かな日が続き、二月末まで大しけもなし、六〇歳以上の古老も知らず
- ・ 村に患者輸送車配置される
- ・ 神恵内村議選挙、定数を二名減じ一四名とする（立候補者一八名）議長米田清作氏、副議長川島四五六氏
- ・ 神恵内に季節保育所開設
- ・ 昨年に引き続き古宇川にサクラマス一五万匹放流
- ・ 神恵内漁協と古宇漁協組合員共同によるまぐる巻網漁業の試験操業開始
- ・ 運輸省から青少年旅行村の指定をうける
- ・ 旅行村の管理棟、キャンプ広場の整備を行う
- ・ 国立札幌病院珊内診療所移転完成（木造モルタル、面積一〇九・三九㎡、工費三、九〇〇千円）
- ・ 神恵内簡易水道完成、神恵内、赤石地区に通水
- ・ 神恵内港域内に温泉ボーリング実施
- ・ 秋イカ漁皆無
- ・ 西ヶ丘地区に低家賃住宅八戸完成

一九七二 四七
札幌オリンピッククワータ冬季大会

・元旦より一八日まで海静か、雪なくホコリ立つ

・札幌オリンピッククワータ聖火リレーに青年参加

・青少年旅行村開村式挙行

・神恵内、赤石小学校統合校舎建築はじまる

・神恵内村農業委員会委員選挙、無投票

・石狩、後志海区漁業調整委員の選挙、無投票で松館勇次郎

氏当選する

・まぐろ巻網整漁業で六二〇本初漁あるもその後漁獲なし

・第一回沖揚げまつり開催

・神恵内村、古宇漁業協同組合合併促進について両組合が議決

・神恵内婦人会創立二〇周年記念式挙行

・赤石地区の道路全線舗装完了

・国道二二九号のうちヤエダウス橋から一号橋まで舗装される

・青少年旅行村第一期整備工事実施

・川白港に灯台新設

・戸長設置一〇〇周年記念式挙行

・神恵内村長選挙の結果、前神恵内村教育長高山庸一氏が初当選

・一般家庭用ゴミの無料収集化を実施

・赤石生活改善センター完成

・事業費 二二、〇一四千円

・鉄骨造二階建 面積 三八〇㎡

・川白青少年会館完成

・事業費 一六、〇七〇千円

一九七三

四八

-
-
-
- ・ 鉄骨ブロック造二階建 面積 三三六²m
 - ・ 川白地区簡易水道完成
 - 一日最大給水量 五四・一五逢
 - ・ 村道中学校線完成
 - 延長 一九三m 幅員 四m
 - ・ 水産資源保護法に基づく指定を受けた二級河川古宇川で、さけ・ます成魚のそ上調査開始（専従監視員二名配置）
 - ・ 神恵内、赤石小学校の統合校舎完成
 - 四七年度 事業費 八九、五三三千元
 - 鉄筋コンクリート造二階建 面積 一、六二五²m
 - 四八年度 事業費 五〇、〇二九千元
 - 屋体鉄筋コンクリート造 面積 五四九²m
 - ・ 第一回村民ソフトボール大会が開催される
 - 珊内チームが優勝
 - ・ 前神恵内村長北井七太郎氏、紺授褒章を受賞する
 - ・ 小笠原信吉氏、佐藤喜代作氏が勲六等瑞宝章、村医高橋庚子郎氏が勲五等瑞宝章を受賞する
 - ・ 集中豪雨災害（八月一七日発生）
 - 床下浸水五戸、二の目川・大森川堤防決壊、村道中学校線、珊内沢町線下水溝溢水、磯船一隻流失、道々神恵内
 - ・ 入舸線二ヶ所崖崩れ
 - ・ 一般道々大森、キナウシ間海岸新道工事に着手
 - ・ 国道二二九号神恵内市街地に歩道が設置される
-
-
-

- ・青少年旅行村にロッジ建設
- ・堂垣内尚弘北海道知事来村
- ・マグロ巻網漁業の試験操業でブリ大漁
 - 二、五〇〇本約一五トンが水揚げされる
- ・珊内中学校卓球部が全道大会に出場
 - 村内中学校初の快挙
- ・神恵内村教育目標制定
 - 全村教育の歩みがスタート
- ・神恵内村長選挙の結果、高山庸一氏が当選（選挙無効による再選挙）
- ・神恵内村漁業協同組合と古宇漁業協同組合が合併し、神恵内村漁業協同組合が設立
- ・岩内・寿都地方消防組合が設立し、神恵内分遣所を設置
 - （職員三名配置）
- ・さけ・ますふ化増殖事業が本格化、古宇川に算定柵設置
- ・一般国道二二九号神恵内トンネルが完成
- ・神恵内漁港内に冷凍冷蔵施設完成
 - 事業費 一二〇、二二〇千円
 - （村補助金 六〇、〇〇〇千円）
- ・通年制のへき地保育所開設（定員七〇名）
- ・村道の舗装や下水側溝の整備が計画的に促進される
- ・第一回長寿体育大会が開催される
- ・赤石地区に老人クラブが結成される

- ・ 初代会長 渡部 藤松氏
 - ・ 川白地区簡易水道の給水が開始される
 - ・ 川白中学校特別教室及びびへき地集会所新築
事業費 七五、三四二千円
 - ・ 後志管内小中学校併置校研究大会が珊内小中学校で開催される
 - ・ 消防後援会が解散（昭和三十一年発足）
 - ・ 村議会議員選挙（定数一四人）立候補者一九人
議長 松館勇次郎氏 副議長 小林 元行氏
 - ・ 前神恵内村長北井七太郎氏が勲五等瑞宝章、菅原松藏氏が
勲六等瑞宝章を受賞する
 - ・ 神恵内・赤石地区の電話自動化
 - ・ 神恵内村体育協会が設立される
初代会長 米田 清作氏
 - ・ 神恵内老人クラブ創立一〇周年記念式典が開催される
 - ・ 神恵内村老人クラブ連合会が結成される
初代会長 木下喜代司氏
 - ・ 川白小学校七〇周年、川白中学校二〇周年記念式典が行われる
 - ・ 後志地区戦没者遺族大会が開催される
 - ・ 神恵内村総合グラウンド完成
事業費 一四、九一六千円
面積 九、七五八²m
 - ・ 川白地区に有線放送施設完成
 - ・ 村立水産ふ化場完成
-

- 事業費 一三、八六一千円
- 鉄骨造 面積 三九六²m
- 二〇〇万粒のふ化事業が可能となる
- 古宇川にサケ稚魚二〇万尾放流
- 保護河川監視員二名配置
- ・神恵内墓地が整備され区画墓地として許可使用される
- ・珊内小中学校へき地集会室新築
- ・消防庁舎完成（役場庁舎に接続）
- 事業費 三九、三六四千円
- 鉄骨・モルタル造二階建 面積 二六五²m
- ・国勢調査の結果、人口二、二三二人・六五三世帯となる
- 男一、一〇〇人 女一、一二二人
- ・集中豪雨ノット道路一〇・三二kmまで不通となる
- ・教育の歩み一〇〇年
- （明治九年に神恵内教育所設置）
- ・神恵内村歯科診療所完成
- 事業費 二五、五三〇千円
- 鉄筋コンクリート造 面積 一五一²m
- 台湾から武山晴輝歯科医を招いて診療を始める
- ・川白道路開通式
- 遂に川白まで主要道々古平～神恵内線が開通
- ・赤石・珊内地区に有線放送施設完成
- ・川白地区に消防格納庫建設

- ・北海道青少年旅行村運営委員会が設立
- 初代会長に高山庸一神恵内村長が就任
- ・神恵内村いちご耕作組合が設立
- 組合長 佐々木吉藏氏
- 耕作面積 ○・五ヘクタール 組合員 七名
- ・局地集中豪雨
- 特に珊内川堤防が決壊し幼児一名死亡、民家三〇戸に被害あり
- ・青少年旅行村に「冒険の森」二〇ポイント完成
- ★天皇在位五〇周年記念
- ・「原子力発電所の建設」に、村議会が条件付賛成議決
- ・神恵内地区に有線放送施設完成
- ・本間興業(株)・本間社長の好意により、東西浪曲名人大会が神恵内小学校で開催される
- 出演廣澤虎造、天中軒雲月また、歌謡曲界の第一人者三波春夫特別公演も開催された
- ・中央バスが、赤石く神恵内く古平く美国間の定期バスを運行 七月く八月の二ヶ月間
- ・HTB、UHBテレビジョン視聴可能となる
- ・全道勤労青少年ジャンボリー大会が神恵内青少年旅行村で開催
- 全道から六〇〇人を超える勤労青少年が集う
- ・珊内地区に消防格納庫建設

- ・ 珊内地区に簡易水道完成
 - 一日最大給水量 五〇逢
- ・ 神恵内村スポーツ少年団が結成される
 - 全村小学校三年以上 一五七名
 - (野球・剣道・卓球・排球)
- ・ 古宇川巻淵橋が鉄橋となる
- ・ 神恵内村長選挙 高山庸一氏が八八〇票で当選
- ・ 野中英二通産政務次官が、原子力発電所建設促進のため来村
- ・ 初春、降雪・吹雪となる(例年になく雪多し)
- ・ 北海道勤労青少年ジャンボリー大会を記念する「青年の像」を、青少年旅行村内に序幕
- ・ 珊内・川白・ノット地区の電話自動化
- ・ 北海道電力株式会社が、原子力発電所建設位置を共和町柏木地区から、泊村ヘルカルウス地区に変更したい旨発表する
- ・ 除雪ロータリー車を購入、除雪作業に威力を発揮
- ・ 神恵内中学校校舎完成(視聴覚施設併設)
 - 事業費 昭和五二年度 一五五、五一一千円
 - 鉄筋コンクリート造三階建 面積 九六三_二m²
 - 事業費 昭和五三年度 七四、四四八千円
 - 鉄筋コンクリート造三階建 面積 五五四_二m²
- ・ 温泉ボーリング実施
 - 観光センター「温泉 竜神社」完成
- 事業費 七九、五三三千元

鉄筋コンクリート造二階建 面積 三八九㎡

・あわび幼稚子保育場造成（赤石地区）

・古宇川に鮭そ上、二四〇尾捕獲採卵

古老も知らず！

・神恵内地区に消防格納庫建設

・岩内地方衛生処理組合の塵芥処理施設（共和町）が完成し、共同処理となり、圧縮式の塵芥収集車を購入配置

・「原子力発電所建設の計画変更について」村議会が承認（建設地点を泊村ヘルカルウス地区とする）

・神恵内村漁業協同組合理事会が、「原子力発電所の建設」に条件付き賛成決議

・村議会議員選挙（定数一四人）立候補者一七人
最下位当選者決定は、抽選による（同数二人）

議長 米田 清作氏 副議長 滝本長次郎氏

・本格的な温泉として、観光センター「温泉 竜神荘」がオープン

・青少年旅行村に夏スキー場建設

北海道では札幌市藻岩山に次ぐ施設となる

・神恵内青年会主催で第一回村民運動会が開かれる

・神恵内村商工会設立

初代会長 斎藤 敬作氏

・神恵内村漁業協同組合が直営の鮪定置網を経営

・神恵内沿岸に鮭の漁獲（刺し網、底建て網）多し、古宇川

にも大量回帰

・村立へき地診療所完成

事業費 一六九、六〇〇千円

鉄筋コンクリート造二階建 面積 八五六²m

・故岩澤朔氏に勲六等単光旭日章の特別（死亡）叙勲、柿崎

愛子氏が勲六等宝冠章（母子保健功労）を受賞する

・小樽開発建設部神恵内道路事務所竣工（ツボ石地区）

・アメリカ・スリーマイルアイランドの原子力発電所事故に
より、放射能漏れ

★第五回主要国首脳会議（東京サミット）開催

・神恵内地区、畠山耕作宅より出火、同家全焼（死者一名）

・村立へき地診療所開所式

初代診療所長 田中 速夫医師

六月二〇日より診療開始

・第二回村議会定例会において、高橋庚子郎氏を神恵内村名
誉村民・第一号に決定

・山本富雄通商産業政務次官が、原発推進要請のため来村

・村立保育所新築

事業費 六三、五一一千円

鉄筋コンクリート造平屋建 面積 三二二²m

・神恵内中学校体育館（総合体育館）新築

事業費 一九四、八〇〇千円

鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造）

- 面積 一、一〇六²m²
- ・ しいたけ等生産栽培施設新築
- 事業費 七〇、三二一千元
- 鉄骨造平屋建 面積 八五五²m²
- ・ 神恵内村漁業協同組合に製氷貯氷庫完成
- 事業費 七五、五五五千元
- 鉄筋コンクリート造三階建 面積 二八三²m²
- ・ 古宇川へ鮭二、〇五〇匹回帰 ふ化場の成果漸くあり
- ・ 秋イカ好漁
- ・ 神恵内龍神練場沖揚音頭保存会が結成される
- 初代会長 山内 一氏
- ・ 全国へき地教育研究大会・北海道後志大会が開催される
- ・ 国勢調査の結果、人口二、〇一四人・六六〇世帯となる
- 男一、〇二七人 女九八七人
- ・ 「神恵内村総合振興計画」・「神恵内村過疎地域振興計画」を策定
- ＊ 衆・参議院議員同日選挙
- ＊ 北海道開発庁設置三〇周年記念
- ・ 一月一七日より連日降雪、同月二二日は一メートル以上の豪雪、記録的な降雪となる
- ・ 神恵内青少年旅行村開村一〇周年を迎える
- 記念事業として、桜並木の造成等を行う
- ・ 川島四五六氏が勲五等双光旭日章を受賞する

- ・ 神恵内郵便局が国道二二九号拡幅工事に伴い移転
七月一三日新局舎で業務開始
- ・ 厳島神社社務所も国道二二九号拡幅工事に伴い神社境内に
移転、新築
- ・ 総合集会施設・神恵内村漁村センター新築
事業費 二六六、〇八八千円
- ・ 鉄筋コンクリート造二階建 面積 一、二七〇²m²
- ・ 珊瑚内小中学校校舎完成（危険改築・新增築）
事業費 一六七、六八六千円
- ・ 鉄筋コンクリート造二階建 面積 一、〇〇八²m²
- ・ 本村に初の交通信号機が設置される
- ・ 珊瑚内地区、田中正志宅より出火、プレハブ住宅全焼
- ・ 赤石小学校記念碑除幕式挙行
- ・ 題字揮毫元 北海道教育長 岡村 正吉氏
- ・ 台風並の低気圧による波浪高く、建網、延縄等多大の被害
一〇月一〇日、一〇月二三日台風以来時化続き、秋イカ
不漁、アワビ漁も川白地区は皆無
- * 政府、二月七日を「北方領土の日」と定める
- 四村づくりの歩み一〇〇年
- ・ 明治五年戸籍法が制定され戸長が設置
- 四消防の歩み一〇〇年
- ・ 明治一五年私設消防組が組織
- ・ 「共和・泊原子力発電所二号機の建設」を、村議会が承認

- ・北海道電力株式会社四ツ柳社長が来村
- ・共和・泊原子力発電所に係る神恵内村漁業協同組合と北海道電力株式会社との漁業振興資金六億八千万円の本調印
- ・神恵内村漁業振興基金条例を制定
- ・泊原子力発電所建設の計画が、電源開発調整審議会で承認
- ・神恵内村長選挙高山庸一氏が無投票当選
- ・総合集会施設・神恵内村漁村センター落成式挙行
- ・本問興業(株)・本問社長の好意により、「落語柳家ふりん」が落語真打上演
- ・国立札幌病院附属珊瑚診療所看護婦川村敏子氏が黄授褒章を受賞する
- ・主要道々古平〜神恵内線が国道二二九号に昇格
- ・学校給食共同調理場が移転新築
- ・事業費 八二、〇二四千円
 - ・鉄筋コンクリート造一部二階建 面積 二四七㎡
- ・最高齢者村功労者の滝本長作氏 満一〇〇歳で没
- ・神恵内村母子会が結成される
- ・初代会長 綿谷 フコ氏
- ・第二回村議会定例会において、本問誠一氏を神恵内村名誉村民・第二号北井七太郎氏を神恵内村名誉村民・第三号に決定
- ・開村一〇〇年、消防団一〇〇年記念式典並びに名誉村民顕彰式典挙行

村の歌「光のオーケストラ」、村の音頭、村の魚「サケ」、

村の木「トド松」を制定
歴史写真展、記念要覧の発刊、「古老が語る神恵内」の
刊行

スポーツ、レクリエーション大会を実施

・村議会議員選挙（定数一四人）立候補者一八人
最下位当選者決定は、抽選による（同数二人）

議長 小林 元行氏 副議長 金田一清作氏

（正副議長選挙も、いずれも同数となり抽選で決定）

・神恵内婦人会創立三〇周年記念式典が行われる・日本海中
部地震発生（五月二六日午後〇時四〇分）

神恵内海岸に津波観測高低差二メートル

漁船、漁具等に被害なし

・神恵内村農業協同組合が解散（昭和三二年設立）

・川白小学校八〇周年記念式典が行われる

・道々九九八号線「大雪崩橋」竣工

延長 五二二m 幅員 七・五m

工費 一、二二八、〇〇〇千円

・村道赤石山の上線・新二の目橋新設工事に着手

・泊発電所建設準備工事中

第二次公開ヒアリングが開かれる

・アワビ中間育成センター完成

昭和五七年度 事業費 六八、九〇八千円

昭和五八年度 事業費 五二、二二八千円

鉄骨造平屋建 面積 四二二²m
一〇万個中間育成開始

* 北海道知事に横路孝弘氏当選

* 衆議院解散による総選挙

・ 例年にない降雪、寒気

四月も異常低温で融雪おくれ、青少年旅行村の開村も五月に延期

・ 交通事故死ゼロ二、〇〇〇日達成(二月三日)

三月一日交通安全総決起大会開催 三〇〇名参加

八月一二日死亡事故発生 交通事故死ゼロの記録は

二、一九〇日でストップ

・ 神恵内地区、巻淵団地で火災発生「死者二名」

・ 泊原子力発電所にかかる地域振興資金調印

五億円(漁業振興資金九千万円を含む)

・ 泊原子力発電所着工

電源三法交付金事業が開始

交付金総額 一、二二五、七五八千円

第一号に塵芥収集車を購入

周辺地域交付金も交付される

* ほりかつぷトンネル(国道二二九号)開通

延長 一、四四三m 総工費 四三億円

・ 神恵内産業株式会社設立

社長 一条 春男氏 株主三〇名

-
-
-
-
- ・札幌大学・石附教授一行が観音洞窟発掘
擦文時代の遺跡出土
 - ・珊瑚内中学校屋内体育館増改築
事業費 四二、一四三千元
 - 鉄骨造平屋建 面積 二〇四㎡
 - ・村道赤石山の上線・新二の目橋完成
事業費 一一八、〇〇〇千円
 - 延長 四六m 幅員 八・五m
 - ・あわび育成漁場造成（赤石地区）
事業費 五一、一九〇千円
 - 育成礁 五セツト
 - ・神恵内村名誉村民前神恵内村長北井七太郎氏逝去（九月二
八日）村葬執行
 - ・神恵内村社会福祉協議会設立三〇周年記念式典が行なわれる
各種記念事業を開催
 - ・北海道共同募金会神恵内分会が設立
分会長 木下喜代司氏
 - ・神恵内村過疎地域振興計画「後期計画」策定
 - ・国道二二九号大森くキナウシ間道路貫通式が行なわれる
 - ・道民芸術地方祭郷土芸能大会が漁村センターで開催される
後志館内の町村が参加
 - ・春のヤリイカ、夏のマイイカ、秋イカともに皆無に近い不漁
（約一億円の減）かつてなし
-
-

★小樽博覧会が開催

- ・赤石老人クラブ設立一〇周年記念式典が行なわれる
- ・赤石婦人会設立三〇周年記念式典が行なわれる
- ・神恵内老人クラブ設立二〇周年記念式典が行なわれる
- ・神恵内村海産物加工協同組合が設立
組合長 佐藤久次郎氏
- ・低気圧災害（八月二日発生）
動力船七隻等に被害
- ・西ヶ丘児童公園完成
- ・事業費 一六、四五七千円 面積 二、〇一九㎡
- ・神恵内水産共同作業所建設
事業費 五一、六二八千円
鉄骨造二階建 面積 四三六㎡
- ・川白水産物荷捌所建設
事業費 二九、七九三千円
鉄骨造二階建 面積 三三四㎡
- ・珊内集会所建設
事業費 三四、一八〇千円
鉄筋コンクリート造平屋建 面積 一六五㎡
- ・国勢調査の結果、人口一、七九七人・六八八世帯となる
男九〇一人 女八九六人
- ・旧神恵内小学校跡に蛭雪碑を建立
- ・一般道々九九八号線古平～神恵内間完成

- 延長 三一、七〇〇m
- 一般国道二二九号大森～キナウシ間新道開通
- 延長 四、一五七m
- 中央バス赤石～川白間延長運行（一日二往復）
- 離島命令航路としての「かむい丸」閉航
- 神恵内村名誉村民前村医高橋庚子郎氏逝去
（一二月四日）村葬執行
- 国鉄岩内線が廃止となる（バス転換～ニセコバス）
- 神恵内モニタリングステーションが完成
鉄筋コンクリート造平屋建 面積 一六₂m
- 二級町村制施行 満八〇年
明治三九年四月一日 二級町村制が施行
- 神恵内村長選挙 高山庸一氏が七四六票で当選
- 池田時四郎氏、勲六等単光旭日章を受章する
- 泊原子力発電所にかかる安全協定締結
- 神恵内村商工会に「村おこし委員会」が組織される
委員長 菅原勘太郎氏
- 第一回西の河原極楽祭りが開催される
好天、風良く、二〇〇名余が参加
海の幸、秘境を満喫！
- 神恵内青少年旅行村一五周年記念式典が開催される
記念するファミリィキャンプ大会が行なわれ、全道各地
から四〇〇名余の親子が集う

- ・全道併置校教育研究大会が珊内小中学校で開催される
- ・珊内郵便局が無集配化となる
- ・半島振興法の指定を受け、積丹半島地域振興対策協議会が設立

会長に、高山庸一神恵内村長が就任
珊内水産物荷捌所建設

事業費 三二、八〇〇千円

鉄骨造二階建 面積 三三七_二m²

- ・神恵内村郷土資料館建設

事業費 一四五、九四〇千円

鉄筋コンクリート造平屋建 面積 三四八_二m²

- ・国道二二九号川白沼前間の開通に向かって、神恵内側、積丹側から同時着工となる

積丹トンネルの起工式が行われる

*衆・参議院議員同日選挙

- ・前神恵内村助役故村木源八氏に勲五等瑞宝章、前神恵内消防団分団長故畠山耕二氏に勲六等瑞宝章の特別（死亡）叙勲
- ・国道二二九号窓岩トンネルの着工式が行われる
- ・国立札幌病院附属珊内診療所が廃止となる
- へき地医療三〇年の使命を果たす

（歩み）

昭和三一年道がへき地診療所として珊内に建設

昭和三年国立札幌病院附属珊内診療所として運営開始

本年、国の方針等により閉鎖

・村議会議員選挙（定数が二人となる）立候補者四人

議長 斎藤 敬作氏 副議長 佐藤久次郎氏

・歴史の殿堂、神恵内村郷土資料館がオープン

・特産品の開発が本格化

「ウマズラハギ」を「ときふぐ」と命名

神恵内村海産物加工協同組合で商標登録札幌市場に出荷

・後志社会福祉大会が漁村センターで開催される

・マイマイガが大量発生（六月～八月）

街灯に吹雪の如し

・冷蔵センター完成

事業費 一四三、六四九千円

鉄骨造平屋建 面積 四八八²m

・サケ海中飼育場造成

事業費 一九、二九五千円

飼育場面積 二、六〇〇²m

・赤石水産物荷捌所建設

事業費 三一、〇二三千円

鉄筋コンクリート造二階建 面積 二九三²m

・珊内小中学校屋外運動場完成

事業費 三一、八〇三千円

面積 四、三五四²m

・台湾からの留学生が初来村

- ・ 村内小中学生や青年が、国際親善を深める
- ・ 台風一二号により大被害 九月一日
- ・ 住宅、漁船、漁具、道路等の被害が相次ぎ、被害総額四億一千万円余、川白漁港の灯台も倒壊する
- ・ 全村教育研究大会が開催される
 - 一五年の歩みを披露
- ・ 北海道教育委員会から生涯教育モデル村に指定される
- ・ 村医武山齒科医が台湾に帰国
 - 初代神恵内村齒科診療所長として、一一年間尽力
- ・ 神恵内村漁業協同組合が、ヒラメの養殖やウニの幼生飼育等に着手
- ・ 北海道知事に横路孝弘氏当選
- ・ 第一回「北海道むらこん二四」が、東藻琴村で開催
- ・ 市制、町村制施行一〇〇周年
- ・ 地方自治法施行四〇周年
- ・ 行政機構の一部見直しを行い、産業課に「開発係」を新設、また、「商工係」を「商工観光係」に改称する
- ・ 神恵内村名誉村民本間誠一氏逝去（四月二五日）村葬執行
- ・ 前神恵内消防団副団長故三沢正氏に勲六等単光旭日章の特別（死亡）叙勲、前国立札幌病院附属珊内診療所看護婦川村敏子氏が勲六等瑞宝章を受賞する
- ・ 村道茶屋町線改良工事が五ヶ年計画の初年度として着工
- ・ 神恵内村商工観光センター建設

事業費 一八一、四九七千円

鉄筋コンクリート造二階建 面積 四八三㎡

・海岸保全事業により、神恵内地区前浜に離岸堤が設置される
・西の河原に「観光棧橋」が整備される

・神恵内中学校生徒会が、建設大臣表彰を受賞

昭和五五年からの通学路（青雲坂）清掃と交通安全に貢献していることが認められる

・「ウニの早期身入り試験」の実績発表で、神恵内村漁業協同組合青年部が全国大会に推薦される

・原子力発電所防災訓練・岩宇四町村共同実施

冬季訓練は、村単独として実施する

・道々九九八号線古平～神恵内間の冬季除雪を開始

* 青函トンネル開業式

* 青函博覧会函館EXPO函館市

* 十勝海洋博覧会広尾町

* 世界食の祭典札幌市

・元旦より一二日まで海上風波なく、降雪もなし、春のような暖気

* 一月七日天皇陛下崩御

* 一月八日平成元年となる

* 二月二四日天皇陛下大葬

・役場庁舎増改築工事

旧寄宿舎を飯庁舎とする

増築鉄筋コンクリート造 面積一五四㎡

(一階七四㎡二階八〇㎡)

事業費 六三、四三四千円

六月二九日増改築完了

・神恵内村納税貯蓄組合連合会設立三〇周年記念式典が開催される

・神恵内村統計調査員平野由雄氏が藍綬褒章を受賞、前神恵内消防団長故佐藤市太郎氏に勲六等単光旭日章の特別(死亡)叙勲

・泊原子力発電所一号機営業運転開始(六月二二日)

・積丹半島振興計画が国土審議会で承認される

・後志地区母子寡婦大会が漁村センターで開催される

・「商観城」神恵内村商工観光センターがオープン

・ふるさと創生事業が本格化する

まちづくり町内会に自治振興資金の交付

健康づくり人間ドックの実施、公共施設の「健康コーナー」に全自動血圧計を完備

地域産業の振興

人づくり基金の創設、後継者養成海外研修、婦人研修、

資源保護による漁業振興、温泉探査等

記念碑の建立

「松浦竹四郎記念碑松浦竹四郎の歌」・「漁業記念碑漁魂創海」・「開拓記念碑拓魂」

- ・「村の魚」サケ」をテーマ！第一回カモン・サーモン・カモエナイが開催される
- 全道各地から六〇〇人余の家族連れが集う
- 北海道防災会議厚子力防災対策部会専門委員会一行が視察来村
- ・神恵内村商工会設立一〇周年記念式典が行われる
- ・防災行政無線施設完成
- 全村一斉放送が可能となる
- 事業費 一〇七、〇三十一千円
- ・村道中学校線道路融雪施設完成（二年計画の初年度）
- 村内初のロードヒーティング化
- 事業費 六三、八〇九千円
- 延長 一八五m 幅員 六m
- ・神恵内青少年旅行村施設の拡張整備
- さわやかトイレ設置、バンガロー増設
- 事業費 八六、九七七千円
- * はまなす団体
- * 参議院議員通常選挙
- ・一月中豪雪となり、二月に豪雪対策本部を設置する
- ・後継者（漁業・商工・地域青年）海外派遣を実施
- アメリカ西海岸 十一日間
- ・神恵内村長選挙 高山庸一氏が無投票当選
- ・第一回村議会定例会において、「神恵内村長期総合振興計画」を決定

-
-
-
-
- ・四月一日より、役場の四週六休が実施される
 - ・四月一〇日交通事故死ゼロ、〇〇〇日達成
 - ・泊原子力発電所二号機試運転（六月一三日）
 - ・ノット地区の高台に、五メートルを越す「大観音像」が建立される
 - ・建立者 千葉 正昭氏（千葉 正巳氏の二男）
 - ・神恵内村農業委員会が閉鎖
 - （歩み）
 - 昭和二十一年 神恵内村農地委員会が設置される
 - 昭和二十六年 農業委員会法により、農地委員会は、農業委員会となる
 - ・台風一四号積丹半島上陸するも、被害特になし
 - ・第三回村議会定例会において、「神恵内村過疎地域活性化計画」を決定
 - ・国道二二九号窓岩トンネル貫通式及び大天狗トンネル着工式が行われる
 - ・(株)北興生コン新工場操業開始
 - ・神恵内村体育協会一五周年記念式典が行われる
 - ・神恵内活魚蓄養センター完成
 - 事業費 七二、六五四千円
 - 鉄骨造平屋建 面積 二二七㎡
 - ・神恵内青少年スポーツセンター完成
 - 事業費 二三〇、三九二千円
-
-

- 鉄金コンクリート造平屋建 面積 八九一²m
- ・地熱開発・温泉ボーリングの実施
- 事業費 六四、六八一千円
- 掘削 一、〇〇〇m
- ・神恵内村総合グラウンド整備・完成
- 事業費 六〇、七〇八千円
- グラウンド表層工 面積 九、六〇〇²m
- ・自治省の指定を受け、地域づくり推進三ヶ年事業として「青雲坂プロムナード」の整備に着手
- 総事業費 五億円
- ・青少年旅行村内に、五ヶ年計画での「芸術の森」建設に着手
- 総事業費 二五、〇〇〇千円
- ・国勢調査の結果、人口一、五九六人・六二八世帯となる
- 男七七四人 女八八二人
- ・シンボル・イルミネーション「弁財船」点灯
- ・神恵内地区、青山春吉宅より出火、同家全焼
- * 衆議院議員総選挙
- * 即位正殿の儀
- ・二月一八日 温泉998が自噴
- 湯量 毎分二三〇リットル 温度 五九度
- 八月二日から仮設浴場を無料開放
- リフレッシュ・プラザの建設に着手
- ・泊原子力発電所二号機営業運転開始

-
-
-
-
- ・村議会議員選挙（定数一二人） 立候補者 一三人
議長 斎藤敬作氏 副議長 岡村作次郎氏
 - ・神恵内郵便局が郵政大臣表彰を受賞
 - ・故木下喜代司氏に従六位勲五等瑞宝章の特別（死亡）叙勲
 - ・横路孝弘北海道知事がふるさと訪問で来村
 - ・漁業青年との懇談、青少年旅行村・温泉998視察
 - ・国道二二九号西の河原トンネル着工式が行われる
 - ・八月二三日交通事故死ゼロ、五〇〇日達成
 - ・全道で一〇位、後志管内では泊村に続く二位
 - ・国技館で行われた「わんぱく相撲全国大会」で、神小六年
綿谷直樹君と同校五年 川島 純君が大活躍
 - ・神恵内養殖作業所完成
事業費 八四、四五八千円
 - ・鉄骨造平屋建 面積 五八三㎡
 - ・村道茶屋町線茶屋町橋竣工
 - ・歩道と風除高欄（防風柵）を完備
事業費 一〇〇、〇一三千元 延長 六八m
 - ・村道長屋沢町線道路融雪施設完成
事業費 五一、五〇〇千元 延長 二〇八m
 - ・当丸沼いこいの森建設
事業費（平成二年～三年） 九七、三三五千元
 - ・展望台、遊歩道、駐車場等を完備
 - ・全道へき地複式教育研究大会が、神恵内小学校と珊内小中
-
-
-

- ・ 学校を会場として開催される
- ・ 北海道美術協会展において、神恵内中学校教諭 福原幸喜氏が、「朝倉賞」を受賞する
- ・ 北海道知事に横路孝弘氏当選
- ・ 道々九九八号線（古平～神恵内間）の冬季通行可能となる
- ・ リフレツシュプラザ取水ボーリング工事完成（一月）
 - ・ 事業費 二、八〇一・六千円 深度二二m
- ・ 海水浴場脱衣所新築工事完成（一月）
 - ・ 事業費 三九、五三一・四千円
 - ・ 鉄筋コンクリート造平屋建面積七二・九㎡
 - ・ トイレ、更衣室、シャワー室、流し場
- ・ 後継者海外派遣事業アメリカ東海岸へ八名派遣（ニューヨーク他）（二月）
- ・ 補助小規模治山事業（鷹島地先）完成（三月）
 - ・ 事業費 三、三二六・九千円
 - ・ 土留工、水路工、落石防止柵
- ・ リフレツシュプラザ引湯排水路設置工事完成（三月）
 - ・ 事業費 二四、七二〇千円
- ・ リフレツシュプラザTV共聴工事完成（三月）
 - ・ 事業費 二、一六三千円
- ・ 神恵内漁港海岸公有地造成事業着工（四月）
- ・ 村立診療所長に趙 重文先生就任（四月一日付）野田勝美先生退職（三月三〇日付）

-
-
-
- ・神恵内中学校卓球部が会長杯争奪後志大会で男女とも優勝する
 - ・故長濱賢藏氏、故黒崎英夫氏に勲六等単光旭日章の特別（死亡）叙勲（四月七日伝達） 米田清作氏が勲五等双光旭日章を受賞する（五月八日伝達）
 - ・神恵内婦人防火クラブ結成される（四月）
 - ・リフレッシュユプラザ「温泉九九八」オープン（四月一七日）
 - ・旧寄宿舎改修工事完成（五月）
 - 事業費 五、九七四千円
 - 内部改修、外壁補修
 - ・シルバーいきいきハウス（温泉熱を利用した農園）完成し、ハウス愛好会による作付けが開始される（三月完成）
 - 事業費 一八、三七五・二千円
 - 鉄骨MMAハウス面積一五一・二㎡
 - ・村のイメージキャラクターを決定する（愛称を「ドラゴン太」とする）
 - ・役場庁舎外壁補修工事完成（六月）
 - 事業費 八、一八八・五千円
 - ・安全靴の大手メーカーのミドリ安全工業㈱「神恵内製甲所」が創業を開始する（六月）
 - ・平成三年交通事故死ゼロパーフェクト達成し北海道知事から感謝状贈呈（六月九日伝達）
 - ・珊内出身の池田勝氏が故郷に「ホクサン珊内工場」を新設
-
-
-

-
-
-
-
- ・当丸沼いこいの森オープン（六月）
 - ・北海道優良勤労青少年顕彰三名受賞
 - ・第一六回参議院議員通常選挙執行（七月二六日）
投票率七五・三〇%
 - ・珊瑚内地区温泉探査業務開始（八月～十一月）
 - ・原子力防災訓練（専門訓練）実施（九月一八日）
 - * 岩内管林署と倶知安管林署が統合し、後志南部森林管理センターとなる
 - ・補助小規模治山事業（能登地先）完成（九月）
事業費 九、四七六千円
 - ・法梓工、伏工、吹付工他
 - ・北海道町村会第六次カナダ生活環境視察に高山庸一村長参加する（八月二九日～九月二日）
 - ・青雲坂プロムナード整備工事完成（一〇月）
事業費 一八四、四七三千円
 - ・歩道新設 延長三一五m、照明灯一六基
絵画用ブラス五基他
 - ・古宇川水系無名川を、「泉川」に確定する（一〇月）
 - ・北海道ふるさと自慢ビデオ大賞後志地区大会でニューフロンティア賞受賞（一〇月）
 - ・温泉九九八さわやかトイレ【湯の華の館】完成（一〇月）
事業費 三三二、四一四・一千円
 - ・鉄筋コンクリート造 面積三四・一三m
-
-

-
-
-
- ・老人福祉バス購入（日野デラックス観光型三七人乗り）
 - ・川白小学校線融雪施設設置工事完成（一〇月）

事業費 一九、三六四千円

四戸長設置二〇年・消防組織二〇年記念式典挙行

（一二月三日）

【記念行事】

後志管内町村対抗ゲートボール大会を開催

岩宇植樹祭、トーマル沼いこの森オープン

後志管内戦没者遺族大会を開催

村民ソフトボール大会を開催

村民グランドゴルフ大会を開催

後志管内育樹祭を挙行

記念誌「創郷かもえない」を刊行

記念バッチ、キーホルダーを作成

テレホンカードの作成

村の歌「積丹半島」制作

- ・地場産業従事者表彰（一一月）一人表彰

- ・公用車購入（トヨタランドクルーザーブロード）

- ・第三七回後志地区戦没者遺族大会が漁村センターで開催される

- ・珊内小学校全児童がふるさとスケッチコンクールで六人全

員入賞する

- ・特産品開発センター新築工事完成（一一月）

事業費 五八、五三四・九千円

	<ul style="list-style-type: none"> ・木造二階建 延面積二七一、〇八^二m ・巻洲橋補修工事完成(一一月) 事業費 九、五七九千円 高欄取替 延長八〇・八m他 ・社会福祉法人神恵内村社会福祉協議会設立(北海道知事許可一一月二七日) ・元神恵内消防団副団長青塚武蔵氏勲六等単光旭日受賞する(一一月二四日伝達) ・九九八パークゴルフ場整備工事完成(一一月) 事業費 二六、七二八・五千円 一八ホール 面積八、一三二^二m ・恵泉橋完成(一一月) ・西の河原トンネル工上下掘削工事着工 ・神恵内婦人会が設立四〇周年を迎える ・神恵内中学校が体力づくり優良校として表彰される ・珊内さわやかトイレ【岬の穴間】完成(一一月) 事業費 一六、四八〇千円 鉄筋コンクリート造 面積一八^二m ・村道茶屋町線道路改良工事完成(一一月) 事業費 五七、〇六二千円 車道改良 延長二一一・二m、幅員五・五m 歩道新設二二二m

年表はこれからも補充していきますので、欠けている事項についてご教示下さい。

平成五年（一九九三）

* 交通事故死ゼロ二、〇〇〇日達成で北海道知事より感謝状受賞する

【一月一日伝達】

* 補助小規模治山事業（松本地先）完成（一月）

事業費 九、四七六千円 法枠工三二五、m

* 原子力防災訓練（冬季訓練）の実施【二月九日】

* リフレッシュユブラザ温泉九九八が一〇ヶ月で通算一〇万人を迎える（二月二六日）

* 大天狗トンネル貫通する 貫通式五月二〇日 延長五七六m

* 神恵内村商工会「むらおこし実行委員会」から村のキャラクター「ドラゴン

太」のぬいぐるみ寄贈される

* 青少年旅行村ロッジの改修工事完成（三月）

事業費 一五、四一九・一千元 内部改修

* いきいきハウス防風フェンス完成する

事業費 三、二八五・七千元 防風フェンス 高さ五m、幅一〇m

* 役場、保育所等完全週休二日制四月一日から実施される

四泊発電所一・二号機の原子炉設置変更許可がおりる

* 村有林造成 トドマツ植栽（トーマル地区）一ヘクタール

* 後継者（漁業青年、商工会青年等八名）ニュージールランドに研修派遣する（五月）

* 公用車購入（ニッサンプレリー）購入価格二、三二二・九千円（六月一日納入）

* 武井康彦氏が春の藍綬褒章を受賞する（統計調査）【六月一四日伝達】



★神恵内村九九八パークゴルフ場監視カメラ設置完了（六月）

事業費 三、五七四・一千円 モニターカメラ四台設置

★平成四年交通事故死ゼロパーフェクト達成で北海道知事より感謝状受賞する

【六月一日伝達】

★神恵内村戸長設置二〇〇年記念「第一五回沖揚げまつり」が「天童よしみ」さん「石本美由起」先生「岡 千秋」先生他を迎えて開催される

★青少年旅行村にモニコメント「双光」建立する（七月）

★北海道南西沖で地震発生【七月二日午後一〇時一八分頃】未曾有の大被害発生する

地震、津波により死者一人、住宅、漁船、漁具、公共施設など大被害を受ける

避難住民三五六八人 被害総額 一一三、二八〇千円

★衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査執行（七月二八日）

【投票率七九・七五％】

★神恵内村九九八パークゴルフ場防護柵完成（七月）

事業費 二、〇三九・四千円 防護柵一二五m他

★珊瑚小・中学校の能戸姉妹全道陸上競技大会で大活躍

小学校四年生 能戸亜季子さん「ボール投げ」三位に入賞

中学校三年生 能戸佑美子さん「砲丸投げ」で四位に入賞

★アメリカ、台湾から留学生二名がホームステイを体験交流する

★神恵内小学校バレーボールスポーツ少年団（神小ファイターズ）全国大会出場



*北海道優良勤労青少年顕彰 北海道知事から五名表彰される(七月二〇日)

決勝トーナメント三回戦で敗れるもフェアプレー賞を贈られる(八月)

*補助小規模治山事業(松本地先) 完成(八月)

事業費 九、四七六千円 法枠工二八二・一²m他

*後志地区身体障害者ゲートボール親善大会で神恵内かもめチーム見事優勝

*神恵内小学校野球スポーツ少年団が全道大会(スタルヒン杯)に出場

*神恵内村九九八パークゴルフ場オープン【八月一日】

*神恵内村養殖作業所外構工事完成(九月)

事業費 五、一五〇千円

排水工事 延長八四m 舗装工事 面積六〇九²m他

*赤石さわやかトイレ(夕日の落し処)完成(九月)

事業費 一八、八四九千円

鉄筋コンクリート造平屋建 延面積二二・一八²m他

*神恵内村出荷資材保管施設完成(九月)

事業費 二五、七五〇千円 鉄骨造平屋建 延面積二六〇²m他

*青雲坂プロムナードに絵画ブースに照明五基設置

事業費 二、五二三・五千円 ブース用照明五基

*古宇川さけ親魚捕獲終了 捕獲数四、二三八尾 採卵数二、五〇八千粒

さくらます秋放流 古宇川四七千尾 珊内川一〇千尾

*神恵内小学校改修工事完成(一〇月)



事業費 六五、八一七千円 屋上防水改修、屋根張り替え他

* 神恵内小学校スポーツ少年団に北海道体育協会スポーツ少年団本部長より表彰される(一〇月)

* 第一回村長杯パークゴルフ大会開催する

* 神恵内村リフレッシュプラザ温泉九九八露天風呂完成(一二月)

事業費 三〇、五三九・五千円

鉄筋コンクリート造(男・女)各一〇・五²m他

* 神恵内村リフレッシュプラザ温泉九九八道路・駐車場完成(一二月)

事業費 三二、六二二千円

取付道路 延長一〇四・九一m 駐車場八九五²m 照明柱(二灯用)七基他

* 神恵内小学校開校二〇周年記念式典開催される(一二月二二日)

* 神恵内村地熱開発ボーリング(珊内五号井)深度八〇〇m実施するが顕著な湧出見られず

事業費 四八、三〇七千円

* 鷹島地先防護柵設置工事完成(一二月)

事業費 二、二六六千円 防護柵工 延長七〇m

* 原子力防災訓練(総合訓練)の実施(一二月二二日)

* 地場産業従事者一〇名表彰(一二月)

* 神恵内漁港海岸公有地整備工事完成(一二月)

事業費 六八、〇三一・五千円



多目的広場 面積一、六二四²m² 歩道延長九四m 照明灯四基

トイレ(第十一御丸) 鉄筋コンクリート造 面積五〇・〇二²m²他

* 神恵内女子卓球部が北海道新聞杯全道中学校選抜卓球大会で三位に入賞する
(一二月)

* 補助小規模治山事業(アワビ育成センター地先)完成(一二月)

事業費 一二、八七五千円 法枠工 面積三六一・三²m²他

* 神恵内村レストハウス九九八完成(一二月)

事業費 四三、四一四・五千円

木造平屋建 面積九六・〇三²m² 外壁 防火サイディング 厨房器具 テー

ブル 冷暖房施設他

平成六年(一九九四)

* 神恵内小学校バレーボールスポーツ少年団(神恵内ファイターズ)が北海道小学生バレーボール選抜優勝大会で見事優勝をはたす(一月)

* 後継者養成海外派遣事業(漁業青年等八名)ニュージーランドに研修視察派遣する(一月八日～一九日)

* 珊内地区温泉ボーリング場揚湯試験完了(一月)

事業費 二、七八一千元

* 青少年交流センター新築完成(一月)

事業費 七九、二〇七千元



鉄筋コンクリート造二階建 延べ面積三五八・五²m

* 神恵内村長選挙 高山庸一氏が無投票で七選果す

(二月一五日告示・二月二十日投票)

* 川白ふれあいセンター新築完成(二月)

事業費 一六九、九六三千元

鉄筋コンクリート造三階建 延べ床面積六一五・五六²m他

* 川白ふれあいセンターオープンする【二月二二日落成式】

* レストハウス九八八オープンする【二月二二日】

* 神恵内村(珊内地区)地熱開発ボーリング(五号井)

掘削深度(二〇〇m増掘)一、〇〇〇m 湧出量 毎分一〇〇ℓ(瞬間動

力揚湯) 泉温三四・四度

泉質 ナトリウム・鉄() - 硫酸塩・塩化物・炭酸水素塩泉(中性低張

性温泉)

* 神恵内地区簡易水道拡張工事完成(二月)

事業費 三三一、二四八千元

浄水場新築・水源地改修・水質試験設備、動力制御盤、コンプレッサー他

* 大川地区バス巡回所完成(三月)

事業費 二、〇六〇千円 取付道路二ヶ所他

* マツカトンネル工事着工(三月)

* 神恵内村さくらます幼児飼育場新築完成(三月)



事業費 一五一、六三三千元

養魚池二二面（鉄筋コンクリート造）面積七二六㎡

養魚池上屋棟一棟一〇五・四二㎡ 管理棟一棟（木造）五八・三三㎡

作業棟一棟（木造）三八・八八㎡他

* さくらます幼魚飼育施設導水路移設工事完成（三月）

事業費 五、一五〇千円 導水路移設 延長三三・二m他

* 神恵内漁港用地舗装工事完成（三月）

事業費 八、七五五千円 舗装工 面積六三一㎡他

* 公用車購入（トヨタハイエースワゴンブランドキャビン（〇人乗り）一台

（四月納入） 購入価格 三、六三五・九千円

* 神恵内中学校女子バレー部が後志中学校春季バレーボール選手権大会で優勝

* 農林漁業者等健康増進施設用地造成工事完成（四月）

事業者 二、〇六〇千円 掘削 法面工他

* 神恵内小学校バレーボールスポーツ少年団（神恵内ファイターズ）がライオン

カップ全日本バレーボール小学生南北北海道大会で二回戦で敗れ惜しくも二年連

続全国大会の夢消える

* 後志支庁主催のサクラマスフォーラム開催される【さくらます幼魚飼育場他】

* 温泉九九八脱衣所改修工事完成（四月）

事業費 五、八七二千円 脱衣棚 ロッカー他

* 温泉九九八源泉スケール除去ボーリング完了（四月）



事業費 三、〇九〇千円 切削深度八〇m

* 交通事故致死ゼロ二、五〇〇日達成（五月一九日） 北海道知事より感謝状受賞

* 元神恵内消防団分団長 滝本鶴松氏が勲七等青色桐葉章叙勲を受賞する

【五月三十一日伝達】

* テレビ北海道（TVH）岩内地区置局事前調査開始される

* 北海道漁港の日を記念し神恵内漁港西防波堤にトリックアート制作

「水のない水族館」除幕（七月一〇日）

* 北海道優良勤労青少年顕彰 北海道知事から四名表彰される（七月一九日）

* 神恵内中学校バレー部が中体連後志大会で優勝し一四年振りに全道大会に出場

* 珊内小学校の能戸亜季子さんが北海道小学生スポーツ大会のボール投げで全道

一に輝く（七月）

* 青少年旅行村に「芸術の森」誕生 モニメント「翔」完成計五基となる（七月）

* 行政機構の一部見直しを行い七月一日施行開発計画課、財政課が新設される

【四課から六課に】

* 原子力防災訓練（夏季訓練）実施（七月二六日）

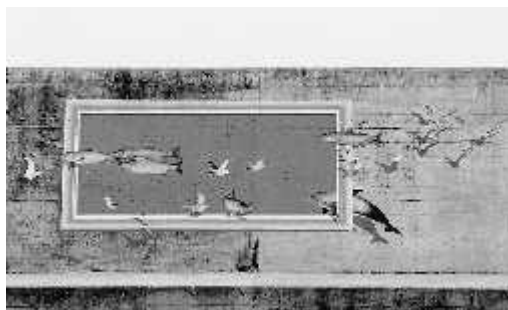
* 村立歯科診療所に澤田幸武先生八月一日付着任（西尾信吾先生が七月三十一日付

退職）

* 神恵内中学校が中体連全道バドミントン大会で伊藤圭一くん、川島純くんの二

人出場し善戦するも敗れる（八月）

* 神恵内中学校女子卓球部が全道大会に出場しベストエイトに輝く（八月）



* 神恵内中学校女子卓球部の小杉 愛さんが北海道硬式卓球選手権大会に出場し
全道ベストエイトに輝く(八月)

* 補助小規模治山事業(松本地先) 完成(八月)

事業費 九、二七〇千円 法枠工二八三・六m他

* 神恵内小学校卓球スポーツ少年団の岡田順司くんが北海道硬式卓球選手権大会
に出場し全道ベストセブンに輝く(八月)

* 神恵内中学校女子バレーボール部が北海道中学校バレーボール競技大会決勝
トーナメントで敗れる(八月)

* 神恵内小学校卓球スポーツ少年団の岡田順司くんら四名が北日本ホープスプロ
ツク大会でベストエイトに輝く(八月)

* 後志郡部初の老人保健施設「神恵内ハイツ九九八」着工(八月)

* 農林漁業者等健康増進施設完成(八月)

事業費 一〇二、三〇九・九千円

鉄筋コンクリート造二階建 面積三三七・三六九m²

* ダイビングパーク大森建設第一期工事に着手(三年計画)される(八月)

事業費 五九、七四〇千円

土木工事一式

* 村立神恵内診療所長 趙 重文先生八月三一日付退職(トマム診療所へ)

新所長に菊地 哲先生就任する【九月一日付】

* 収入役の選任 佐藤寿昭氏再任(一〇月一日付)



* 教育委員会委員の任命 教育委員（教育長）に米田可知昭氏再任（一〇月一日付）

* エネルギープラザ泊九四（エネルギーと伝説の西積丹 岩宇のつどい）開催される

* 神恵内漁港海岸公有地整備工事完成（一〇月）

事業費 一六、三七七千円 張芝一、〇八〇㎡ 四阿一棟他

* ヒラメ稚魚放流開始される 初年度二万尾（一〇〇一三mmサイズ）神恵内漁港
沖放流

* 原子力防災訓練（秋季）実施（一一月一六日）

広域避難三七名（一般住民、消防団）

* 地場産業従事者八名表彰（一一月）

* 交通事故致死ゼロの記録 二、六九三日でストップ【一一月二九日二名死亡】

* 神恵内村さくらます幼魚飼育場に道立水産ふ化場熊石支場からさくらます発眼

卵七〇万二千粒収容される（一〇月二四日）

* 温泉九九八平成四年四月一七日オープン以来一一月九日で三〇万人達成

* 後志婦人大会が漁村センターで開催五〇〇人が集う（一一月）

* 後志小・中学校卓球大会で四年生以上女子シングルスで岡田はるかさん、五年女

子で斉田正子さん、六年男子で石沢志快くん、中学一年男子で岡田賢司くん 同

女子で渡辺紗也香さん、中学二年女子で小杉 愛さんがそれぞれ優勝する

* 西ヶ丘団地外構整備工事完成（一二月）

事業費 一一、三三〇千円 通路四〇〇㎡ 駐車場三三〇㎡他

* 西ヶ丘団地公営住宅建設工事（その一）完成（三LDK）（一二月）



事業費 八三、八四二千円

一棟四戸 面積 一号棟三六〇・七二一^m₂

*補助小規模治山事業（菅原地先）完成（一二月）

事業費 一四、三二七千円 法粹工 面積三五〇・三^m₂他

*神恵内一号船揚場整備事業完成（一二月）

事業費 六、一八〇千円 斜路工七六・八^m₂他

平成七年（一九九五）

*国際交流作文で川白小中学校と児童生徒四名が入賞する

四兵庫県南部地震発生 未曾有の大被害発生する（一月一七日）

*元神恵内村議会議員 土橋義雄氏が勲六等瑞宝章の特別（死亡）叙勲受賞する

【一月三一日伝達】

*後継者養成海外研修派遣事業

ニュージールランドに研修視察派遣（一月二日～二月一日）

*赤石老人クラブ設立二〇周年記念式典挙行（二月）

*神恵内小学校スポーツ少年団が後志管内教育実践表彰を受賞（二月二八日）

*西ヶ丘団地公営住宅建設工事（その二）完成（二月）

事業費 八二、六〇六千円

一棟四戸 面積三六三・五七九^m₂

*西ヶ丘団地外構整備工事（その二）完成（二月）



事業費 七、一〇七千円

* 西ヶ丘団地公営住宅解体

二棟八戸 面積二六八・一九[㎡]

* 神恵内地区簡易水道拡張工事完成(二月)

事業費 三〇一、七九〇千円 導水管布設 延長二七四m

送水管布設 延長九四五m 配水管布設 延長五、八五八m他

* 神恵内地区新浄水場通水式挙行(三月二八日)

* 元神恵内村議会議員 山内 一氏が勲六等単光旭日章(高齢者)叙勲受賞

【三月一日伝達】

* 助役の近藤豊昭氏任期満了により退職(三月一三日付)

* 統一地方選挙北海道知事選挙、北海道議会議員選挙執行される(四月九日)

* 神恵内村議会議員選挙が執行される(四月二三日) 投票率九六、三八%

神恵内村議会議員選挙では定員二名に対し一四名が立候補し激戦となる

* 行政相談委員に伊藤由美氏再委嘱(総務庁長官)される

* 助役に米田可知昭氏選任される(四月一七日付)

* ノット地区墓地区画整地四〇[㎡]完成(四月)

* 神恵内中学校女子バレーボール部が北海道中学生バレーボール選抜優勝大会で

初優勝を飾る(五月)

* 元民生・児童委員 菅原亦次郎氏が藍綬褒章を受賞【五月二五日伝達】

* 神恵内ニュージールランド協会設立 初代会長に村長 高山庸一氏が就任(五月)



* 老人保健施設神恵内ハイツ九九八が五月一五日落成し一七日オープンする

鉄筋コンクリート造二階建 面積三、八九〇㎡ 入所定員 八六名

痴呆専門棟四〇名 短期入所八名 通所定員二〇名他

* 大島北海道開発政務次官が西の河原トンネルを視察（五月）

* 後志地区老人クラブゲートボール大会で神恵内九九八チームが惜しくも準優勝

（六月）

* 神恵内村ダイビングパーク大森第二期工事着手（六月）

事業費 二八六、〇一〇・四千円

建築主体工事 電気設備工事 機械設備工事

* 神恵内老人クラブ創立三〇周年記念式典が開催される（六月一三日）

* しいたけ等生産栽培施設を㈱ヨシナリ食品工業がタモギ茸栽培操業開始

* 珊内深井戸ボーリング実施（ボーリング深度二五〇m）

* 温泉九九バス待合所新設される（七月）

* 教育委員会委員（教育長）に佐藤寿昭氏が任命される（七月一日付）

* 収入役に桑原 進氏選任される（七月一日付）

* 北海道漁港の日を記念し神恵内漁港防波堤にトリックアート一枚制作

* 赤石漁港が第九次漁港整備計画で改修事業として着手される

* 第一七回参議院議員通常選挙執行（七月二三日） 投票率六七％

* 神恵内中学校の全運動部が初めて全道大会出場となる

* 泉川防護策完成（七月）



事業費 四、五三二千円

防護柵工（ガードパイプ）、植栽工他

* 珊内温泉新築工事着手（七月）

事業費 一二〇、四〇七千円

鉄筋コンクリート造平屋建 面積二三九㎡

* オナナイ公営住宅地先フェンス完成（七月）

事業費 七〇〇・四千円

防護柵工（フェンス）延長三四・三m

* 北海道優良勤労青少年顕彰 北海道知事から三名表彰される（七月一九日）

* 珊内小学校の能戸亜季子さんが全道小学生陸上競技大会の砲丸投げで見事優勝に輝く

昨年のボール投げに続いて二年連続全道一

* 珊内保健福祉会館・旧国立札幌病院付属珊内診療所解体される（八月）

* 最後の難所「西の河原トンネル」貫通

貫通式八月一日 延長一、八三三m

* 後志支庁 尾形 浩支庁長が神恵内村水産施設を視察来村（八月）

* 古宇川河川公園完成（八月）

事業費 三〇、四八八千円

張 芝 面積二、〇四〇㎡、多目的広場 面積五七六㎡、照明灯三基他

* ツールド北海道第二ステージで当丸峠・市街地を疾走する（九月一四日）



* 川白小学校開校九〇周年・中学校開校四〇周年記念式開催される（九月一七日）

* 村立神恵内診療所長の菊地 哲先生退職（九月三〇日付）

新所長に藤原勝城先生就任する（一〇月一日付）

* 国勢調査（一〇月一日）の実施

人口 一、四八一人（男六九一人・女七九〇人） 世帯数 六一二戸

* 交通信号機設置される

公有地埋立地前交差点（押しボタン信号機）、神恵内橋交差点

* 秋のイベント「カモン・サーモン・カモエナイ」一、五〇〇名が参加して第七

回で終了（九月二四日）

* 原子力防災訓練の実施（一〇月三一日）

* 補助小規模治山事業（菅原地先）完成（一〇月）

事業費 八、〇八五・五千円 法枠工三〇五・三^m、伏工他

* 全後志PTA研究大会が神恵内小中学校で開催される

* 小樽地区漁協婦人部大会が漁村センターで開催される

* 神恵内小学校バレーボールスポーツ少年団（神恵内ファイターズ）が道新カッ

プ北海道小学生バレーボール大会小樽・後志地区予選で見事優勝果たす

* 神恵内小学校バレーボールスポーツ少年団（神恵内ファイターズ）が北海道小

学校バレーボール選抜優勝大会で見事優勝し道央大会の出場権を得る

* 北海道郵政局よりリフレッシュプラザ温泉九九八前に「ソーラ時計と案内板」

を寄贈



* 神恵内中学校卓球部一年生の岡田順司くん全日本卓球選手権大会に出場

* 神恵内九八八地区生活環境保全林整備事業着手される（六年計画）

* 元神恵内村議会議員 高田梅吉氏が勲六等単光旭日章（高齢者）叙勲を受賞する

【一〇月一九日伝達】

* 西ヶ丘団地外構整備完成（一二月）

事業費 一七、三〇四千元

通路 面積九一^二m²、歩道 面積一六〇²m²他

* 西ヶ丘団地公営住宅建設工事完成（一二月）

事業費 九〇、一二五千元

一棟四戸 面積三七二・八九一²m²

* 一二月の低気圧（強風、高波）により住家、船舶 漁業共同施設等に被害発生する

被害金額約二、〇〇〇万円

* 神恵内村地熱開発ボーリング（六号井）完了するが顕著な湧出見られず

事業費 六二、六二四千元（当初五三、三五四千元）

掘削深度 一、〇〇〇m（当初八〇〇m）

* 神恵内中学校女子バレーボール部の米田奈々子さんが「さわやか杯第九回全国

都道府県対抗中学バレーボール大会」に北海道代表メンバーに選出される

* テレビ北海道（TVH）の受信放映始まる（一二月）



平成八年（一九九六）

* 国際交流作文で川白小学校 熊原由佳さん、高田飛鳥くんが入賞する

* 湯の花加工センター新築工事完成（一月）

事業費 三三、九六〇千円 鉄筋コンクリート造二階建 延面積一三六㎡
スケール除去室 浴室他

* 補助小規模治山事業（福田地先）完成（一月）

事業費 二、七六〇・四千円 土留工二〇㎡他

* 一般国道二二九号豊浜トンネルで崩落事故発生 二〇人が死亡（二月一〇日）

* 元神恵内村議会議員（故）斎藤幸市氏が特別（死亡）叙勲 勲六等単光旭日章を受賞

【二月二日伝達】

* 冊内温泉引湯管布設完成（三月）

事業費 四〇、〇六七千円 延長一、二〇〇m

* 交通事故死ゼロパーフェクト達成（H七年） 北海道知事より感謝状贈呈（三月）

* 神恵内村老人クラブ連合会が創立二十周年記念式典を開催する（三月八日）

* 林野火災予防標語で神恵内中学校の池田 正くんが北海道知事に輝く

* 将棋の羽生七冠王に温泉九九八の湯の花で作った「王将」を進呈

* 北海道総合行政情報ネットワーク整備事業着手（運用開始H八・四）

村負担額 一、二、〇六一千円の三分の一負担

* “湯ートピア” 村内で三ヶ所目の冊内ぬくもり温泉がオープンする（四月九日）



* 交通事故死ゼロの記録五〇〇日達成（四月一二日）

* 温泉九九八泉源スケール除去ボーリング（四月）

事業費 一、五二四千円 切削深度八六m

* 村営住宅の西ヶ丘団地A号棟から火災発生内部全焼する（五月）

り災世帯 四世帯

* 神恵内中学校女子バレーボール部が全道選抜優勝大会で二連覇達成する

* 神恵内ハイツ九九八が一周年記念式典を祝う（五月）

* 国道二二九号開通記念植樹祭 神恵内村浄水場・神恵内青少年旅行村にサク
ラ、ナナカマド二二九本植栽する

* 七年振りに浜にぎわい ウニ豊漁に沸く

* 小樽中学生春季羽級選手権大会で神恵内中学校男子バドミントン部の能登 稔
くんが個人の部、原田竜則くんと金田一晃弘くんがダブルスで見事優勝する

* 神恵内小学校卓球スポーツ少年団が後志卓球選手権大会で七名が優勝、男子団
体準優勝、女子団体が優勝するなど全道大会の出場決定する（五月）

* 神恵内中学校卓球部が会長杯争奪後志中学校卓球大会に出場し上位を独占する

* 神恵内小学校の新谷美菜子さんが後志小学校陸上競技大会のボール投げで標準
記録を突破し全道大会に出場七位入賞する

* 神恵内小学校スポーツ少年団の神小ファイターズが全道大会出場するも善戦む
なしく敗れる

* 後志管内PTA指導者研修会が漁村センターを会場として開催される



* 神恵内中学校の全運動部が二年連続全道大会出場となる

全道大会の結果 女子バレーボール 準優勝【全国大会出場】

バドミントン三位 卓球男子三位・女子八位

* 神恵内青少年旅行村にバーベキューハウス建設される（七月）

事業費 九、一六七千円 木造六八・〇四㎡

* 北海道優良勤労青少年顕彰 北海道知事より三名表彰される（七月一九日）

* 全国強震ネットワーク・強震観測施設が漁村センター横に設置される

運用開始H八・九

* ダイビングパーク大森が「道の駅」に決定する 駅名「オスコイ!かもえない」

* 「北海道漁港の日」を記念して川白漁港防波堤に壁画五枚完成する

* 観光案内板、標注及びさわやかトイレ案内板設置される

* 村社会教育プロジェクト委員会主催の芸能観賞事業の第一弾として「ピアノと

民族楽器バヤンのタベ」が漁村センターで開催される

* じん芥収集車一台購入 購入金額 一〇、九一八千円

* 海区漁業調整委員会委員選挙執行（八月一日）

* オホーツク観光株式会社が仮称「レストハウス西の河原」建設にむけて地鎮祭

実施（八月二四日）

* 魔法の水とよばれる「深層水研修会」が開催される（八月二七日）

* 西ヶ丘団地公営住宅解体工事（八月）

事業費 一、二三六千円 一棟五戸解体 面積一五三・五㎡



* 神恵内中学校女子チーム岩宇駅伝大会で初優勝を遂げる（九月）

* 神恵内小学校バレーボール少年団が道新カップで優勝し道央大会に出場する

* 旧安内小学校の記念碑「心勿忘」が安内小学校跡祈念碑建立協賛会により旧安内小学校下の国道二二九号横に建立される

* 泉川護岸整備工事完成（九月）

事業費 八、六五二千円 擁壁工、張芝工他

* 道民スポーツ後志大会のパークゴルフ大会で優勝、個人では松村信二先生が砲丸投げで三連覇達成（九月）

* 補助小規模治山事業（木明地先）完成（九月）

事業費 八、六三一・四千円 土留工、法枠工他

* 積丹半島周回道路開通記念イベントが作詩家の石本美由起先生の半島トークショー、YOSAKOIソーラン、天童よしみコンサートなどにぎやかに開催される（九月一五日）

* マツカトンネル開通（一〇月）

* 神恵内スポーツ少年団に北海道体育協会から表彰状が贈られる

* 温泉九九八がオープン以来（四年六ヶ月）五〇万人を達成する（一〇月一一日）

* 衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査の実施（一〇月二〇日）

【投票率七七・六一％】

* 交通事故致死ゼロの記録七〇〇日達成（一〇月三〇日）



* 神恵内中学校卓球部が後志管内中学校新人大会で男女の団体、個人とも優勝する
* 一般国道二二九号全線開通に伴う供用開始なる【一月一日】

積丹町沼前、神恵内村川白間 供用延長六、七三八m 総工費約四〇〇億円

事業着手 昭和四五年（一、九九〇） 主要構造物 積丹トンネル七六五m

大天狗トンネル六三八m・西の河原トンネル一、八三三・五m

開通式及び祝賀会開催

* 原子力防災訓練の実施（一月七日）

* 元神恵内村議会議員 斎藤敬作氏が勲五等双光旭日章受賞【一月八日伝達】

* 西ヶ丘団地公営住宅外構整備工事（二月）

事業費 六、五九二千円

積みブロック 面積五五・七m² 排水工U型トラフ 延長九一・七m他

* 神恵内中学校女子バレーボール部が後志秋季選手権新人戦で優勝する

* 神恵内中学校卓球部が小樽総合卓球選手権新人戦で上位を独占する

* 神恵内中学校女子バレーボール部が後志管内青少年生涯スポーツ功績団体として後志教育局長表彰の荣誉に輝く

て後志教育局長表彰の荣誉に輝く

* 一般国道二二九号開通記念バスツアー実施【二日間】

* 一般国道二二九号の開通を記念して「一般国道二二九号開通記念碑」が二七

の歳月を要した大工事の完成を祝って建立奇贈された記念碑の除幕式実施

（二月一七日）

* 泊発電所周辺にかかる「環境影響調査」の開始（二月）



* 神恵内村漁業協同組合が海難事故死ゼロ三、〇〇〇日達成で花北海道漁船海難防止センターより表彰される(一二月)

* 西ヶ丘団地公営住宅建設工事完成(一二月)

事業費 一〇〇、四二五千元 一棟四戸 面積三七五・二五m

* 冊内小学校線融雪施設道路及び冊内小学校駐車場整備工事完成

事業費 五五、八二六千元

工事延長一七〇m 幅員三m 排水工延長三六六・五m

舗装インターブロック 面積五二〇m² 電気工事他

* 地熱開発ボーリング六号井増掘 一、〇〇〇mから一、五〇〇〇まで五〇〇m

増掘するも顕著な湧出見られず 事業費 三八、一〇〇千元

* 補助小規模治山事業(西の河原地先)完成(一二月)

事業費 三五、〇二〇千元 作業道八五五、一六m、法面工他

平成九年(一九九七)

* 補助小規模治山事業(松本地先)完成(一月)

事業費 一〇、〇九四千元 雪崩防止柵他

* 補助小規模治山事業(菅原地先)完成(一月)

事業費 八、二四〇千元 法枠工、伏工他

* 中国遼寧省旅遊の一行来村 「山紫水明の村」と賛辞の言葉いただく

* 生活環境保全林整備事業(第一期工事)完成



事業費 四四、二九〇千円 管理車道 延長五二〇m他

*ふるさと林道川白線開設工事

事業費 四六、八六五千円 林道延長二二三・八m 排水工他

*村立診療所長 名児耶満徳先生就任 (三月一日付)

藤原勝城先生退職二月二八日

*ダイビングパーク大森厨房機器設置工事完成

事業費 三、三七八・四千円 厨房機器製作据付

*ダイビングパーク大森第三期工事完成

事業費 四〇八、九一〇千円

鉄筋コンクリート造地下一階・地上二階 延面積一、五五二^二m

*一般国道二二九号茂岩^ノ神恵内間の二次改築に着工する

*後志オープン卓球選手権大会で神恵内小学校スポーツ少年団が上位独占 全道

大会出場

*小樽・後志管内中学校卓球選手権大会で女子団体が六連勝、男子が二連勝達成

*後志管内で最大規模のドライブイン・レストハウス積丹半島西の河原[」]オープンする

*元神恵内村議会議員・神恵内村商工会長(故)米田清作氏

特旨叙位正六位【四月八日伝達】

*観光元年の幕開けダイビングパーク大森(道の駅オスコイ!かもえない)竣工式及び祝賀会開催する(四月二一日)【四月二三日オープン】



* 神恵内社会福祉協議会に北海道共同募金会から共同募金車両が配分される

(五月一日)

* 神恵内小学校卓球少年団の阿部友紀恵さんが全道硬式卓球大会でベストエイトに入賞し全国大会に出場決定する

* 神恵内中学校女子バレーボール部が全道選抜優勝大会で準優勝で三連覇ならず
* しいたけ等生産栽培施設の運営(株) スリーピがタモギ茸生産開始(五月八日)

* 交通事故死ゼロの記録九〇〇日達成【五月一七日】

* 北海道民有林治山事業五〇周年記念、保安林制度発足一〇〇周年並びに神恵内村青少年旅行村開村二五周年記念植樹祭でチシマザクラ、ヤマモミジなど一七五本が植樹される(五月二八日)

* 国道二二九号積丹半島周回道路開通記念バスツアーの実施

バスツアー三回実施(六月) 延べ一〇九名参加【積丹半島一周コース】

* 積丹半島周回道路開通後初の交通事故発生【六月一九日二名死亡】

交通事故死ゼロ九三二日でストップする

* 川白地区に手押し式信号機、横断歩道設置される(六月一七日)

* 神恵内中学校全運動部が三年連続全道大会に出場

* 温泉九九八駐車場舗装工事完成(七月)

事業費 三、九九〇千円 舗装工 面積二〇〇㎡他

* 生活環境保全林整備事業トイレ設置工事完成(七月)

事業費 六、五六二・五千円 可動式トイレ一式



* 村立診療所長に小野寺一史先生就任（七月一四日付）

* 北海道優良勤労青少年顕彰 北海道知事から四名表彰される（七月二二日）

* 赤石山の上に北海道電力(株)の保養所建設に着手

* 神恵内沖で魚雷が発見され海上自衛隊により爆破処理される

発見の日 平成八年九月二五日 キナウシ沖約1km 水深約六〇m

処分の日 平成九年七月二八日

* 青少年旅行村開村二五年を経過し「記念感謝デー」開催（八月）

* 補助小規模治山事業（松本地先）完成

事業費 一三、一三〇千円 法杵工・伏工他

* 神恵内中学校男子卓球部が全国大会に出場決定する

* 神恵内中学校女子卓球部の斉田・田中ペアが全道大会で優勝し全国大会に出場

決定する

* 神恵内中学校女子バレーボール部も全道大会で二年連続優勝し全国大会へ出場

決定する

* 災害に強い村づくりを推進するため神恵内村非常用持出袋を全世帯に配付する

* 神恵内村災害用救急箱購入し避難所一〇ヶ所に設置する

* 西ヶ丘団地公営住宅解体工事

事業費 二、九四〇千円 二棟九戸解体 面積三二八・七六²m

四国道二二九号線第二白糸トンネル崩落事故発生

* 村立歯科診療所に澤田幸武先生就任（八月一日付）



* 北海道漁港の日記念事業で珊内漁港防波堤に壁画五枚制作完成する（九月）

* 中国大連市回龍村との友好親善に高山村長、佐藤議長他一行訪問する

九月二日～九月八日（七日間）大連市・旅順・長海県・回龍村視察訪問

* 原子力防災訓練の実施（一〇月二七日）

* 中国大連市回龍村との友好親善を誓い合い両村長が覚書に調印する

【一〇月二三日】

回龍村 董 文弟村長一行七名来村

友好親善の夕べ、友好交流会、村内外行政視察他

回龍村～大連市近くの黄海北部長山群島の小長山島に位置し島の政治・

経済・文化の中心地で人口は四、三〇〇人

* 補助小規模治山事業（綿谷地先）完成（一〇月）

事業費 一二、九一五千元 土留工・山腹工他

* 神恵内中学校が昭和二二年学制改革から開校五〇年を祝う

同窓生等関係者一八〇名出席し盛大に記念式典及び祝賀会を開催

（一〇月二二日）

* 後志管内中学校新人卓球大会で男女とも団体戦で優勝する

* 川向町線融雪施設設置工事完成（一一月）

事業費 九、三四五千元 ロードヒーティング（電熱線方式）延長五〇m

インターロッキングブロック 面積二〇〇・九㎡他

* 温泉九九八泉源スケール除去ボーリング



事業費 一、四七〇千円 切削深度 一〇三m

四泊発電所二号機で復水器細管損傷の事故発生

*西ヶ丘団地公営住宅建設工事完成(二月)

事業費 九二、二九五千円 一棟四戸 面積三七五・九七m²

*西ヶ丘団地外構整備工事完成(二月)

事業費 一〇、三九五千円

排水工一式 舗装工 面積二六五m² 照明灯一基他

*川向地区にさわやかトイレ(古宇の川屋)完成(二月)

事業費 二〇、五八〇千円 鉄筋コンクリート造一棟 面積三〇・〇二m²

*ふるさと林道川白線開設工事完成

事業費 七〇、三五〇千円

*北海道開発局で国道二二九号をはじめ全道国道の岩盤斜面の緊急調査結果報告

小樽開発建設部管内では国道二二九号において一一六箇所を調査実施

平成一〇年(一九九八)

*積丹町との交流を確認 白鳥町長が来村し両町村の交流活性化を協議

(二月二二日)

*岩宇高齢者ゲートボール大会で神恵内トド松チーム見事優勝する

*神恵内村長選挙 高山庸一氏が無投票で八選果たす

(二月一七日告示・二二日投票日)



* 神恵内地区簡易水道拡張工事完成（一月）

事業費 一四〇、七〇〇千円

電気計装設備工事 配水管路 延長四一八m他

* 駐車場整備（神恵内・川白）工事完成

事業費 六、三〇〇千円

神恵内地区 延長一七・一m 面積二二九・八²m²他

川白地区（NO・一） 延長一九・五m 面積八七・一²m²他

川白地区（NO・二） 延長二二m 面積九三・四²m²他

* 青少年旅行村コテージ完成（一月）

事業費 一二七、八九〇千円 コテージ二棟（一棟六一・五六²m²）

* 冊内橋橋梁添架新設工事完成（二月）

事業費 四、四二六・八千円 水道管添架工・単管手摺 延長一一六m

* ふるさと林道川白線開設工事（その二）完成

事業費 三四、〇二〇千円 法枠工 面積三六六²m² フェンス他

* 神恵内村老人福祉寮（生き生きホーム九九八）完成

事業費 一四八、四七〇千円

鉄筋コンクリート造平屋建 面積四五八・二三²m²

電気設備 機械設備工事他

* 神恵内村在宅老人福祉施設にエレベーターが完成（三月）

事業費 二三、一〇〇千円



*ゴミの広域処理について南後志地域廃棄物広域処理連絡協議会（一四町村）が設置される（三月）

* 泊発電所周辺にかかる環境影響調査（現況調査）終了 【三月三一日】

* 珊内小中学校・川白小中学校が閉校に、永年の歴史に幕を閉じる

（三月二十五日閉校式）

珊内小学校は明治二三年に寺小屋授業を始めて以来一〇七年、中学校は昭和二三年に併設以来五〇年の歴史がある

川白小学校は明治二〇年頃「陸の孤島」であったこの地で寺小屋授業が始まり明治三六年に新校舎が建設され閉校、中学校は昭和二三年に珊内中学校川白分校として発足昭和三〇年に独立した



* スクールバス購入（二九人乗りマイクロバス）購入費 六、〇九〇千円

四月から運行開始

* 絶景を眺める あんない展望公園完成 【四月三〇日オープン】

事業費 四四、四一五千円

展望公園 面積四〇九・一²m² 歩道延長一五一・三m 四阿一棟他

* 神恵内村老人福祉寮外構工事完成（五月）

事業費 二〇、五八〇千円 小公園六六〇²m² 駐車場九八²m

* 神恵内小学校バレーボールスポーツ少年団が小樽・後志地区代表決定戦で優勝

し道央大会出場（五月）

* 北海道電力(株)の保養所「ゆうなぎ荘」がオープンする

* 村立診療所に電子内視鏡一台設置

* 神恵内小学校卓球スポーツ少年団後志卓球選手権大会で健闘し全道大会出場決定

* 神恵内中学校女子バレーボール部が全道大会で優勝し全国大会へ連続三回出場の快挙

の快挙

同じく卓球の個人戦で斉田正子さんが三位で全国大会出場となる

* 川白、珊内、赤石、ツボ石地区の児童・生徒の通学のためスクールバスの運行

開始

* 神恵内中学校女子バレーボール部が全道中学選抜優勝大会で二年振り三回目の

優勝

* 元神恵内消防団副団長 斉藤松雄氏が勲六等单光旭日章受賞する



【五月一九日伝達】

* 中国大連市回龍村へ友好訪問（五月）

岡村副議長・菅原議員・大井議員他二名訪問

* 補助小規模模治山事業（ノット地先）完成（五月）

事業費 九一三・五千元 大型土嚢設置

* 冷蔵センター機械設備他改修工事完成（五月）

事業費 一一、八四四千元 アンモニア冷凍設備、屋上防水他

冷蔵センターの運営 神恵内村海産物加工協同組合に委託（六月）

* 資源ゴミ（アルミ、スチール缶等）分別収集モデル事業が実施される

* 交通事故発生一名死亡（五月二〇日）

事故死ゼロの記録三三四日でストップ

* ノット山の上線照明設置工事完成（六月）

事業費 三、五七〇千元 照明灯（高圧ナトリウム灯）七基他一式

* 秘境「第一三回西の河原極楽まつり」盛大に開催も今回で終了となる

川白千疊敷で初夏のウニ丼 新鮮な海の幸 海上遊覧 霊場西の河原探訪他

* 新長期総合振興計画策定にかかる村民意向調査実施

調査票配付 五五一世帯 回収率 九三・五%

* 神恵内村議会定数調査特別委員会が設置される

* 北海道優良勤労青少年顕彰 北海道知事から四名表彰される（七月一九日）

* 北海道電力㈱が泊発電所三号機増設計画の申し入れ【七月二九日】



* 第一八回参議院議員通常選挙実施される(七月二日)

投票率七五・八七%

* 後志小学校陸上競技大会の男子一、五〇〇mで阿部 誠くんが見事優勝全道大会出場

* 後志中学校駅伝大会で神恵内中学校女子が二年連続優勝し全道大会に出場決定

* 神恵内村日本郷土玩具館整備工事完成(八月)

事業費 四三、九九五千円

旧珊内小中学校内部改修一式

* 北海道フォトコンテスト&セミナー 水中写真家 中村征夫氏来村(八月三〇日)

* 村立歯科診療所 澤田先生が退職(九月三〇日付)

後任に深井 剛先生が就任する(七月一日付)

* 空き缶回収機二台設置される

* 小さな使者と国際交流

中国大連市沙河区少年宮旅順口区の小学生一行二五名が来村し神恵内小学校児童と交流し夕食会やキャンプファイヤーなどで交流を深め合う

* 後志卓球選手権大会の一四歳以下の部で男女個人七名 女子ダブルス二組が全道大会出場

* 神恵内中学校またも快挙 全運動部が四年連続全道大会に出場する

* 泊発電所三号機設置計画に係る環境影響評価書の縦覧・説明会はじまる



縦覧期間 八月一四日～九月二日 説明会 九月九日（漁村センター）

* 村立診療所にX線テレビ装置一台設置される

購入額 一一、六〇〇千円

* 日本の玩具が集合 神恵内村日本郷土玩具館オープンする

全国のおもちゃ二、五〇〇点が常時展示

* 後志卓球選手権大会で神恵内中学校卓球部の女子が優勝の他、男女二二名が全道大会出場

* 岩宇地区高齢者文化交流会が漁村センターで開催される

* 神恵内地区量水器取換工事完成（九月）

事業費 二、八三五千円 量水器撤去及び取付二五〇個

* 教育委員会委員の任命 教育委員（教育長）に佐藤寿昭氏再任（一〇月一日付）

* 経営林道冊内線改良工事完成（一〇月）

事業費 三、五七〇千円

道路改良 延長二三m U型トラフ、張芝工他

* 小規模治山事業（木下地先）完成（一〇月）

事業費 一五、五四〇千円 土留工 延長六三m 水路工他

* 冊内橋橋梁添架工事完成（一一月）

事業費 一〇、二九〇千円

水道管仮設配管撤去 延長七一m 本設配管 延長六〇m他

* バス待合所三箇所設置される（一一月）



事業費 二、三五二千円 木造各三・二四[㎡]m

* 高齢者グループホームかもめの家外構整備工事完成（一一月）

事業費 二、一〇〇千円 アスファルト舗装 面積八九[㎡]m他

* 中国大連市回龍村との友好親善（一一月）

回龍村 董文弟村長一行五名来村

友好親善の夕べ、友好交流会、村内外行政視察他

* 後志中学校卓球大会新人戦で神恵内中学校女子が団体戦優勝し、またバドミントン男子個人戦でも滝本康洋くんが優勝し全道大会へ出場する

* 第一四回原子力防災訓練の実施（一一月五日）

* 新珊内橋が完成する

* 村道文明町線道路整備工事完成（一一月）

事業費 四、六二〇千円 道路改良 延長一二七・八m他

* 神恵内漁業協同組合が泊発電所三号機増設に条件付賛成を決議する（一一月）

* 神恵内村議会議員の定数を減少する条例が制定される【定数二一人から一〇人へ】

* 九九八パークゴルフ場照明施設完成（一一月）

事業費 二一、四七二・五千円 照明灯五基 外路照明灯五基他

* オネナイ地区村有住宅解体

事業費 二、四六七・五千円

コンクリート造平屋建一棟四戸 面積一三八・二四[㎡]m他

* 小規模治山事業（千葉地先）完成（一一月）



事業費 九、五五五千円 土留工延長二二〇m、法枠工、水路工他

* 小規模治山事業（菅原地先）完成（一二月）

事業費 七、七七〇千円 雪崩防止柵一〇基

* 泉橋橋梁添架新設工事完成（一二月）

事業費 八、三七九千円 添架工 水道管延長二五m他

* 西ヶ丘団地外構整備工事完成（一二月）

事業費 二、六〇四千円

U型トラフ 延長八四m 歩道工 インターロッキングブロック他

* 西ヶ丘団地公営住宅建設工事完成

事業費 八八、七二五千円 一棟四戸 面積三七三・二六²m

* ふるさと林道川白線開設工事完成

事業費 七八、五四〇千円

* 神恵内村長期総合計画に係る村民意向調査の結果がまとまる

調査票配付 五五一枚 回収五一五枚 回収率九三・四七%

各課への要望

・ 総務関係 } 防災対策・防犯、交通対策等

・ 財政課 } 村営住宅関係・税務関係

・ 産業課 } 漁業の振興・農林業の振興・商工、観光業の振興・環境保

全対策・後継者対策等・建設水道課 } 下水道、合併処理浄化槽の整

備・道路の整備等



- ・住民課～ゴミの再利用、有料化について・在宅福祉対策・診療所関係・保育所関係等
- ・開発計画課～温泉関係・原子力防災関係等
- ・教育委員会～全村教育の推進等
- ・公共施設関係他

平成一一年（一九九九）

* 岩宇四町村共同事業で深層水（魔法の水）の調査はじまる

* 街路灯整備工事三年計画の一年目完成（一月）

事業費 四二、〇〇〇千円

オリジナル街路灯（ナトリウム灯共架式）八〇基

* 岩宇地域経済協議会が泊三号機増設に対する要望を北電に行う（二月）

一、安全と信頼 二、地域振興 三、恒久的総合エネルギー基地

* 温泉九九八泉源スケール除去ボーリング（二月）

事業費 一、四七〇千円 切削深度一三五m

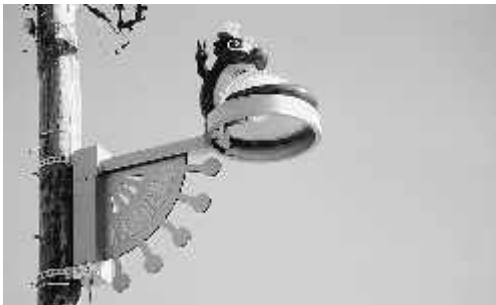
* 地域振興券の交付はじまる（三月一日から）

券面一人当り二〇、〇〇〇円 交付者数四六五人 交付金額九、三〇〇千円

* 神恵内村防災行政無線施設増設工事完成（三月）

事業費 一四、二八〇千円

中継局一式（川白漁港） 屋外拡声子局三基 移動系前進基地局他



* テレビ難視聴地区（西の河原）整備工事完成（三月）

事業費 七、九八〇千円 光ケーブル布設 延長二、四〇〇m

* 西ヶ丘団地公営住宅建設工事完成（三月）

事業費 八三、〇五五千円 一棟四戸 面積三七三・二六^四m

* 西ヶ丘団地外構整備工事完成（三月）

事業費 二、八三五千円

歩道工 インターロッキングブロック U型トラフ 照明灯一基他

* ふるさと林道川白線開設工事（その二）完成（三月）

事業費 二九、四〇〇千円 現場吹付法砕工 面積一八九^二m 階段工他

* 中国大連市回龍村との友好親善（三月～四月）

教育長、神恵内小学校児童等一行七名が大連市、回龍村を訪問交流する

* 村立神恵内診療所 小野寺一史所長退職【三月三一日付】

村立神恵内診療所の運営を小野寺一史先生に委託する【四月一日付】

* 村立神恵内診療所に内視鏡洗浄消毒装置設置される

* 元助役（故）三上正己氏が勲五等瑞宝章を受賞する【四月七日伝達】

* 助役に米田可知昭氏再任される（四月一七日付）

* 山菜採りで行方不明者相次ぐ【二名死亡】

* 統一地方選挙【北海道知事選挙・北海道議会議員選挙】執行される（四月二一日）

【投票率八一・〇一％】

* 神恵内村議会議員選挙 定数一〇名に削減された後の初めての選挙一三名が立



候補する

【投票率九六・四五％】（四月二五日）

* 後志卓球選手権大会（小学生の部）で男・女ともに全道大会の出場権獲得する

* 花いっぱい事業はじまる 花壇の設置四ヶ所 プランター六五個設置

* 青少年旅行村等施設管理の委託業務開始する

四月一日～一年間 受託者 北電興業（株）泊事業所

* 高松 實氏勲七等青色桐葉章を受賞する【五月一日伝達】

* 永年の使命を終えて旧公民館解体される（五月）

* 神恵内村商工会創立二〇周年記念祝賀が盛大に行われる

* 岩内協会病院新築移転地が旧岩内町立高台小学校跡地に決定する

* 泊発電所三号機増設計画に係る第一次公開ヒアリング開催される【六月二日】

* 珊内郵便局廃局となる（六月）

* 収入役に桑原 進氏再任される（七月一日付）

* 中国大連市回籠村との友好親善（七月）

回籠村 梁副村長他小学生一行一名来村

友好親善の夕べ、友好交流会、村内外行政視察、厳島神社の祭典などに参

加し日本の文化に触れた来村でした

* 北海道優良勤労青少年顕彰 北海道知事より三名受賞する（七月一六日）

* 七月末の豪雨による被害発生

さくらます 幼魚飼育場 さくらます 稚魚 五〇七千尾斃死



神恵内漁港・川白漁港に大量の草木流入

* 札幌手稲眼科内科による眼科移動診療が開始される（八月、九月）

* 神恵内村活魚蓄養センターに冷凍機設置される（八月）

事業費 四、二〇〇千円 冷凍機一台 熱交換器四基他

* 水道量水器取換工事完成（八月）

事業費 一、三六五千円 量水器取換一二二個

* 西ヶ丘団地公営住宅解体工事

事業費 一、八六九千円 二棟八戸解体 面積二六四・二五²m

四茨城県ジエー・シー・オー東海事業所で臨海事故発生する【九月三〇日】

* 中国大連市回龍村へ友好訪問（九月）

羽山議長・澤口議員・収入役他四名訪問

大連市、長海県、回龍村行政視察他友好親善

* 神恵内中学校バドミントン部、女子卓球部、女子バレーボール部が全道大会に出場決定する

出場決定する

* 神恵内村いきいきふるさと振興券交付はじまる（一〇月一日）

券面金額 一人当り五、〇〇〇円 交付対象者一、二六九人

* 交通事故致死ゼロ五〇〇日達成し表彰を受ける

* 小規模治山事業（佐藤地先）完成（一〇月）

事業費 一二、六〇〇千円 土留工、水路工他

* 新築となった川白浄水場の通水式実施【一二月一日】



* 神恵内中学校体育館屋上防水工事完成（一二月）

事業費 五、七二二千円

* 役場庁舎のトイレ改修

事業費 四、二〇〇千円 一階、二階トイレ便器（簡易水洗式）

* 西ヶ丘団地外構整備工事完成（一二月）

事業費 一九、九五〇千円

道路 延長三〇m 駐車場 面積四九〇²m²他

* 後志女性研修会が二〇〇名参加し漁村センターで開催される

* 西ヶ丘団地公営住宅建設工事完成【六年で八棟完成】（一二月）

事業費 八〇、三二五千円 一棟四戸 面積三七五・九七²m²

* 街路灯整備工事完成【三年計画の二年目】

事業費 四一、七九〇千円

オリジナル街路灯（ナトリウム灯共架式）八〇基

* 後志教育研究大会が神恵内小学校・中学校を会場に行われる

* 後志中学校新人戦で卓球女子の団体戦、シングルスで上位独占 女子バレー

ボールも優勝、バドミントンも一・二年生が優勝するなど大活躍する

* 神恵内中学校女子卓球部が全道中学校選抜卓球大会で三位に入賞する

* ノット山の上線融雪施設設置工事完成（一二月）

事業費 二五、二〇〇千円

インターロッキングブロック舗装 面積四一九²m²



*ふるさと林道川白開設工事完成（一二月）

事業費 四一、六八五千円 法枠工 面積三八九²m 延長三四m

*原子力防災資機材庫完成 北海道から村へ無償貸付される

*小規模治山事業（松本地先）完成（一二月）

事業費 九、八七〇千円 雪崩防止柵一五基

平成一二年（二〇〇〇）

*小規模治山事業（老人保健施設地先）完成（一月）

事業費 一八、八四七・五千円 法枠工、舗装工他

*自然とのふれあい 神恵内二〇〇〇年の森公園が誕生する

*神恵内中学校女子バレーボール部が石垣カップ後志中学校バレーボール大会で

優勝する

*リフレッシュプラザ温泉九九八浴室天井・ジャグジー浴槽改修工事完成（二月）

事業費 一〇、二五八・五千円

*第一五回原子力防災訓練の実施【二月八日】

*二二世紀への扉を開く 神恵内村総合振興計画完成する

業務委託料 三、九五〇・五千円

*川白地区観光漁業ターミナル整備工事完成（三月）

事業費 三〇、六六〇千円

トイレ棟 鉄筋コンクリート造 面積二一・七五²m



駐車場 面積一三三・七㎡他

* 後志オーブン卓球選手権大会一般の部に出場の後志内中学校二年生の岡田はるかさんと福土佐智子さんがシングルス、ダブルスとも制する活躍

四有珠山噴火する 未曾有の大被害発生する

四泊発電所三号機増設に係る「道民の意見を聞く」が開催される(三月)

* 神恵内中学校スポーツ少年団が後志管内教育実践表彰を受賞する

* 地方分権推進法が四月一日から施行される

* 介護保険法が四月一日から施行される

* 温泉九九八泉源スケール除去ポーリング(四月)

事業費 一、四七〇千円 切削深度一四〇m

* 六歳未満の幼児にチャイルドシートの使用が義務づけされる

チャイルドシート購入補助金制度を創設する

* 神恵内小学校卓球スポーツ少年団が後志卓球選手権大会の男子団体・個人で活躍

躍全道大会の出場を決定する

* 村長公用車更新する

* 有珠山噴火に係る災害派遣 稲船係長・玉川係長の二名豊浦町の避難施設に派遣する

遣する

* 会長杯争奪後志中学校卓球大会で神恵内中学校女子が団体戦で完全優勝する

* 二〇〇〇年ミレニアム記念植樹祭行われる(五月二三日)

赤石山の上線道路沿い他にヤエザクラ一〇〇本植栽する



* 川白公有地造成工事が着工される (五月一日)

観光スポットとしての機能を有した駐車場及び公園広場、災害発生時の避

難場所などに利用される 面積七、七〇〇㎡

* 元神恵内村消防団副団長 松屋淳一氏勲六等単光旭日章受賞する

【五月二六日伝達】

* 神恵内中学校女子バレーボール部が後志中学校春季バレーボール選手権大会で優勝する

* 元神恵内村議会議員(故) 村田敏一氏が勲六等単光旭日章受賞する

【六月一四日伝達】

* 岩宇植樹祭 トーマル地区にトドマツ、ナナカマド等一五五本植樹(六月二日)

* 衆議院議員総選挙執行される【投票率七九%】

* 漁村センター改修工事完成(七月)

事業費 一〇、八六七・五千元 屋上防水、外部階段改修他

* 活魚蓄養用センターに冷凍機一台設置される(七月)

事業費 一、三六五千元

* 岩内協会病院の新築移転について

昭和四一年に建設し三三年を経過した岩内協会病院について岩宇四町村で

総事業費の(約四〇億円)の二〇%を負担することに決定する

鉄筋コンクリート造地下二階 地上七階建

延べ床面積一三、一五一・七三㎡



* 新泉源湧出機構地質調査委託

事業費 三、〇四五千円

小川地区の冷泉を調査するも自然湧出量は毎分一〇リットル以下程度で亀裂を掘削しても推定毎分五〇リットル程度と微量であり引湯することは不可能と判断

* 神恵内村商工会が総額五〇〇万円のプレミアム商品券を発行する

* 「心の過疎を吹き飛ばせ」を合い言葉に第一四回北海道むらこん二四が第六ブロックの神恵内村で開催される（七月八日、九日）

基調講演・むらこん市場・むらこんコンサート・北海道と二四村の木植栽（ミレニアム植樹）・交流会他で二四村の関係者二八〇名参加し交流を深める

* 中国大連市回龍村との友好親善（五回目の来村となる）

董 村長一行八名（七月）

イベント参加、友好歓迎会、むらこん二四村長との交流会、村内行政視察他

* 北海道優良勤労青少年顕彰 北海道知事より一名受賞（七月一七日）

* 川白灯台新設なる（昭和六十二年台風一二号で倒壊）

* 神恵内中学校男子バドミントン個人で小倉亮くん、男子卓球部個人で森 和貴くん、女子卓球部団体が優勝し全道大会出場決定する

* 文部省委嘱事業「子供長期自然体験村」 積丹半島チャレンジキャンプ in 神

恵内が旧川白小中学校に宿泊し体験学習が行われる

* 岩宇4町村と北海道電力株式会社岩内協会病院新築に係る土地の使用貸借契



約を締結する（七月七日）

土地の所在 岩内郡岩内町字高台二〇九・二一

地目 宅地 面積 一一、九二九・三九₄m²

* 神恵内中学校女子卓球部が全国大会に出場しリーグ戦で健闘するも惜しくも敗退する

* 社会福祉法人北海道社会事業協会の岩内協会病院新築に係る土地の無償貸借を決定する

* 北海道電力株式会社にヒューマンエラー防止について要請書を提出する

【八・二】

四泊発電所放射性廃棄物処理建屋サンプタンク内において作業員が死亡する事故発生（八月一七日）

安全性の確保、事故原因の徹底究明、事故の再発防止、緊急時の医療対策等要請

* 読売新聞社が目の巡回無料検診を実施する（八月二四日）

* 神恵内村議会原子力発電所対策特別委員会が泊三号機増設計画に条件付き賛成決議する

* 岩内協会病院新築工事着工する

建築面積 三、七六八・五六₂m²

構造・階数 A棟SRC造地下一階 地上七階

B棟RC造地下一階 地上三階



* 泊発電所三号機増設に関して北海道知事と岩宇四町村長との会談実施

泊発電所という最大のエネルギー基地の地域振興対策・電源三法交付金に
関し立地村と周辺町村の格差是正等を国へ要請する

北海道知事が泊原子力発電所三号機増設計画を九月五日の臨時道議会で計画受
け入れを正式証明する

* 交通事故キャンペーン防止のため北海道警察交通機動隊の女性白バイ隊「ノー
スウィング」一行来村する

* 中国大連市回龍村へ友好訪問（九月）

若林副議長・岩澤議員・他二名訪問

大連市、長海県、回龍村行政視察他友好親善

* 保育所グラウンド改修工事完成（九月）

事業費 三、六二二・五千円

* 国勢調査が実施される（一〇月一日）

人口一、三二五人 【男六一一人・女七一四人】 世帯数五七八戸

* 神恵内九九八地区生活環境保全林整備事業六年間で完成する

保安林一〇・三ヘクタール 整備面積七・九ヘクタール

管理歩道一、七二九・一m他

* 小規模治山事業（加藤地先）完成（一〇月）

事業費 一〇、五〇〇千円 土留工二二m、水路工他

* 小規模治山事業（鷹島地先）完成（一一月）



事業費 一四、〇七〇千円 法粹工三八五²m、暗渠工他

* 赤石四号船揚場（大森地先）整備工事完成（一二月）

事業費 四、八三〇千円 コンクリート舗装 面積二八六²m

* 街路灯整備工事完成（三年計画の最終年）

事業費 四七、九八五千円

オリジナル街路灯（ナトリウム灯共架式）九〇基

赤石、珊内、川白地区整備

* 西ヶ丘二号線融雪施設設置工事完成（一二月）

事業費 二五、〇九五千円

インターロッキングブロック舗装 面積五〇七²m 電熱方式他

* ツボ石団地公営住宅建設工事完成（一二月）

事業費 七九、九〇五千円

一棟四戸 面積三二三・七〇²m 電気設備工事 機械設備工事

四泊原子力発電所建設準備事務所が設置される【H二二・一一】

国の電源開発基本計画に組み入れられる

（泊発電所三号機 出力九一万二千KW・平成二〇年営業運転開始予定）

* 道央圏地域整備展開構想推進協議会日本海南部ブロック会議が広域的な地域振興を考える「シンポジウム in 神恵内」を開催する

四泊発電所3号機増設に係る環境影響評価書の縦覧開始される

* ふるさと林道川白線開設工事完成（一二月）



事業費 三四、五四五千元 法粹工 面積三二〇・四²m他

* 小規模治山事業（木下地先）完成（一二月）

事業費 一六、六九五千元 切土、法粹工他

* 小規模治山事業（西の河原地先）完成（一二月）

事業費 四、〇九五千元 菱形金網工他

* 二〇〇〇年ミレニアムベビーが一人誕生する【平成四年の一人以来】

* 北海道市町村合併推進要綱策定

道内九三の合併パターンを示す「岩宇四ヶ町村一つのパターン」

平成一三年（二〇〇一）

* ツボ石団地公営住宅解体工事

事業費 一、〇二九千円 公営住宅一棟 面積一三二²m解体

* 第一六回原子力防災訓練の実施【二月八日】

* 全村教育講演会開催される

* 北海道電力(株)と神恵内村地域振興に関する協定書の調印【三月九日】

地域振興に関する協定書 一金 九〇〇、〇〇〇千円

漁業振興に関する協定書 一金 六五〇、〇〇〇千円

岩宇地域漁業振興に関する協定書 一金 一六二、五〇〇千円

* 神恵内村議会が全国町村議会議長会から表彰される

* 温泉九九八泉源スケール除去ボーリング（三月）



事業費 一、三五四・五千元 切削深度一四四m

* 泊発電所三号機の建設工事に係る環境の保全等に関する協定書調印する

【三月一六日】

四支庁制度検討委員会が「支庁改革に関する最終試案」を知事に答申する

【三月二九日】

* ツボ石団地公営住宅外構整備工事完成（三月）

事業費 三、〇四五千元

歩道インターロッキングブロック面積二四・七㎡

駐車場アスファルト舗装 面積六八㎡ 照明灯一基他

* 珊内漁港漁村活性化対策事業整備工事完成（三月）

事業費 二六、七七五千元

インターロッキングブロック 面積二七九㎡

アスファルト舗装 面積四二三㎡ 照明灯一基他

北海道原子力防災センター「オフサイトセンター」竣工する

四札幌弁護士会しりべし弁護士相談センター開設される

* 神恵内村長高山庸一氏後志町村会長任期満了となる（五月）

* 神恵内村商工会が総額一、〇〇〇万円のプレミアム商品券を発行する

* 後志管内市町村行財政検討会議設置される

* 川白公有地造成事業完成（五月一七日）



* 国の電子政府構想を受けてIT講習はじまる（五月～六月）

* 神泊大橋供用開始される（六月二二日）

* 参議院議員通常選挙（非拘束名簿式比例代表制が適用）【投票率七七・七五％】

* 交通事故致死ゼロ五〇〇日達成する（八月七日）

* 川白地区簡易水道量水器取替工事完成（八月）

事業費 一、一五五千元 量水器三五個

* 中国大連市回籠村へ友好親善（九月）

高山村長・林議員・稲葉議員他三名訪問

大連市回籠村との懇談会他、行政視察

* 全国アウトドアスポーツ大会開催される

* 電源立地等初期対策交付金事業を活用した漁業協同組合の製氷貯氷施設完成

（九月）

事業費 九〇、一九五千元

外壁・屋上防水改修 自動製氷設備（日産一〇トン）他

* 漁村センター暖房機改修工事完成（九月）

事業費 三、六七五千元 真空式温水器一基他

* 原子力防災訓練実施（一〇月二七日）△国が主体となって北海道原子力防災センターで実施する全国で初めての訓練▽

* 中国大連市回籠村との友好親善（六回目の来村となる）

孫団長一行六名来村（一〇月）



友好歓迎会、村内行政視察他

* 神恵内地区地域水産物供給基盤（南後志）増殖場造成事業完成（発注北海道）

事業費 六九、九三〇千円

ミスダコ産卵礁造成三・九四トシブロック三六四基他 川白漁港沖設置

* 元神恵内村議会議員 佐藤久次郎氏勲五等瑞宝章受賞する【一月六日伝達】

* ふるさと林道川白線六年の歳月かけて完成（一月）

事業費 二七、三〇〇千円 法枠工面積二八四²m他

* ツボ石団地公営住宅建設工事完成（二月）

事業費 八〇、一一五千円

一棟四戸 面積三三三・七〇²m 電気設備工事 機械設備工事他

* 村立歯科診療所に歯科治療用機器購入（ユニット・レントゲン）

* 小規模治山事業（木下地先）完成（二月）

事業費 二二、二六〇千円 切土工、法枠工他

平成一四年（二〇〇二）

* 温泉九九八泉源スケール除去ボーリング（一月）

事業費 一、四七〇千円 切削深度一七三³m

* 神恵内村長選挙高橋昌幸氏無投票当選となる（二月一九日告示・二月二四日投票）

* 交通事故致死ゼロ七〇〇日達成する（二月二二日）

* 助役米田可知昭氏退職する（二月二八日付）



四岩内協会病院竣功する（二月）

A棟 鉄骨コンクリート造地下一階・地上七階

B棟 鉄筋コンクリート造地下一階・地上三階

延べ面積一三、三七四・二二^二m

* 神恵内村長高山庸一氏任期満了となる（三月一六日）

昭和四八年二月から二九年間

* 神恵内村長高橋昌幸氏就任する（三月一七日）

* 神恵内村行政情報システム整備事業完成（三月）

電算室、電源、回線接続、ネットワークシステム他

* ツボ石団地公営住宅外構整備工事完成（三月）

事業費 二、五二〇千円

歩道インターロッキングブロック面積二三・七^二m

駐車場 面積六八^二m 照明灯他

* 住民記録システム完成、住民基本台帳ネットワークシステム整備事業完成

* 北海道青少年顕彰 北海道知事より一名受章（三月四日）

* 助役に松屋有信氏選任される（三月二八日付）

* 村立歯科診療所深井剛先生退任（四月三〇日付）

萩野 司先生診療開始（五月一日付）

四新築となった岩内協会病院開設される（四月）

* 神恵内村ホームページ運用開始（四月）



＊後志小学生卓球総合選手権大会で神恵内小学生男女大活躍

総勢一一人が全道大会に出場する

＊行政機構の一部見直しを実施（六課体制から五課体制へ）

＊下水道事業に係る住民アンケート調査実施（五月）

回収率 九六・九%

この結果、平成二〇年までの事業実施を見送ることに決定

＊神恵内村商工会が総額一、〇〇〇万円のプレミアム商品券を発行する

＊珊内地区簡易水道量水器取替工事完成（六月）

事業費 二、五二〇千円 量水器七三個

＊元神恵内村議会議員（故）小林元行氏が正六位勲五等双光旭日章の特別叙勲受賞する【九月二五日伝達】

＊神恵内地区地域水産物供給基盤（南後志）増殖場造成事業完成（発注北海道）

事業費 六九、九三〇千円

ミズダコ産卵礁造成三・九四トンプロック三三七基他 川白漁港沖設置

＊川白一号（オネナイ地区）船揚場整備工事完成（九月）

事業費 一三、一〇七千円 擁壁工、転落防止柵他

＊第三回村議会定例会で前村長高山庸一氏が名誉村民（第四号）として決定される（九月一八日）

＊教育長佐藤寿昭氏任期満了となる（平成一四年九月三〇日付）

＊教育委員会委員の任命 教育委員（委員長）に米田眞一氏選任される



(一〇月一日付)

* 神恵内診療所ボイラー設置工事完成(一〇月)

事業費 一三、四四〇千円 温水ボイラー(給湯用・暖房用)各一基

開村一三〇年・消防組織一二〇年記念式典並びに名誉村民顕彰式典挙行

(一一月一日)

【一三〇年記念行事】

原子力発電広報・啓発イベント事業「第二四回・沖揚げまつり」開

催(七月一日)

親子スキューバダイビングキャンプかもえない

(七月二〇日～二二日)

わんぱく海の子キャンプかもえない(八月五日～十一日)

ほくでんふれあいイベント文化後援会 京 唄子さんを迎えて開催

される(一〇月二日)

記念誌「愛郷かもえない」を刊行

消防組織一二〇年の歴史



年	代	こ	と	が	ら
明治一五年	五月	私設消防組設立			
二八年	八月 一日	公設消防組認可			
三三年	四月	フランス式椀用ポンプ一台購入			
三八年	九月	消防機械置場を新築 四坪五合			
四二年	五月	ドイツ式椀用ポンプ一台購入			
大正 元年一〇月		消防機械置場を四坪増築 八坪五合となる			
五年一一月		旧機械置場をとりこわし新築			
昭和 四年 八月		手引きガソリンポンプ一台購入			
六年 五月		消防機械置場を役場庁舎横に移築			
八年 五月		北井 長作氏よりエスエム式二五馬力ガソリンポンプ一台の寄贈を受ける			
一四年 四月 一日		神恵内村消防組を神恵内村警防団に改編			
一三年 四月 一日		消防組織法公布により神恵内村警防団を神恵内村消防団に改編、二分団体制を施行（団員一〇名）			
二六年 四月 一日		条例改正（団員九〇名）			
二八年 二月		消防ポンプ自動車一台購入			
二九年一〇月二〇日		神恵内村第二消防格納庫木造平屋建九坪新築			
三三年 二月		小型動力ポンプ一台購入（芝浦一五馬力）	第二分団		川白
三四年 五月		小型動力ポンプ一台購入（芝浦一五馬力）	第一分団		赤石
三五年 三月		小型動力ポンプ一台購入（芝浦一五馬力）	第二分団		珊内
三五年 七月		小型動力ポンプ一台購入（芝浦一五馬力）	第一分団		

昭和四〇年	九月一〇日	消防ポンプ自動車一台更新（日産一三〇馬力）第一分団 消防車庫を解体し同敷地内に役場庁舎と消防庁舎を建設
四三年		
四四年	五月三〇日	同竣工
四五年	五月二二日	北海道消防協会長より竿頭授受賞
	一〇月三一日	防火貯水槽二基設置（四〇逢）第二分団
四九年	四月一日	岩内・寿都地方七ヶ町村で、消防一部事務組合を設立し、常備化を図る 神恵内村消防団を岩内・寿都地方消防組合神恵内消防団と改称（団員九〇名） 岩内・寿都地方消防組合消防署神恵内分遣所設置（職員三名）
	五月五日	川白子供会少年消防クラブが発足
	七月二二日	北海道消防協会長より珊内小中学校児童生徒会が優良子供会表彰受賞
五〇年	六月二六日	北海道消防協会長より川白子供会少年消防クラブが優良子供会表彰受賞
	九月一日	小型動力ポンプ付積載車一台購入（トヨタハイエース、芝浦三八馬力）
	一〇月二九日	北海道知事より竿頭授受賞
	一一月二九日	消防施設整備により新消防庁舎鉄骨二階建 延二六四・四七四 ^m 新築
五一年	一月二二日	小型動力ポンプ一台廃棄 第二分団 川白
	八月一九日	小型動力ポンプ一台購入（芝浦B2級四五馬力）第二分団 川白
	一一月三〇日	第二分団川白消防格納庫鉄骨造二階建 延五一・八四 ^m 新築
五二年	二月四日	小型動力ポンプ一台廃棄 第二分団 珊内
	三月三日	日本消防協会長より竿頭授受賞
	八月二〇日	小型動力ポンプ一台購入（芝浦B2級四五馬力）第二分団 珊内
	三〇日	第二分団珊内消防格納庫鉄骨造二階建 延六四・八 ^m 新築

昭和五二年	一月二六日	小型動力ポンプ一台廃棄 第一分団 赤石
五三年	五月 八日	神恵内村第二消防格納庫木造平屋建九坪廃止
	七月 七日	小型動力ポンプ一台購入(芝浦B2級四五馬力) 第一分団
	八月二〇日	防火貯水槽一基設置(四〇逢) 第一分団
	一〇月 一日	条例改正(団員八〇名)
	一一月三〇日	第一分団消防格納庫鉄骨造平屋建 延九六・八九m新築
五四年	九月二〇日	神恵内分遣所普通ポンプ自動車(CD型)一台購入(A2級一四五馬力)
	一〇月二二日	消防専用超短波無線電話装置設置 基地局一基 固定局一基 移動局三台、携帯二台
五五年	一月 五日	神恵内村長より表彰状受賞
	一〇月二八日	北海道知事表彰受賞
五六年	四月二六日	常備職員一名増員(四名)
	一〇月 一日	条例改正(団員七七名)
五八年	四月 一日	条例改正 岩内・寿都地方消防組合消防署神恵内分遣所を岩内・寿都地方消防組合消防署神恵内支署に改称
	五月三〇日	小型動力ポンプB3級一台廃棄
五九年	一〇月 一日	条例改正(団員七〇名)
六一年	六月三〇日	小型動力ポンプB3級一台廃棄
	九月 三日	神恵内支署に水槽付消防ポンプ自動車一台購入(日野A2級二、〇〇〇漕)
	九月二一日	普通消防ポンプ自動車一台廃棄(日産六八〇型A2級)
	一七日	普通ポンプ自動車(CD型)配置変(支署より団へ)
六二年	九月二一日	小型動力ポンプ付積載車(ディーゼル三〇〇cc) 第二分団 珊内

昭和六二年一〇月二日	条例改正（団員六〇名）
平成元年一月二三日	小型動力ポンプ付積載車一台廃棄（トヨタハイエース）
九月二七日	小型動力ポンプ付積載車（ディーゼル三五六七cc、一一〇馬力）第一分団配置
四年四月一日	神恵内村婦人防火クラブ設立（会員一二八名）
七月二日	神恵内支署に消防用無線（携帯）五W二台増設
一月三日	私設消防組が組織されてから一一〇年記念式典
五年六月二日	北海道消防協会長より表彰旗受賞
六年四月一日	常備職員一名増員（五名）
八年九月三〇日	神恵内支署に消防用無線（携帯）五W二台増設
一〇月一日	消防用無線（携帯）一〇W二台増設廃棄
八年一月一日	積丹半島開通（国道二二九号）に伴い神恵内支署に救助器具一式購入
九年五月二四日	川白小中学校閉校に伴い川白子供会少年消防クラブ解散
一〇年三月二五日	消防専用超短波無線機、基地局（第一装置）一台更新
一年五月二〇日	消防専用超短波無線機、基地局（第二装置）一台更新
七月二三日	消防専用超短波無線機、基地局（第三装置）一台更新
八月二日	条例改正（団員五五名）
一〇月一日	条例改正（団員五〇名）
一四年一〇月一日	私設消防組が組織されてから一二〇年記念式典
一月一日	

編集後記

私たちの郷土神恵内村に戸長がおかれてから一三〇年、私設消防組が組織されてから一二〇年の記念すべき節目の年を迎えました。

場所請負人時代から風雪に耐え、にしん漁業を中心に築き上げてきた先人のご労苦に対して改めて感謝し、その偉大さに頭が下がる思いであります。

このたび、開村一三〇年記念事業の一環として記念誌の作成を担当させて頂きましたが、今回の記念誌は開村一二〇年（平成四年）に発行以後の一〇年間を追加して編集致しました。

普段の仕事の合い間の中で資料を見ながら、またパソコンに打ち込みながらの作業でありましたので、まだまだ後世に残していくための資料としては不足しているものが多々あるとは思いますが、神恵内村が現在まで生きてきた歴史の軌跡を「今は昔」として認識していただき、神恵内村で生活している方々が今を大事に暮らしてほしいと念願しております。

大変お忙しい中昔話を熱く語っていただきました方々には心より感謝申し上げます。

大変ありがとうございました。

平成一四年一月

神恵内村役場 松屋有信

戸長設置一三〇年
消防組織一二〇年 記念

愛郷 かもえない

発行 平成十四年十一月

発行所 神 恵 内 村

編集者 高 昌 幸

神恵内村長

印刷 岩内町 奈良 印刷